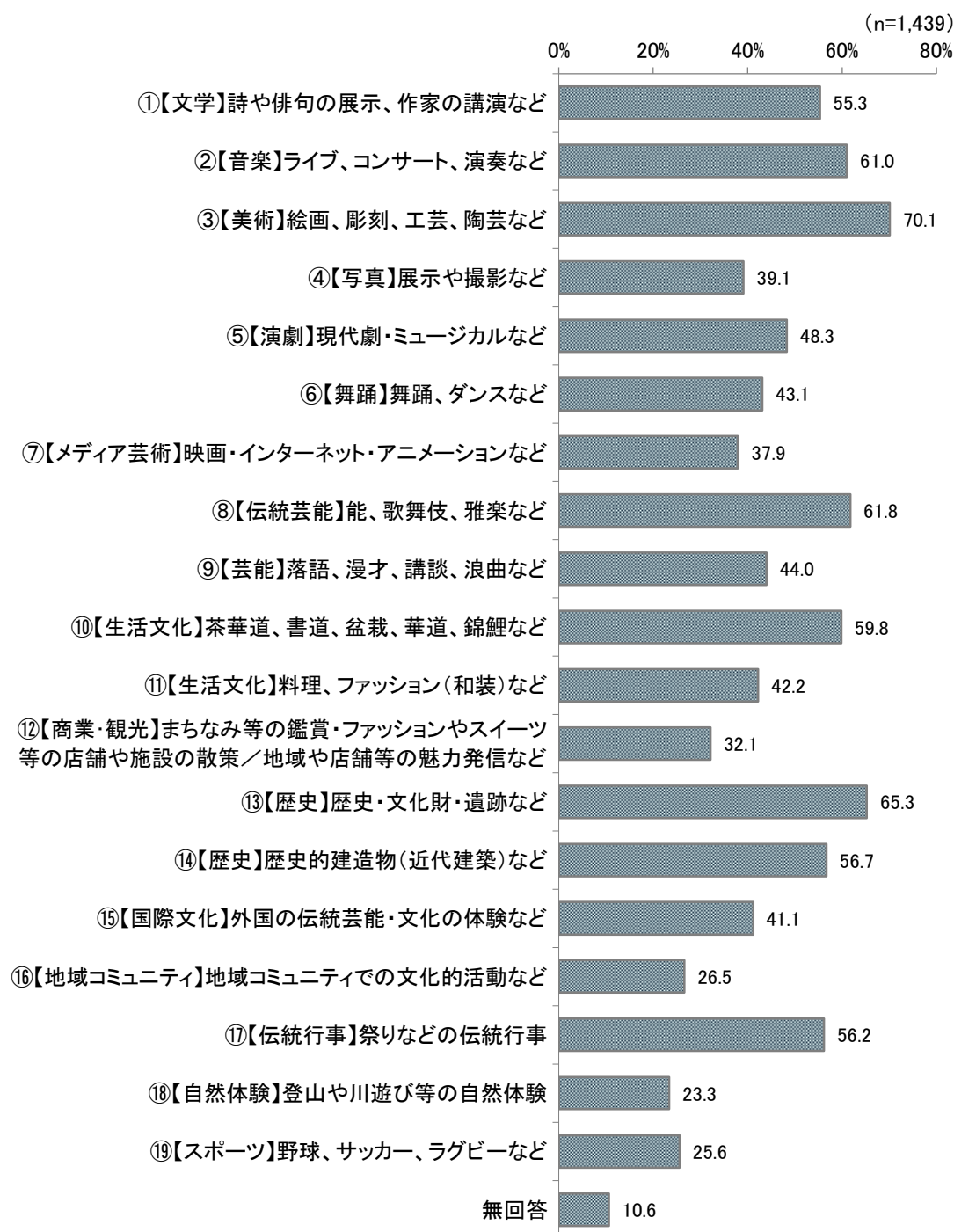


6. 文化的なふれあいや学び、市民参画について

(1) 問 40 「文化」という言葉に対してイメージするもの

「③【美術】絵画、彫刻、工芸、陶芸など」の割合が最も高く 70.1%となっている。次いで、「⑬【歴史】歴史・文化財・遺跡など（65.3%）」、「⑧【伝統芸能】能、歌舞伎、雅楽など（61.8%）」となっている。

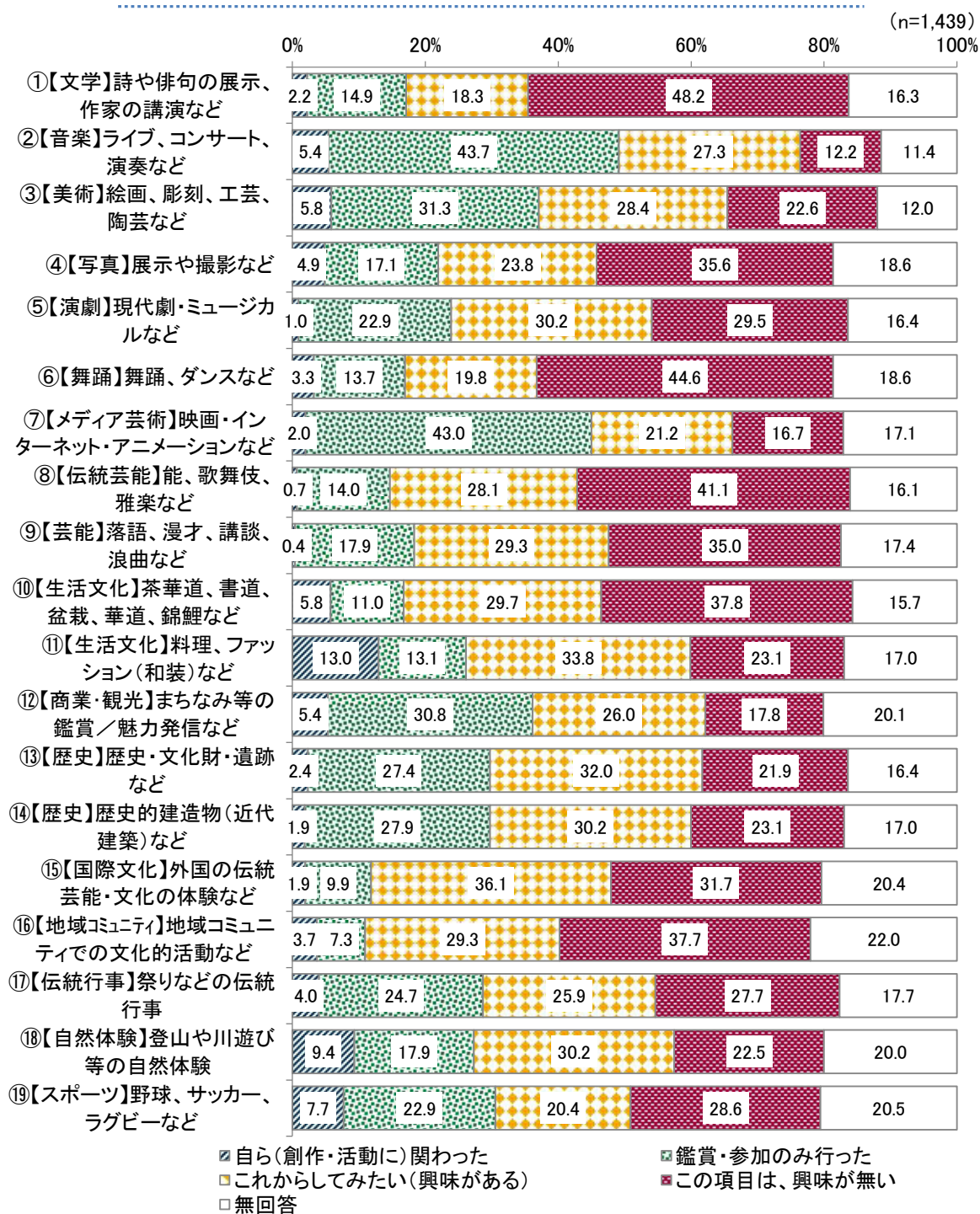
図表 II-121 「文化」という言葉に対してイメージするもの



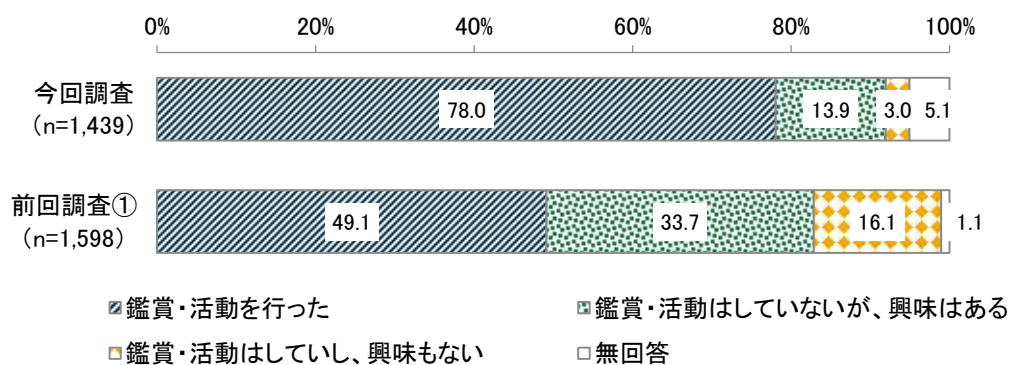
(2) 問 40 この1年間に体験や活動をした文化的なコト・モノ

「自ら（創作・活動に）関わった」と「鑑賞・参加のみ行った」の割合の合計に着目すると、「②【音楽】」における割合が最も高く 49.1%となっている。次いで、「⑦【メディア芸術】（45.0%）」、「③【美術】（37.1%）」となっている。

図表 II-122 この1年間に体験や活動をした文化的なコト・モノ



図表 II-123 この1年間に体験や活動をした文化的なコト・モノ（指標との比較）



（注）指標と比較するため、今回調査の結果について①～⑯の項目で一つでも「自ら（創作・活動に）関わった」「鑑賞・参加のみ行った」と回答した項目がある回答者は「鑑賞・活動を行った」、その他の回答者のうち①～⑯の項目で一つでも「これからしてみたい（興味がある）」と回答している項目があれば「鑑賞・活動はしていないが、興味はある」として再集計をおこなった。

(3) 問 40 この1年間に体験や活動をした文化的なコト・モノ（前回調査④との比較）

今回調査で分割された「⑩【生活文化】茶華道、書道、盆栽、華道、錦鯉など」「⑪【生活文化】料理、ファッション（和装）など」および、新設された「⑮【国際文化】外国の伝統芸能・文化の体験など」「⑲【スポーツ】野球、サッカー、ラグビーなど」を除く、15 項目の前回調査との比較結果は以下のとおりとなっている。

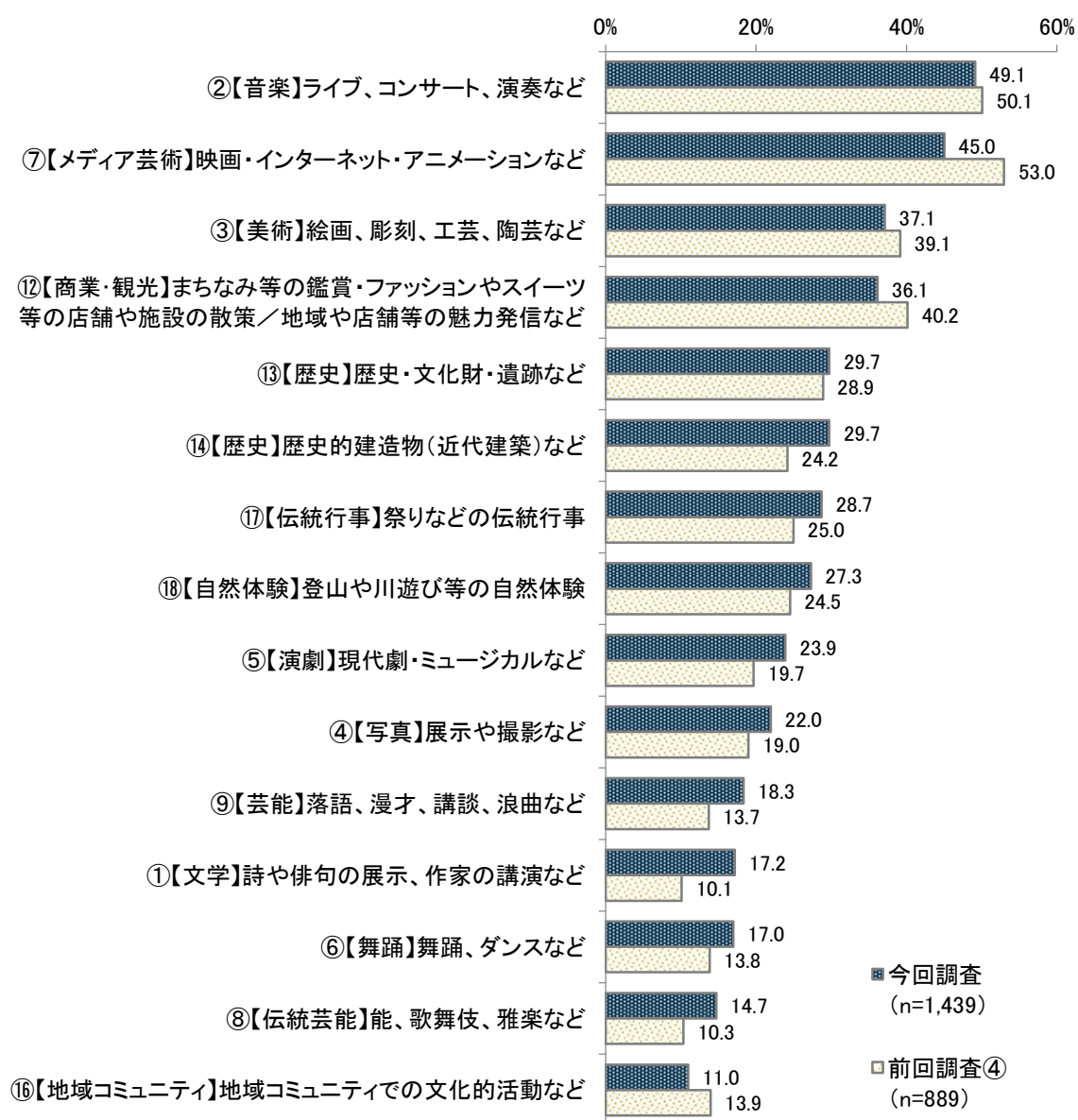
前回調査④と比較すると、「自ら（創作・活動に）関わった」「鑑賞・参加のみ行った」と回答した割合については、「⑦【メディア芸術】映画・インターネット・アニメーションなど」「⑫【商業・観光】まちなみ等の鑑賞・ファッションやスイーツ等の店舗や施設の散策/地域や店舗等の魅力発信など」の割合が低下し、「①【文学】詩や俳句の展示、作家の講演など」「④【写真】展示や撮影など」「⑤【演劇】現代劇・ミュージカルなど」「⑥【舞踊】舞踊、ダンスなど」「⑧【伝統芸能】能、歌舞伎、雅楽など」「⑨【芸能】落語、漫才、公団、浪曲など」「⑭【歴史】歴史的建造物（近代建築）など」「⑰【伝統行事】祭りなどの伝統行事」の割合が上昇している。

「これからしてみたい・興味がある」の割合については、全体的に低下している。

「この項目は、興味がない」の割合については、全体的に上昇している。

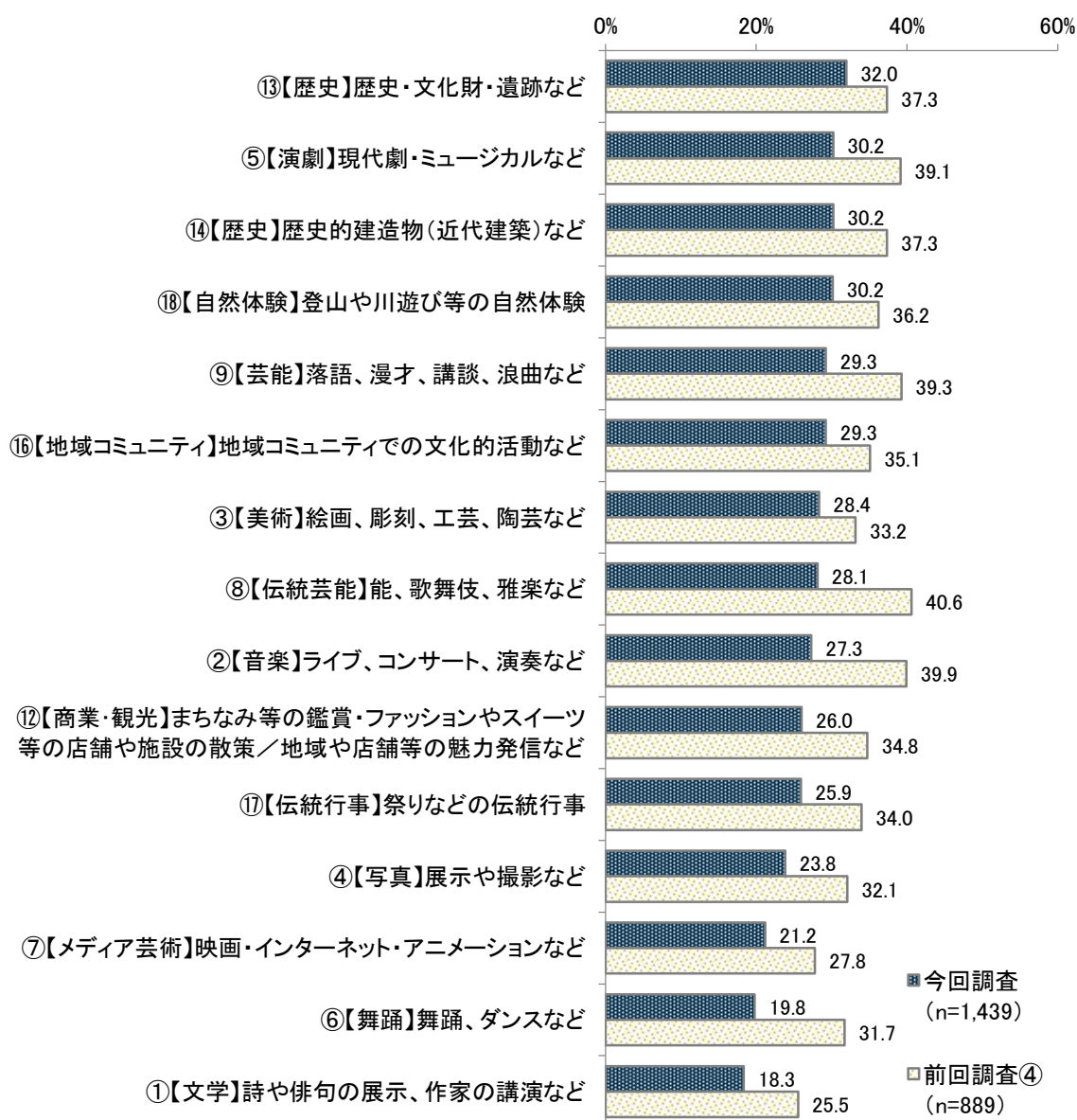
図表 II-124 この1年間に体験や活動をした文化的なコト・モノ（前回調査④との比較）

【「自ら(創作・活動に関わった)」+「鑑賞・参加のみ行った」】



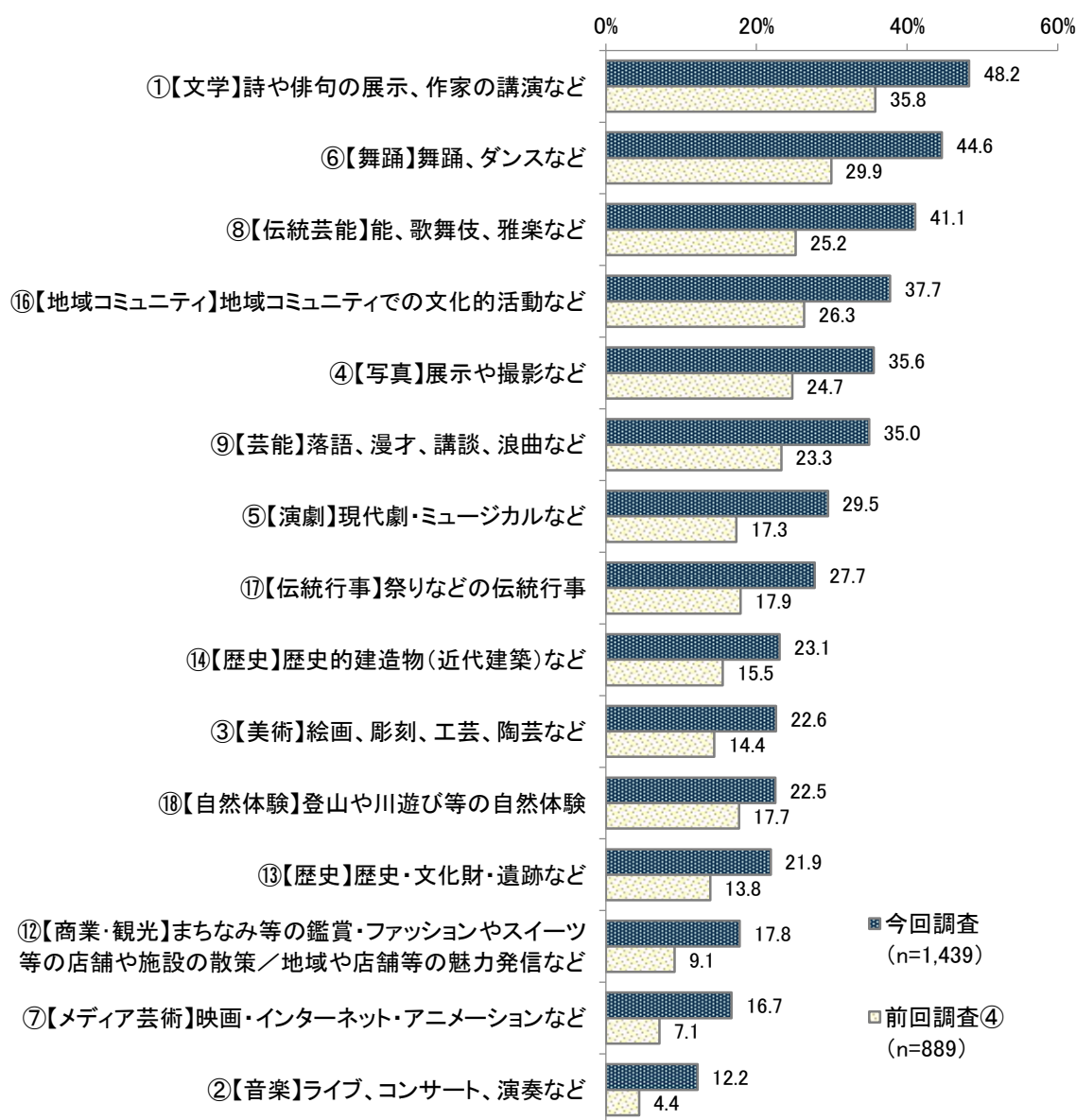
(注) 前回調査④と比較可能な項目のみを掲載している。

【これからしてみたい・興味がある】



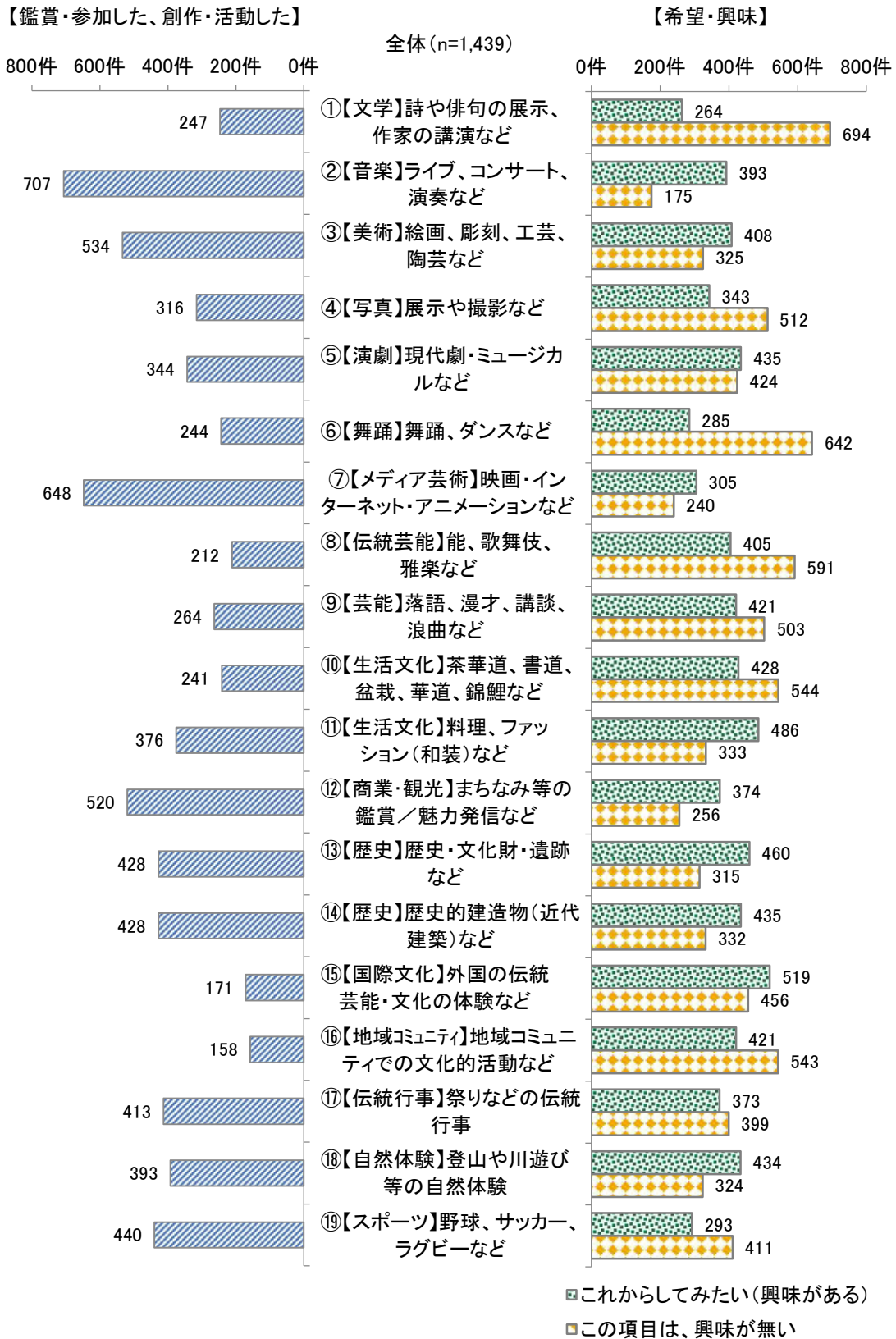
(注) 前回調査④と比較可能な項目のみを掲載している。

【この項目は、興味がない】

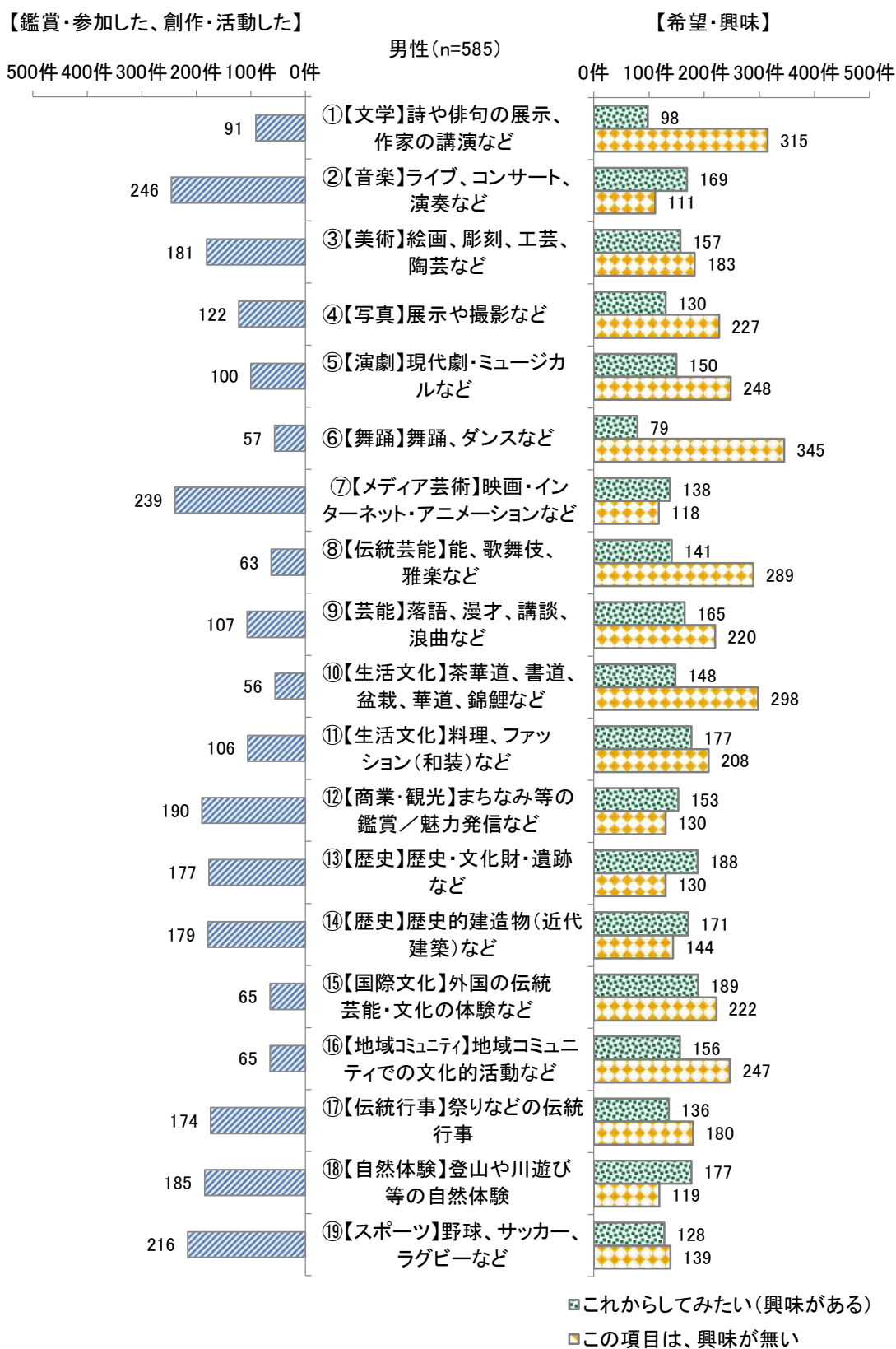


(注) 前回調査④と比較可能な項目のみを掲載している。

図表 II-125 この1年間に体験や活動をした文化的なコト・モノ（件数）



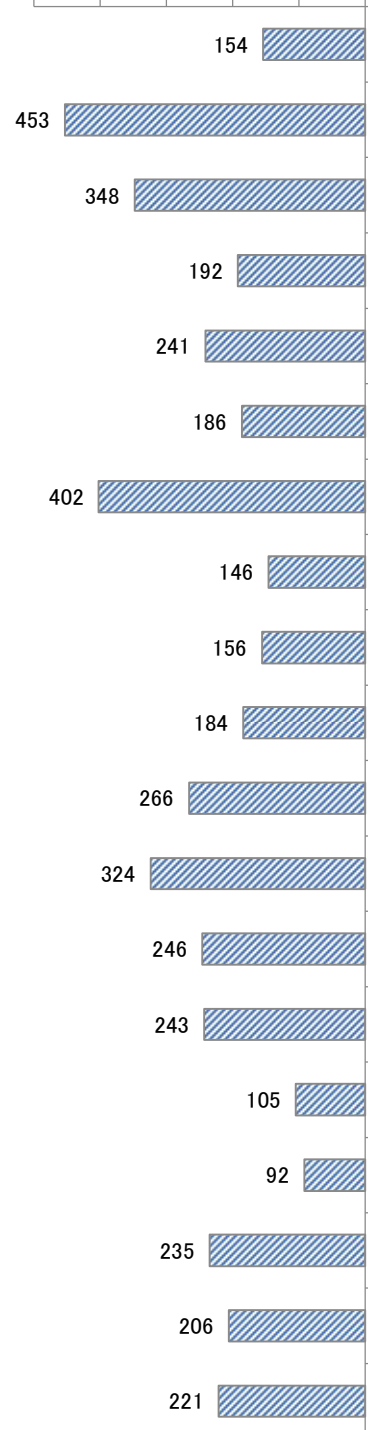
図表 II-126 この1年間に体験や活動をした文化的なコト・モノ（クロス集計）



【鑑賞・参加した、創作・活動した】

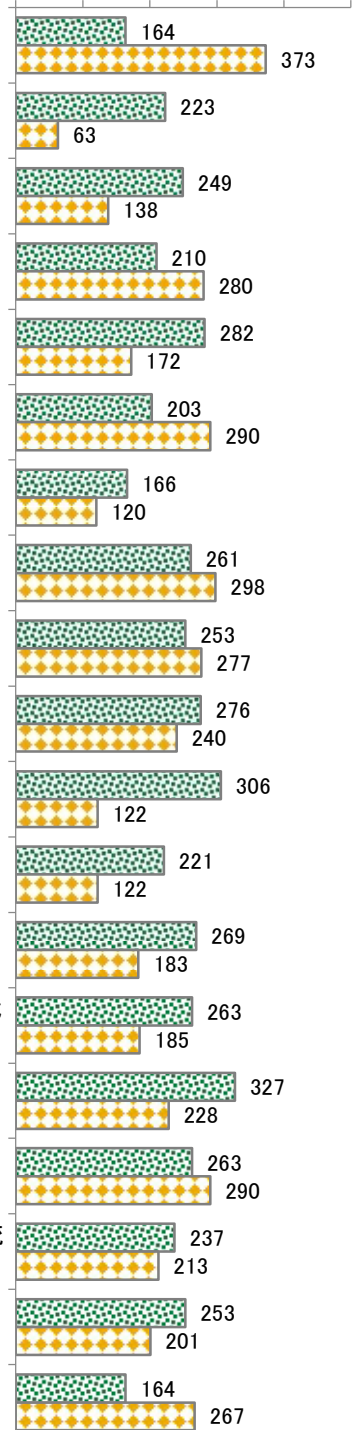
女性(n=840)

500件 400件 300件 200件 100件 0件

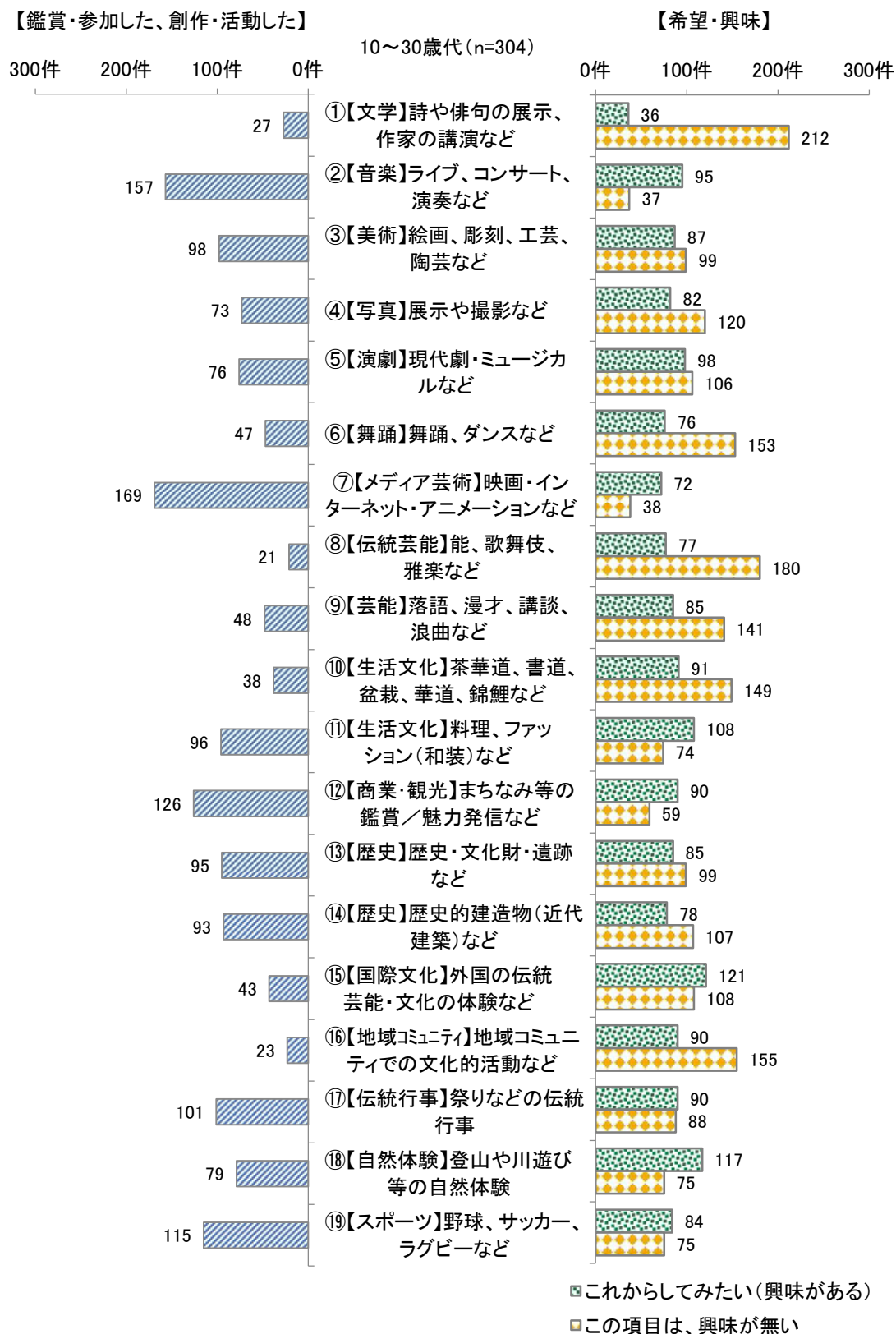


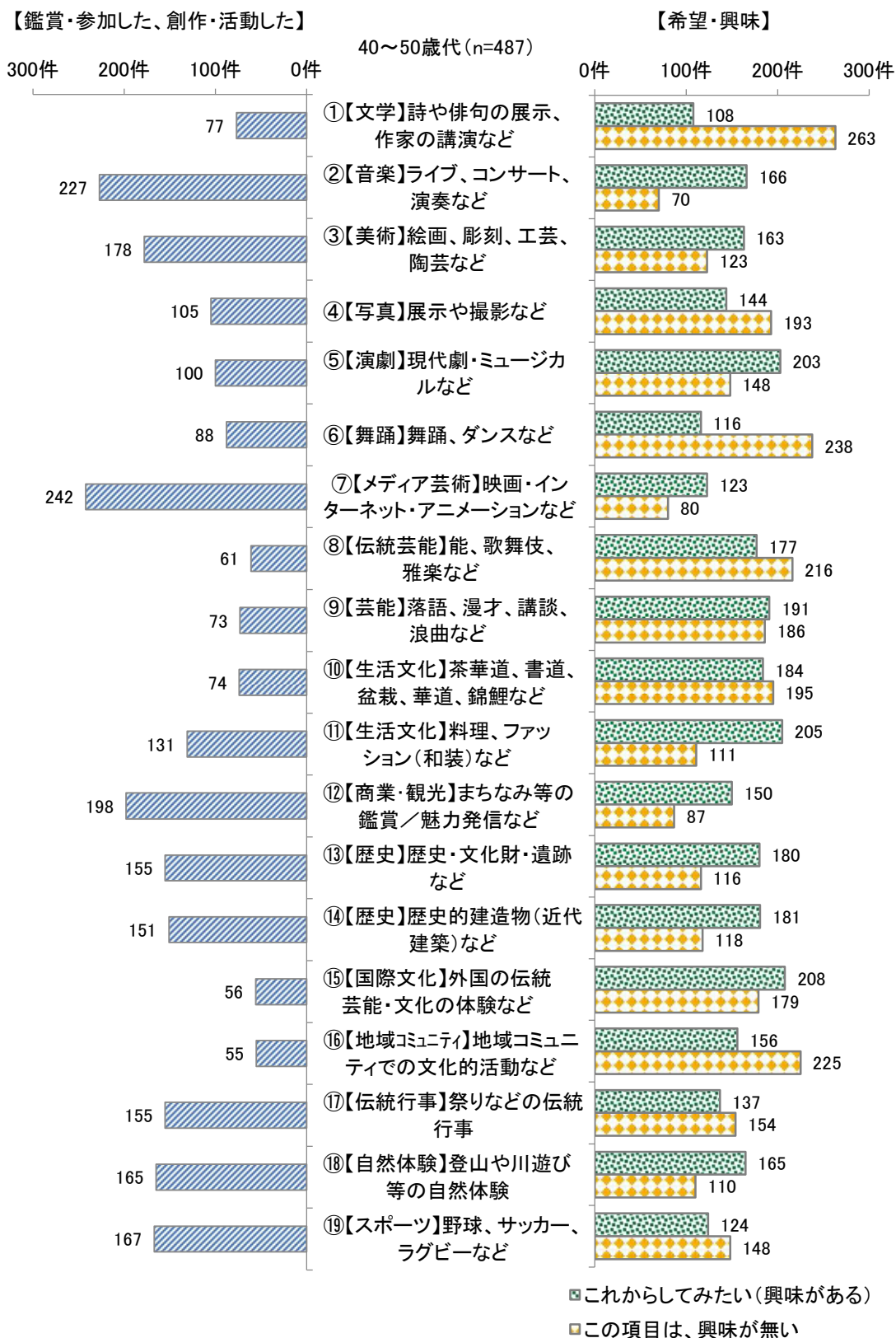
【希望・興味】

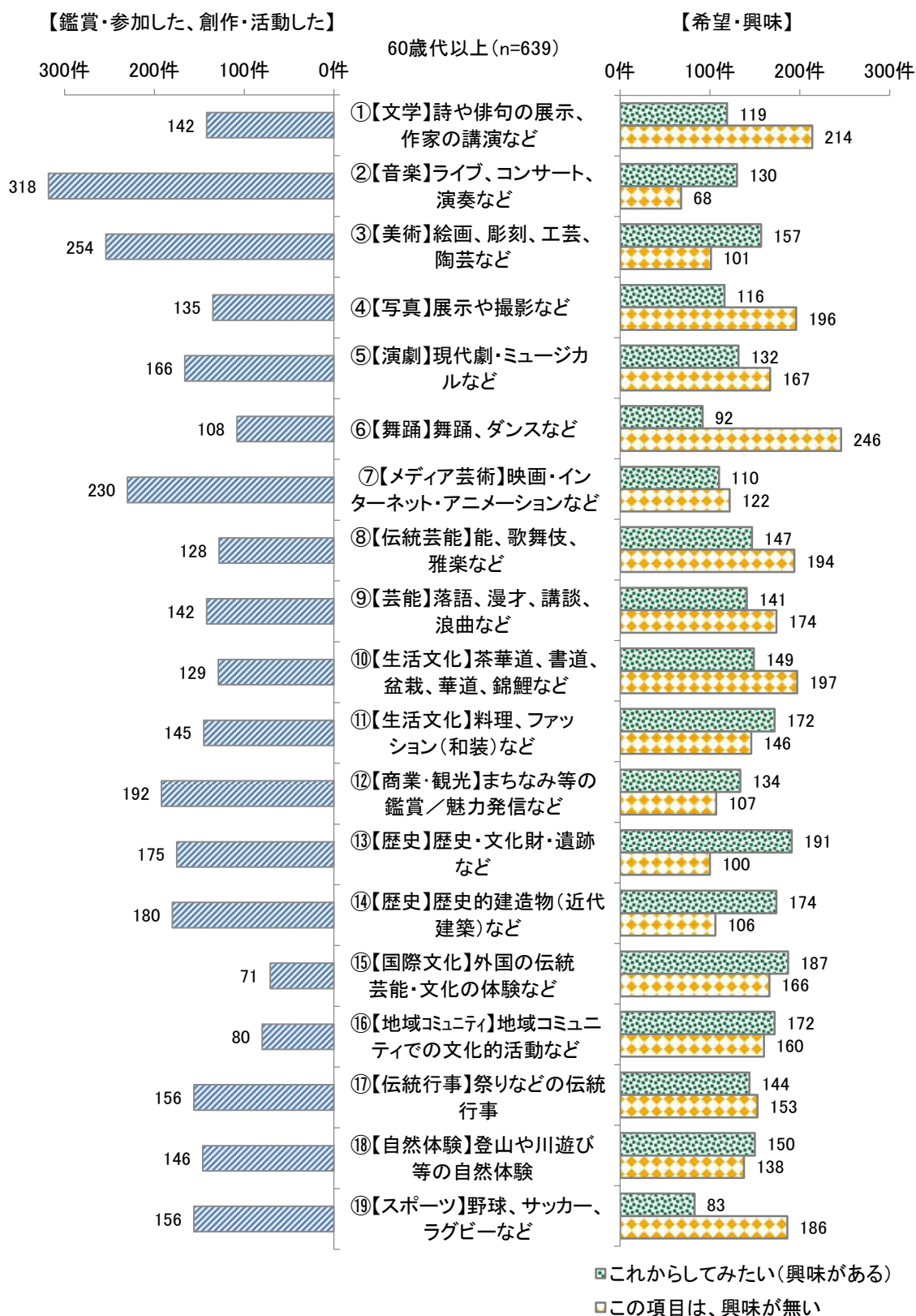
0件 100件 200件 300件 400件 500件



■これからしてみたい(興味がある)
■この項目は、興味が無い



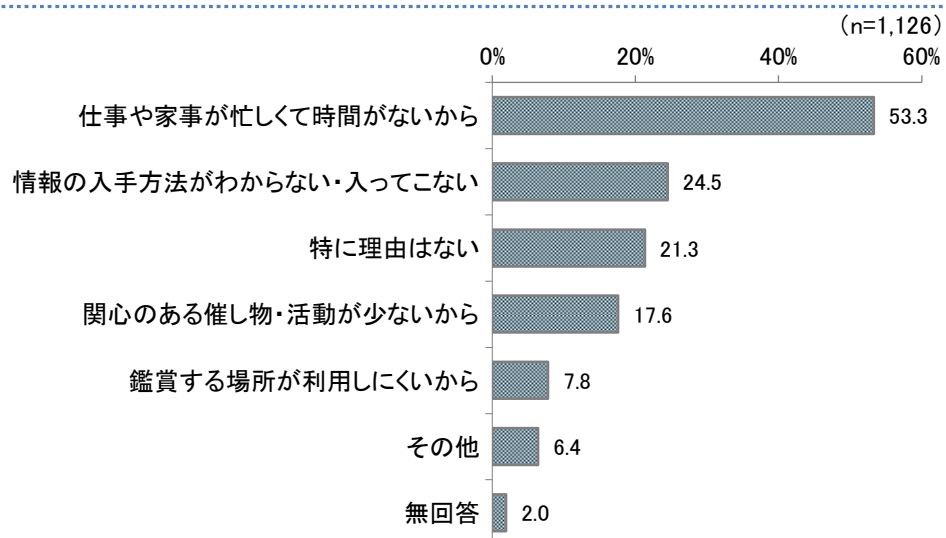




(4) 問 41 「これからしてみたい」と回答した項目ができなかった主な理由（複数選択）

「仕事や家事が忙しくて時間がないから」の割合が最も高く 53.3%となっている。次いで、「情報の入手方法がわからない・入ってこない（24.5%）」、「特に理由はない（21.3%）」となっている。

図表 II- 127 「これからしてみたい」と回答した項目ができなかった主な理由

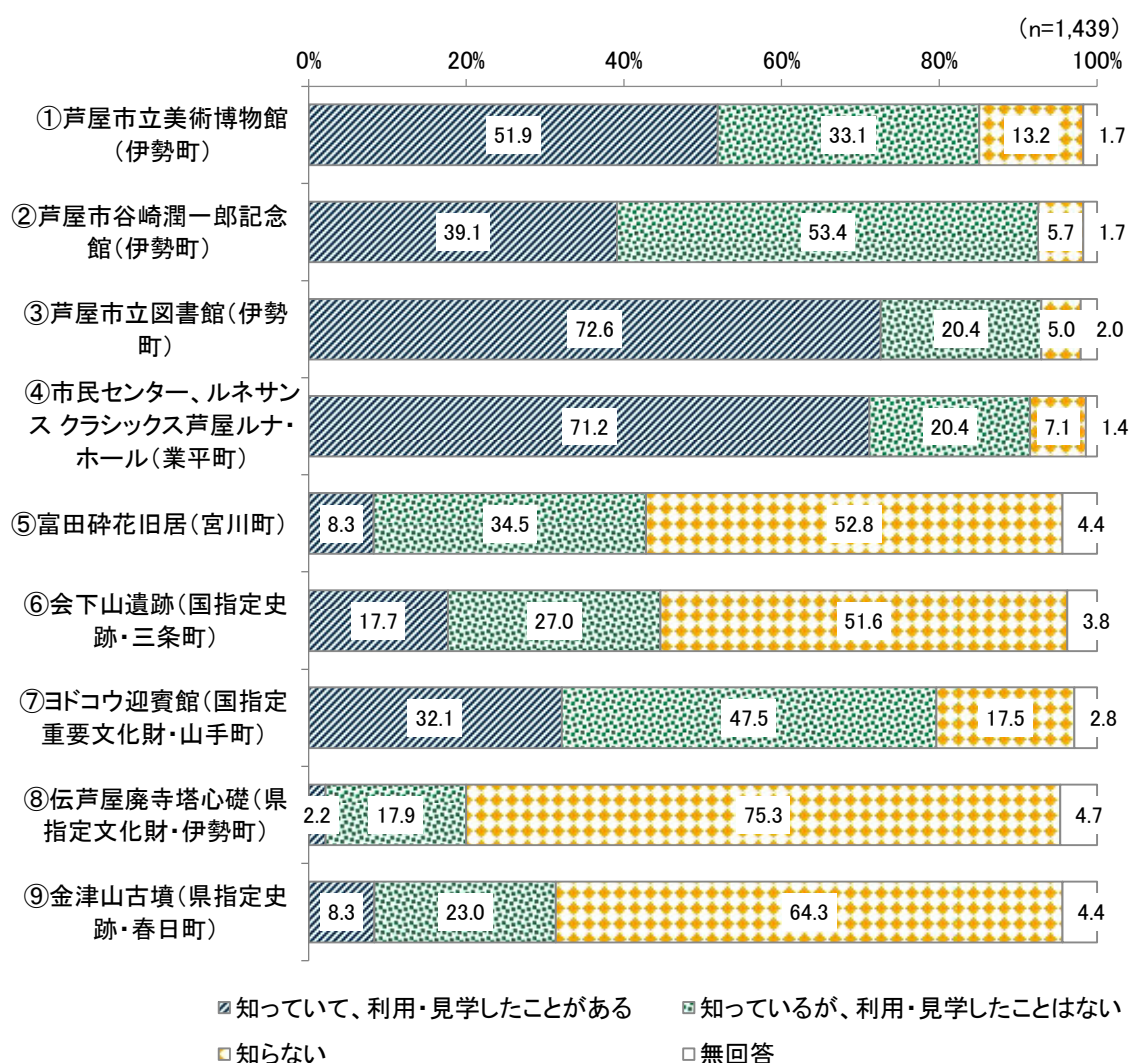


(5) 問 42 芦屋市の文化的資源の認知度

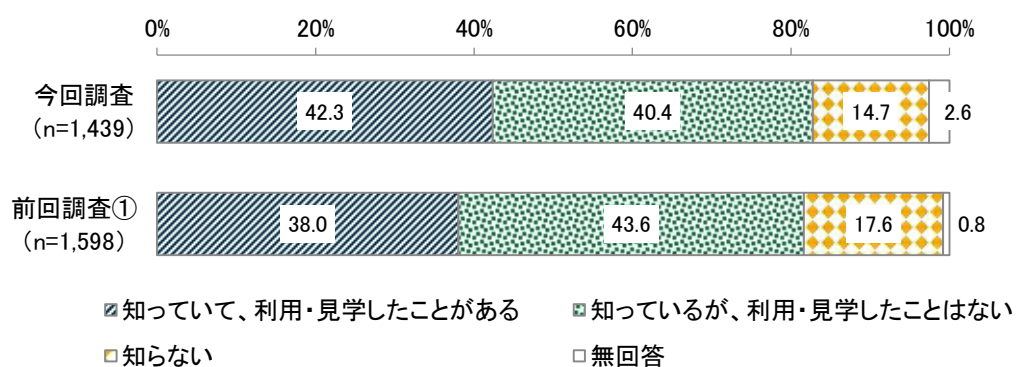
「知っている、利用・見学したことがある」と「知っているが、利用・見学したことはない」の割合の合計に着目すると、「③芦屋市立図書館（伊勢町）」における割合が最も高く 93.0%となっている。次いで、「②芦屋市谷崎潤一郎記念館（伊勢町）（92.5%）」、「④市民センター、ルネサンス 芦屋ルナ・ホール（業平町）（91.6%）」となっている。

「知らない」の割合に着目すると、「⑧伝芦屋廃寺塔心礎（県指定文化財・伊勢町）」における割合が最も高く 75.3%となっている。次いで、「⑨金津山古墳（県指定史跡・春日町）（64.3%）」、「⑤富田碎花旧居（宮川町）（52.8%）」となっている。

図表 II- 128 芦屋市の文化的資源の認知度



図表 II- 1 2 9 芦屋市の文化的資源の認知度（指標との比較）



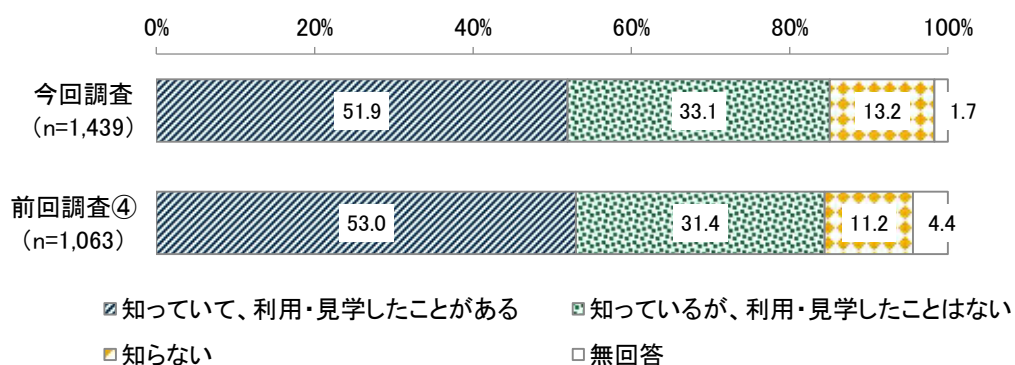
（注）指標と比較するため、今回調査の結果について⑥～⑨の項目で一つでも「知っている、利用・見学したことがある」と回答した項目がある回答者は「知っている、利用・見学したことがある」、その他の回答者のうち⑥～⑨の項目で一つでも「知っているが、利用・見学したことはない」と回答している項目があれば「知っているが、利用・見学したことはない」として再集計をおこなった。

① 芦屋市立美術博物館（伊勢町）

「知っていて、利用・見学したことがある」が 51.9%で最も高く、次いで、「知っているが、利用・見学したことはない」が 33.1%「知らない」が 13.2%となっている。

前回調査④と比較すると、大きな変化は見られない。

図表 II- 130 芦屋市立美術博物館

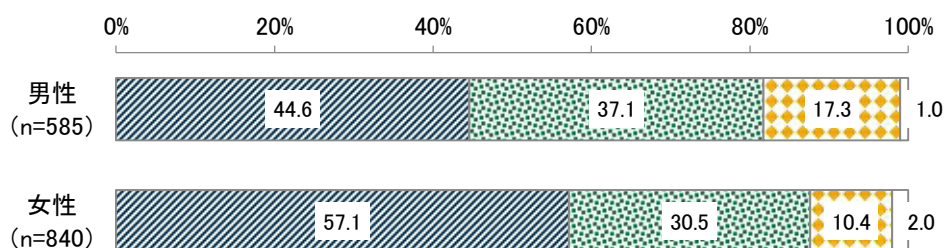


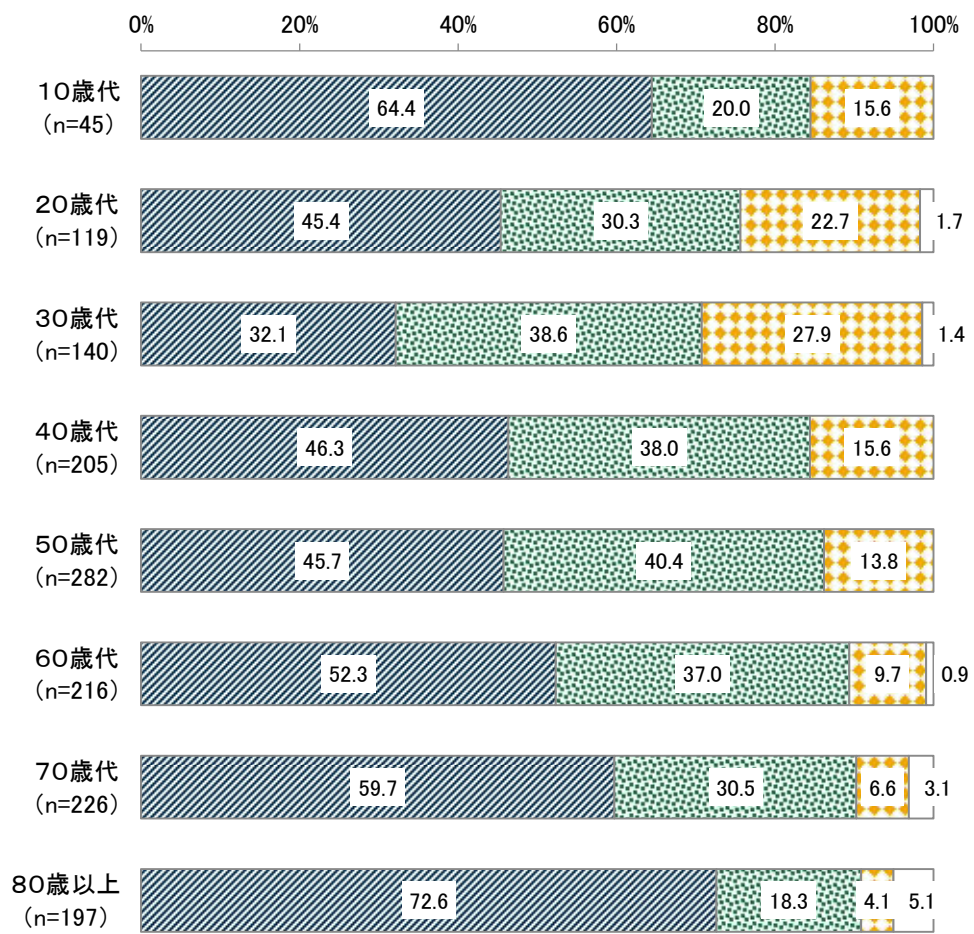
女性は男性よりも「知っていて、利用・見学したことがある」割合が高くなっている。

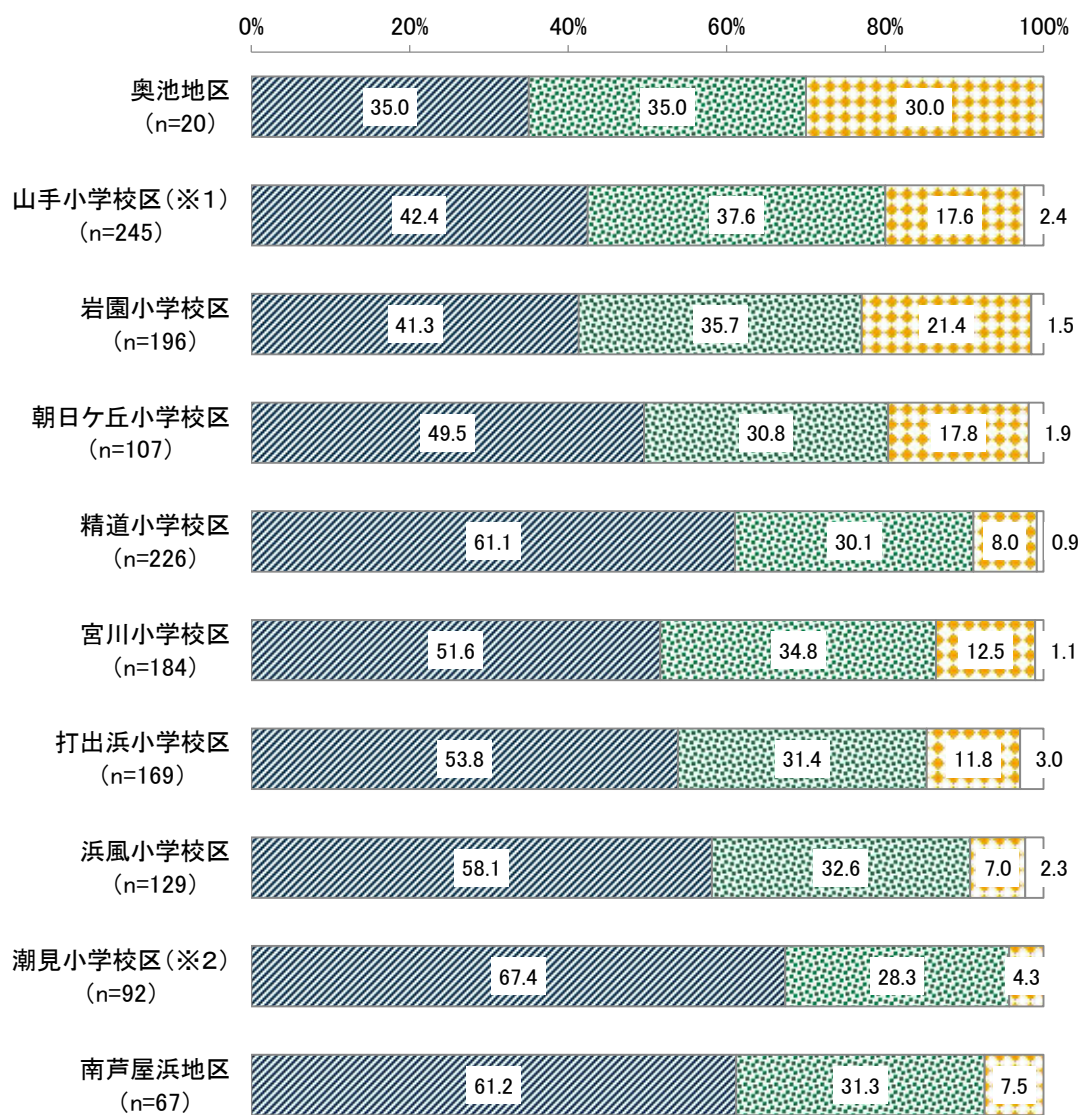
年代別にみると、30 代は他の年代と比較して「知っていて、利用・見学したことがある」割合が低く、「知らない」割合が高くなっている。

地区別にみると、「潮見小学校区」は他の地区と比較して「知らない」の割合が低く、「知っていて、利用・見学したことがある」割合が高くなっている。

図表 II- 131 芦屋市立美術博物館（クロス集計）

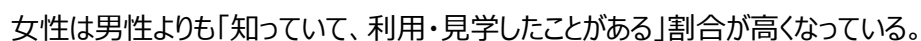






「知っているが、利用・見学したことはない」が 53.4%で最も高く、次いで、「知っていて、利用・見学したことがある」が 39.1%「知らない」が 5.7%となっている。

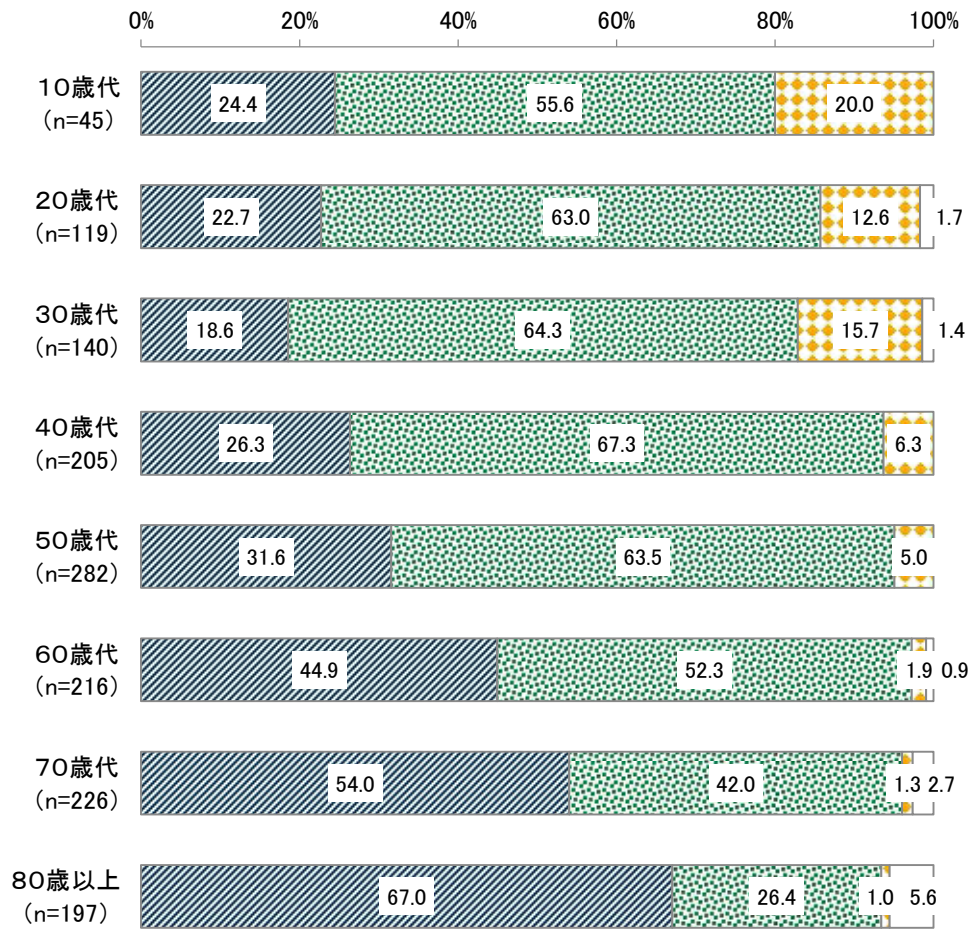
図表 II-132 芦屋市谷崎潤一郎記念館

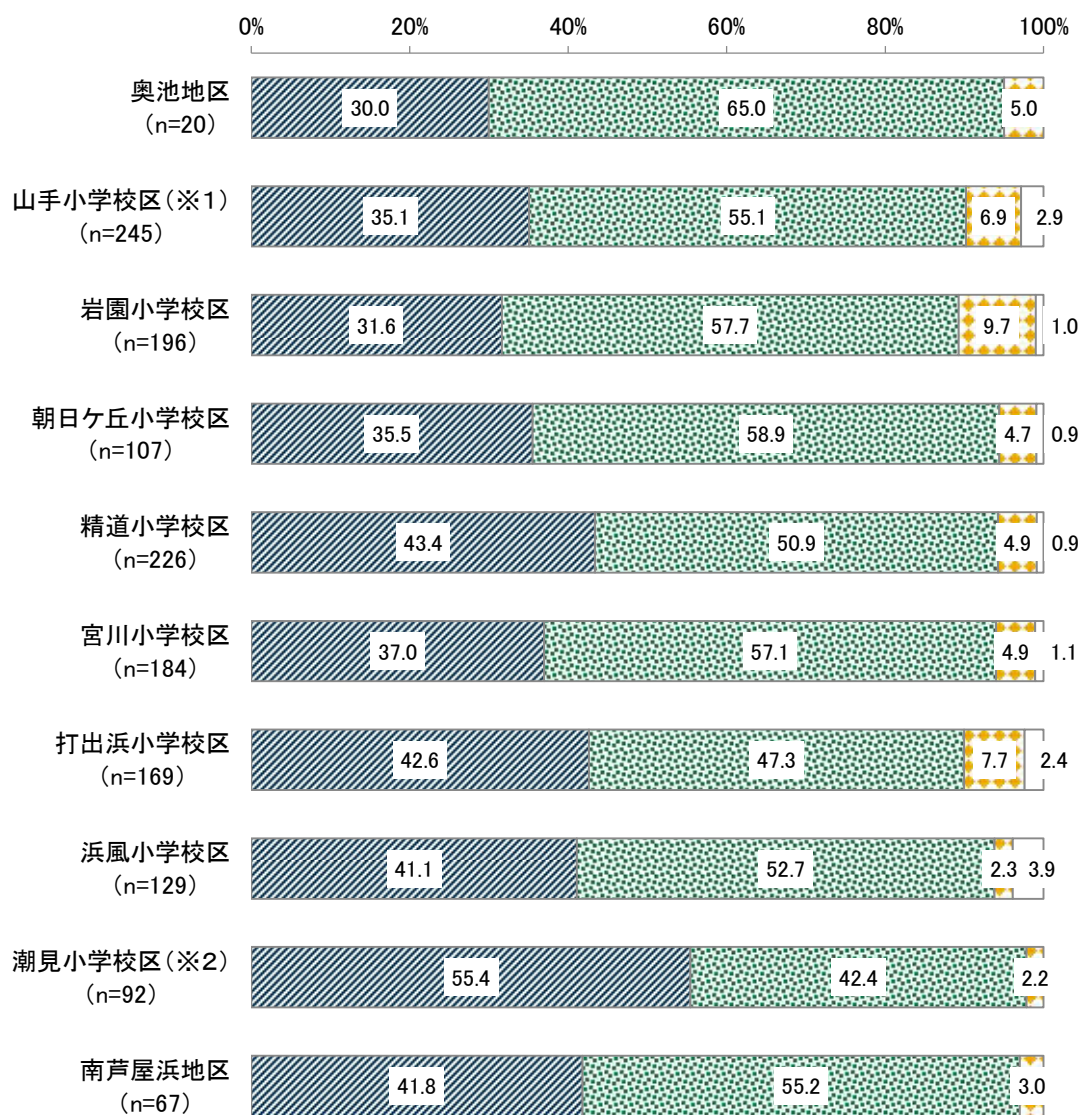


年代別にみると、30代は他の世代と比較して「知っていて、利用・見学したことがある」割合が低くなっている。

図表 II-133 芦屋市谷崎潤一郎記念館（クロス集計）





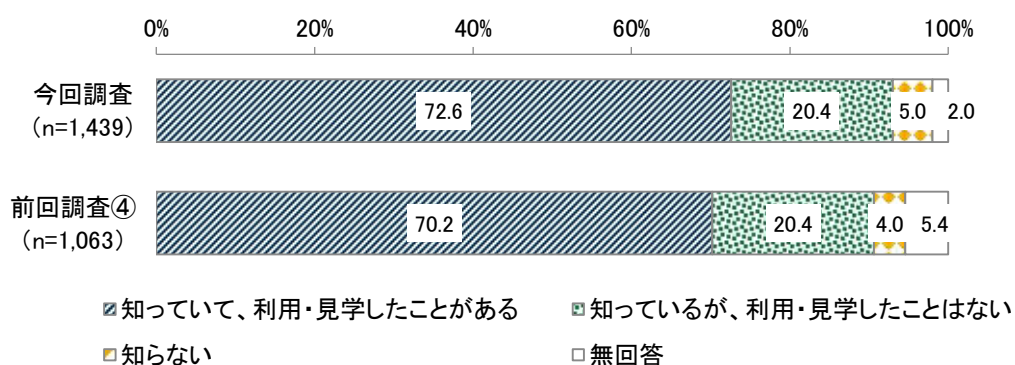


③ 芦屋市立図書館（伊勢町）

「知っていて、利用・見学したことがある」が 72.6%で最も高く、次いで、「知っているが、利用・見学したことはない」が 20.4%「知らない」が 5.0%となっている。

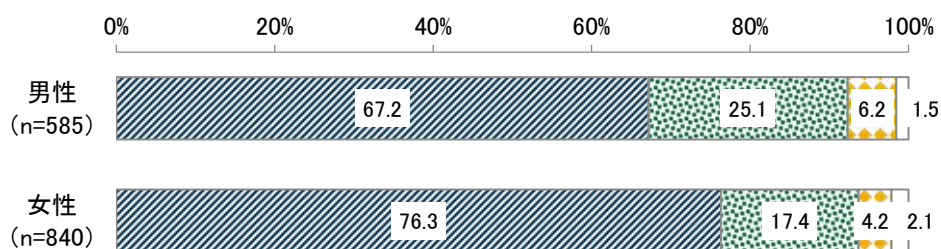
前回調査④と比較すると、大きな変化は見られない。

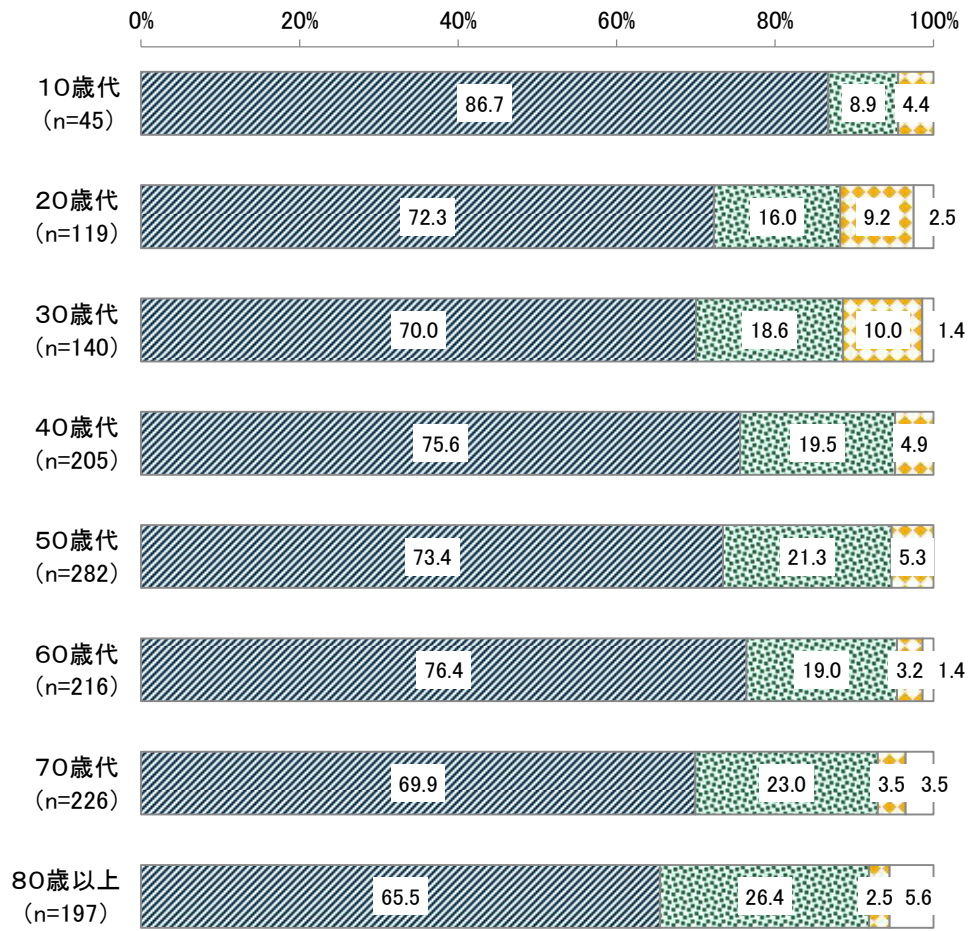
図表 II-134 芦屋市立図書館

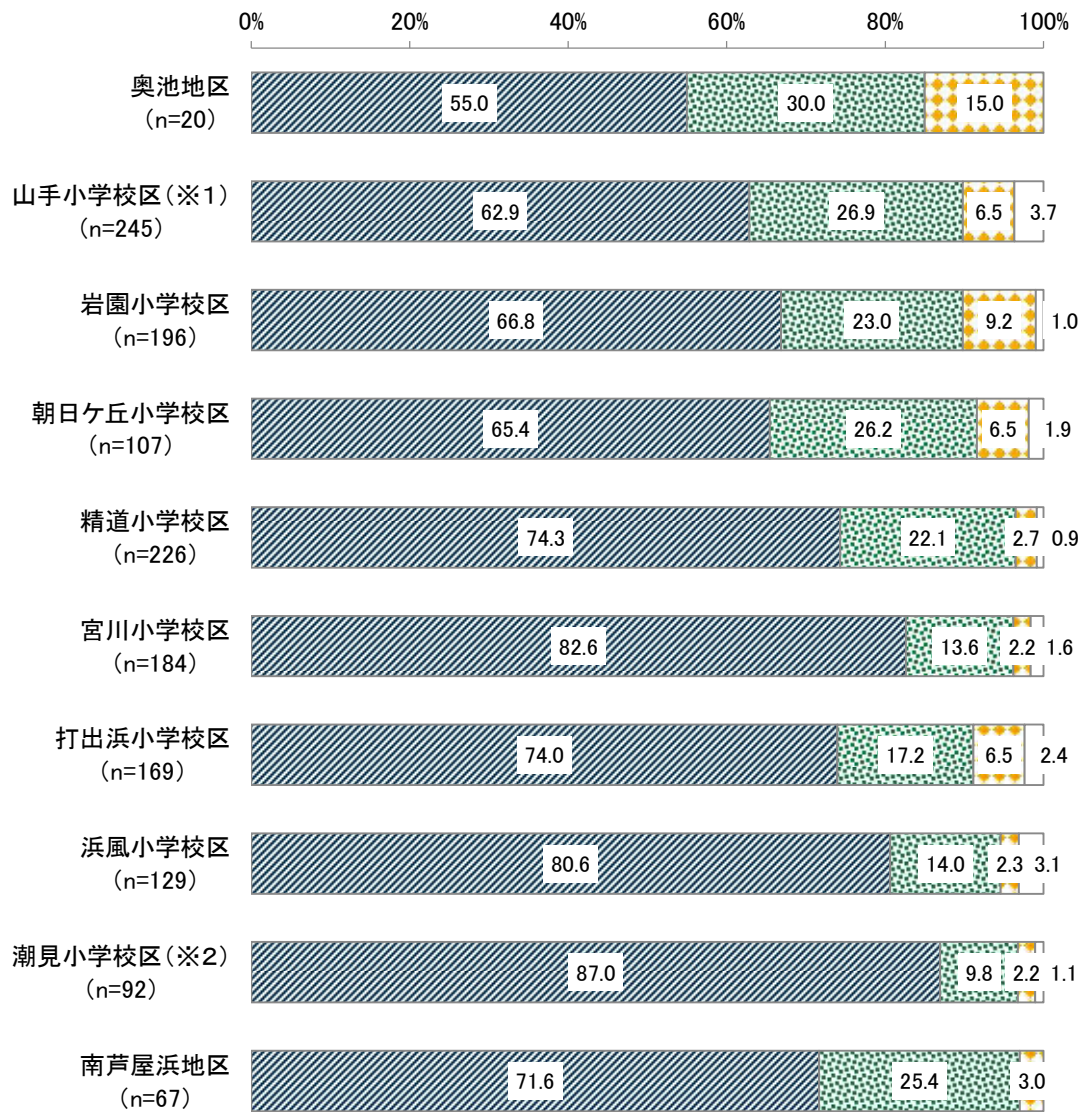


女性は男性よりも「知っていて、利用・見学したことがある」割合が高くなっている。
 年代別にみると、10代は他の年代と比較して、「知っていて、見学したことがある」割合が高くなっている。一方で、80歳以上は「知っていて、見学したことがある」割合が低くなっている。
 地区別にみると、「潮見小学校区」は、他の地区と比較して「知っていて、見学したことがある」割合が高くなっている。

図表 II-135 芦屋市立図書館（クロス集計）





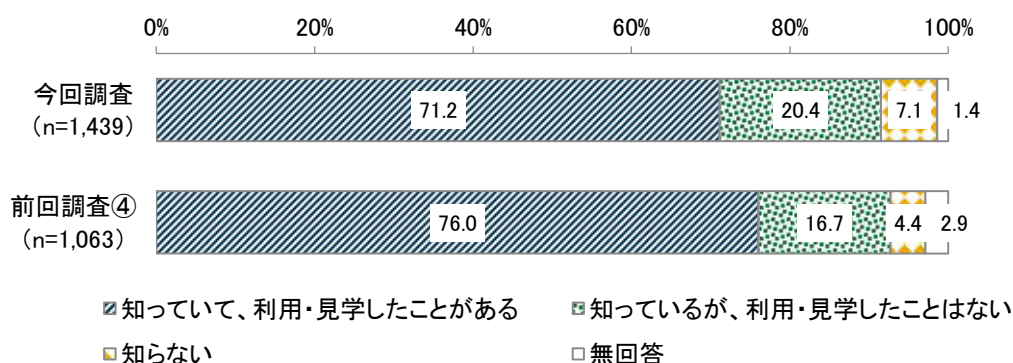


④ 市民センター、ルネサンス クラシックス芦屋ルナ・ホール（業平町）

「知っていて、利用・見学したことがある」が 71.2%で最も高く、次いで、「知っているが、利用・見学したことはない」が 20.4%「知らない」が 7.1%となっている。

前回調査④と比較すると、「知っていて、利用・見学したことがある」の割合が低下し、「知っているが、利用・見学したことはない」の割合が上昇している。

図表 II-136 市民センター、ルネサンス クラシックス芦屋ルナ・ホール

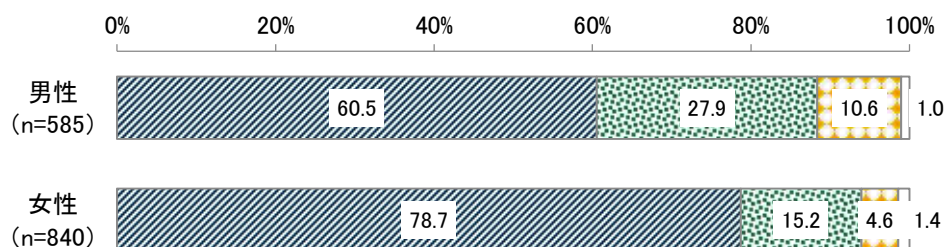


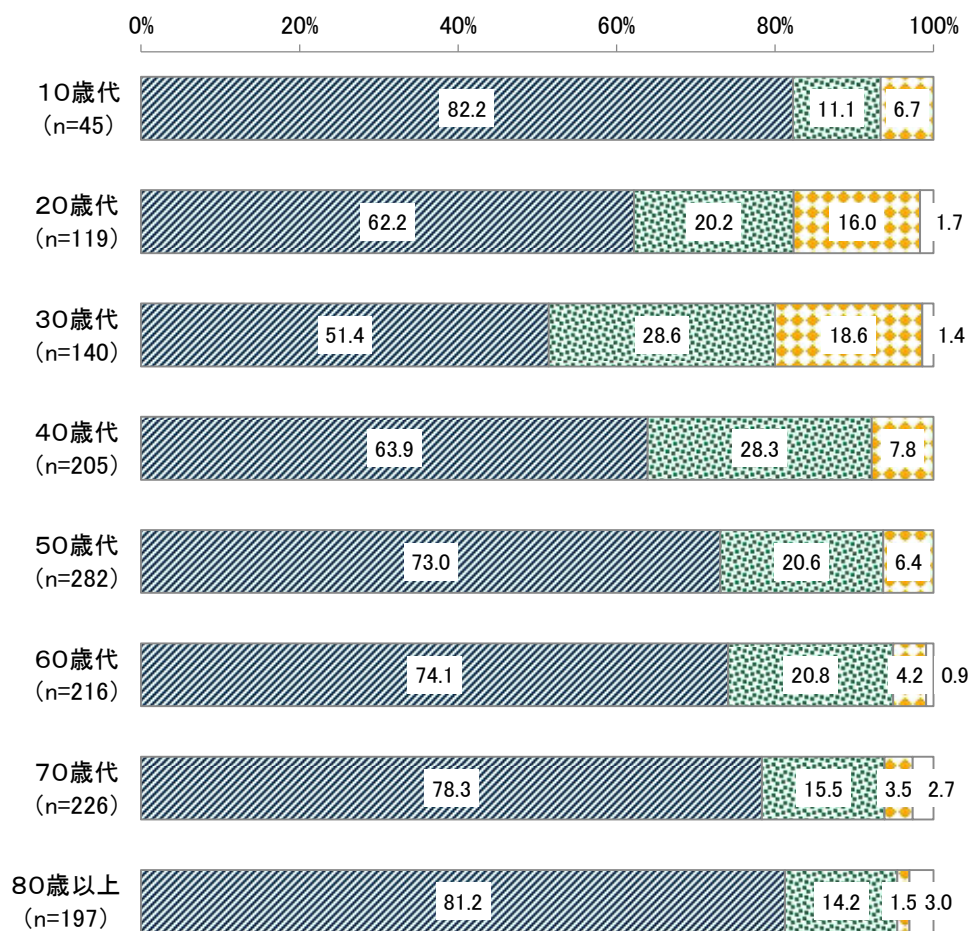
女性は男性よりも「知っていて、利用・見学したことがある」割合が高くなっている。

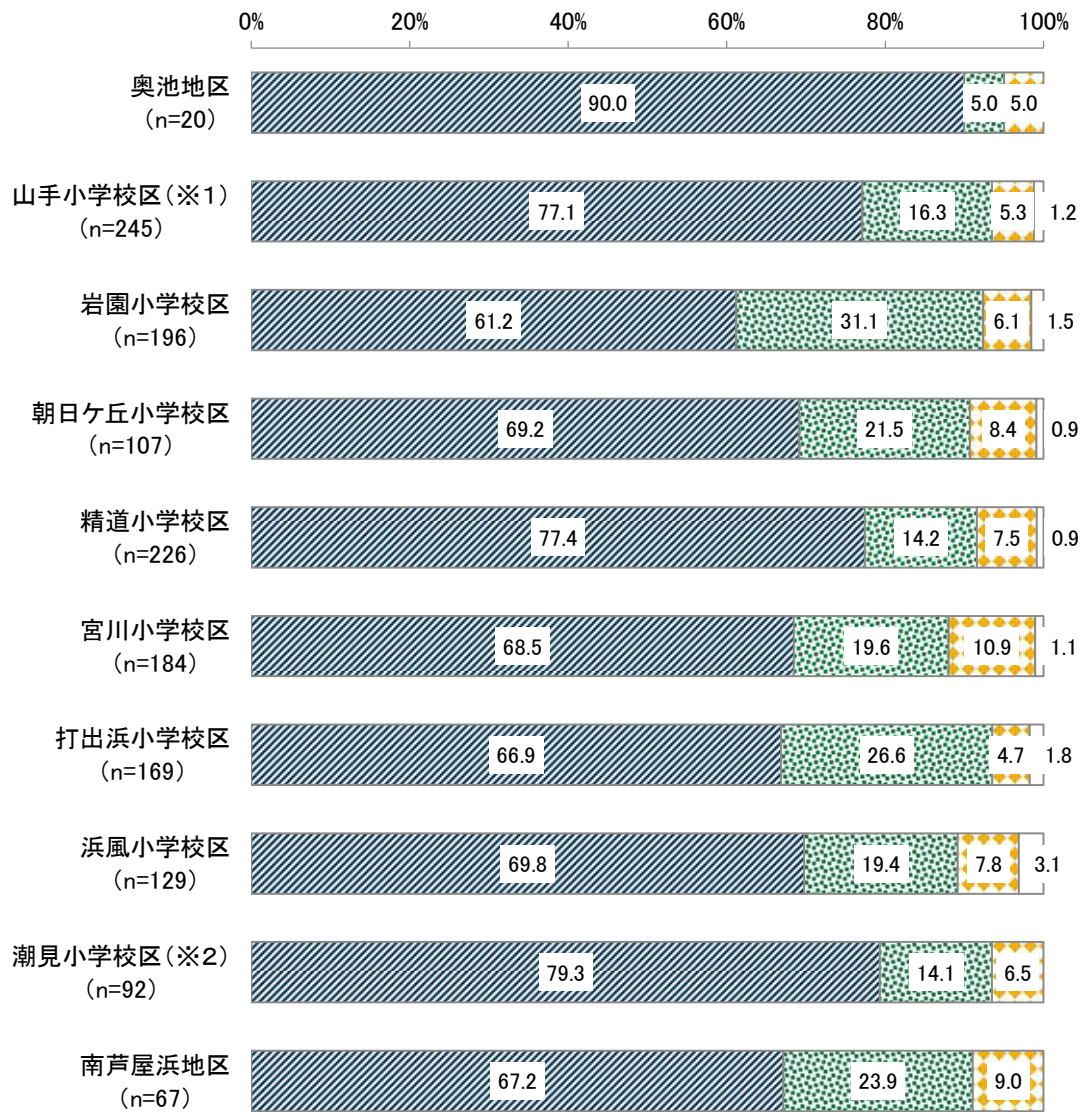
年代別にみると、30代は他の年代と比較して、「知っていて、利用・見学したことがある」割合が低くなっている。

地区別にみると、「岩園小学校区」は他の地区と比較して、「知っていて、利用・見学したことがある」割合が低くなっている。

図表 II-137 市民センター、ルネサンス クラシックス芦屋ルナ・ホール（クロス集計）





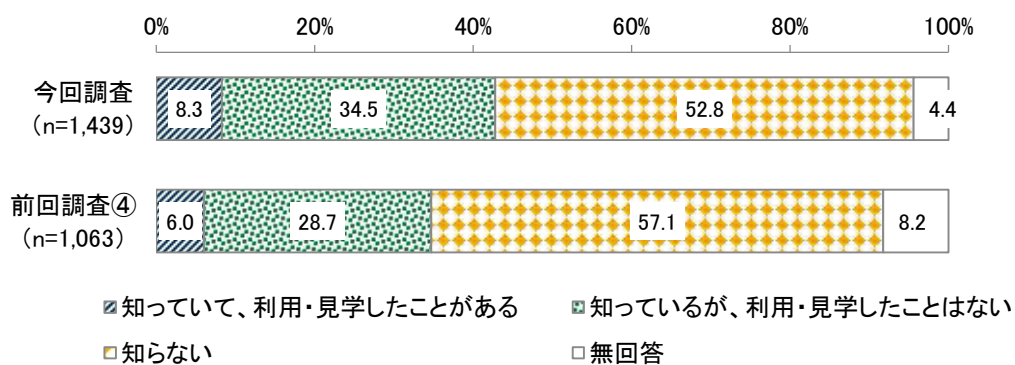


⑤ 富田碎花旧居（宮川町）

「知らない」が52.8%で最も高く、次いで、「知っているが、利用・見学したことはない」が34.5%「知っていて、利用・見学したことがある」が8.3%となっている。

前回調査④と比較すると、「知っていて、利用・見学したことがある」「知っているが、利用・見学したことはない」の割合が上昇し、「知らない」の割合が低下している。

図表 II-138 富田碎花旧居

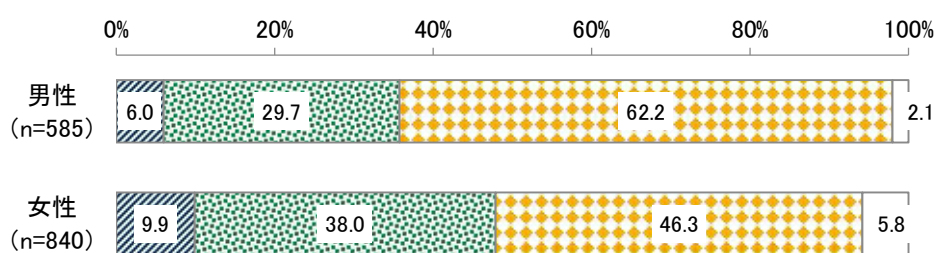


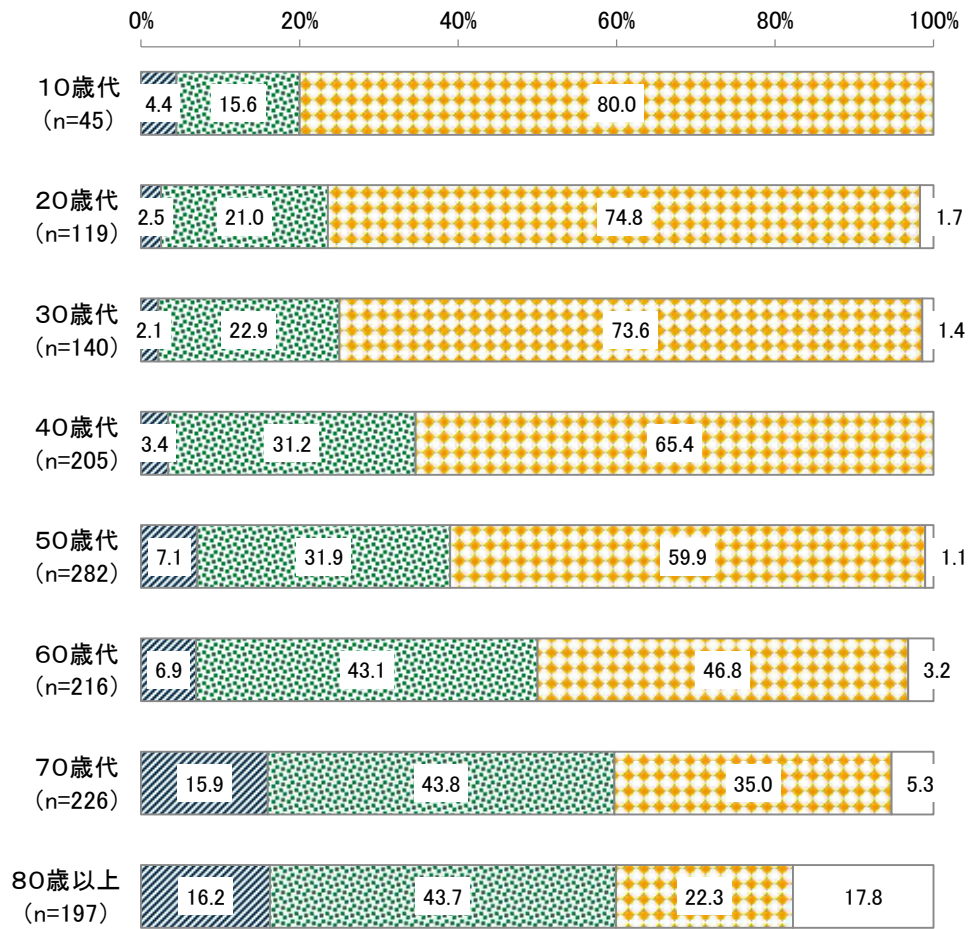
女性は男性よりも「知らない」割合が低くなっている。

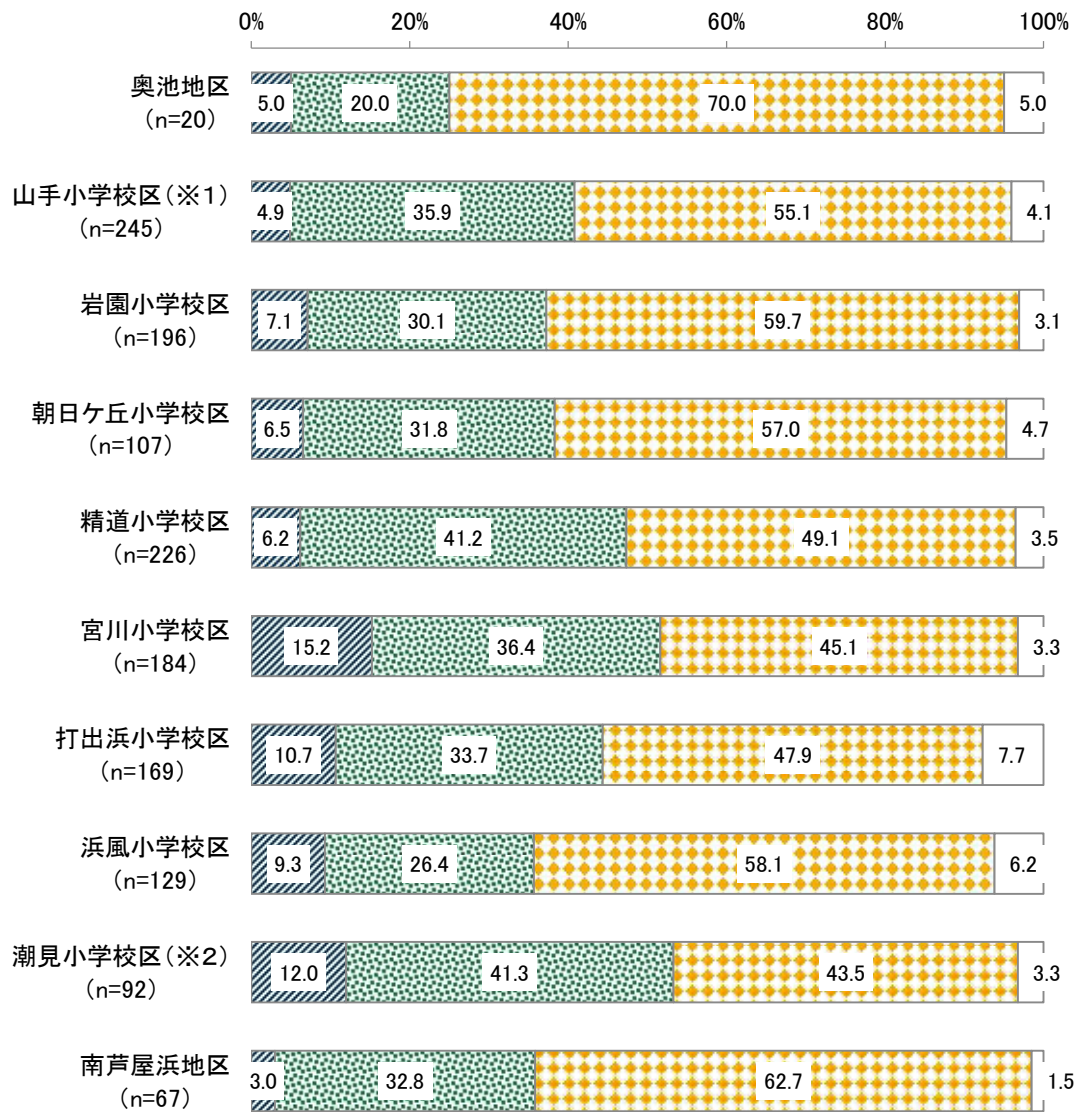
年代別にみると、年代が高くなるほど「知らない」割合が低くなっている。

地区別にみると、「宮川小学校区」は他の地域と比較して、「知っていて、利用・見学したことがある」の割合が高くなっている。

図表 II-139 富田碎花旧居（クロス集計）





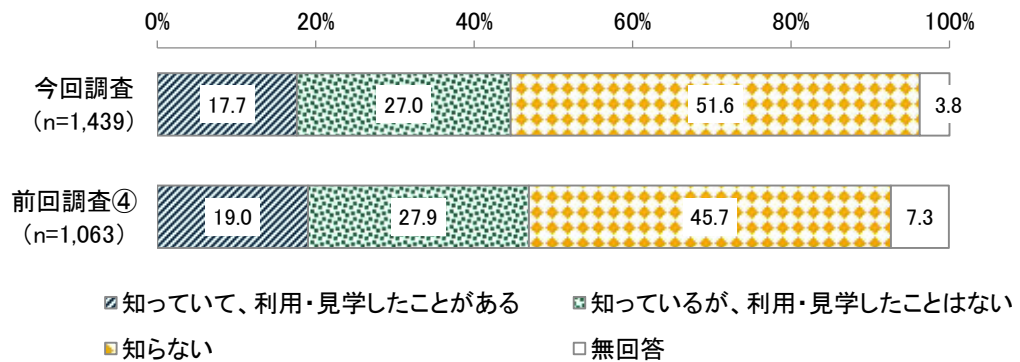


⑥ 会下山遺跡（国指定史跡・三条町）

「知らない」が 51.6%で最も高く、次いで、「知っているが、利用・見学したことはない」が 27.0%「知っていて、利用・見学したことがある」が 17.7%となっている。

前回調査④と比較すると、「知らない」の割合が上昇している。

図表 II-140 会下山遺跡

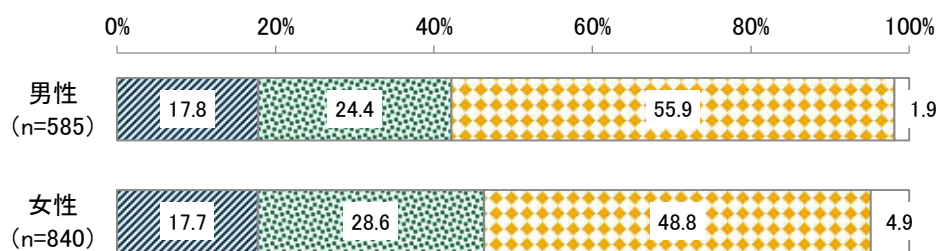


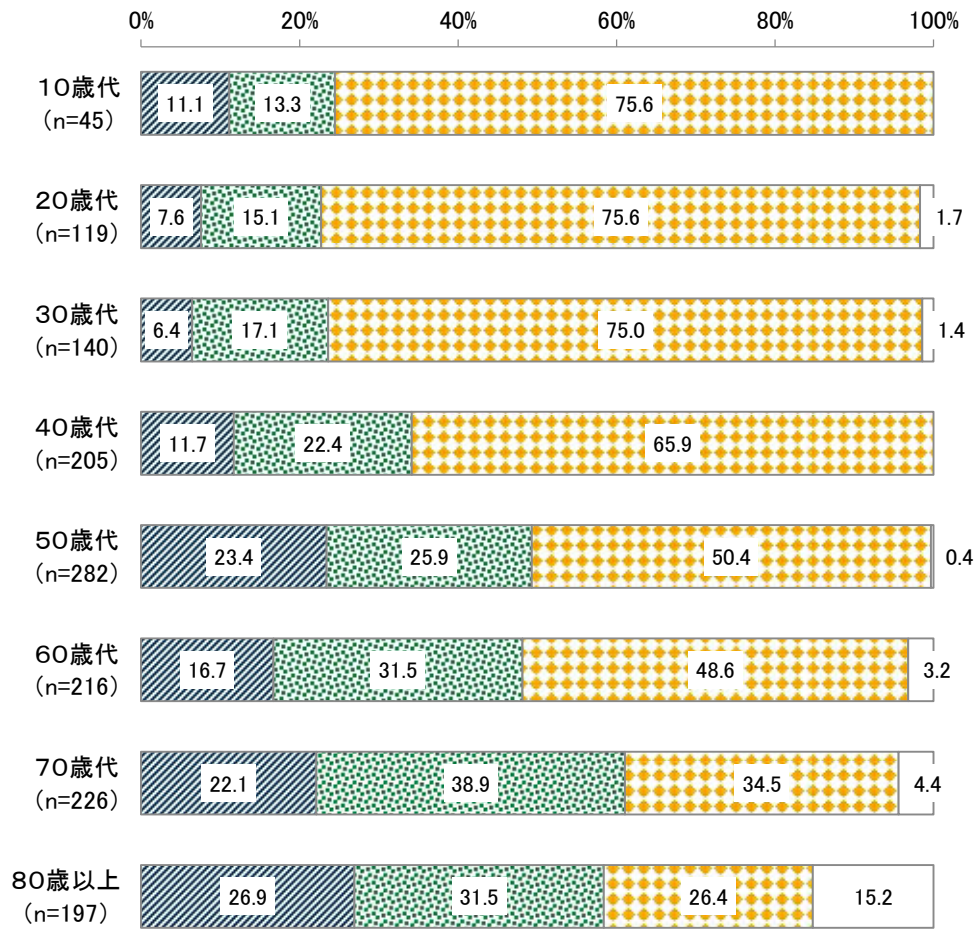
男性は女性よりも「知らない」割合が高くなっている。

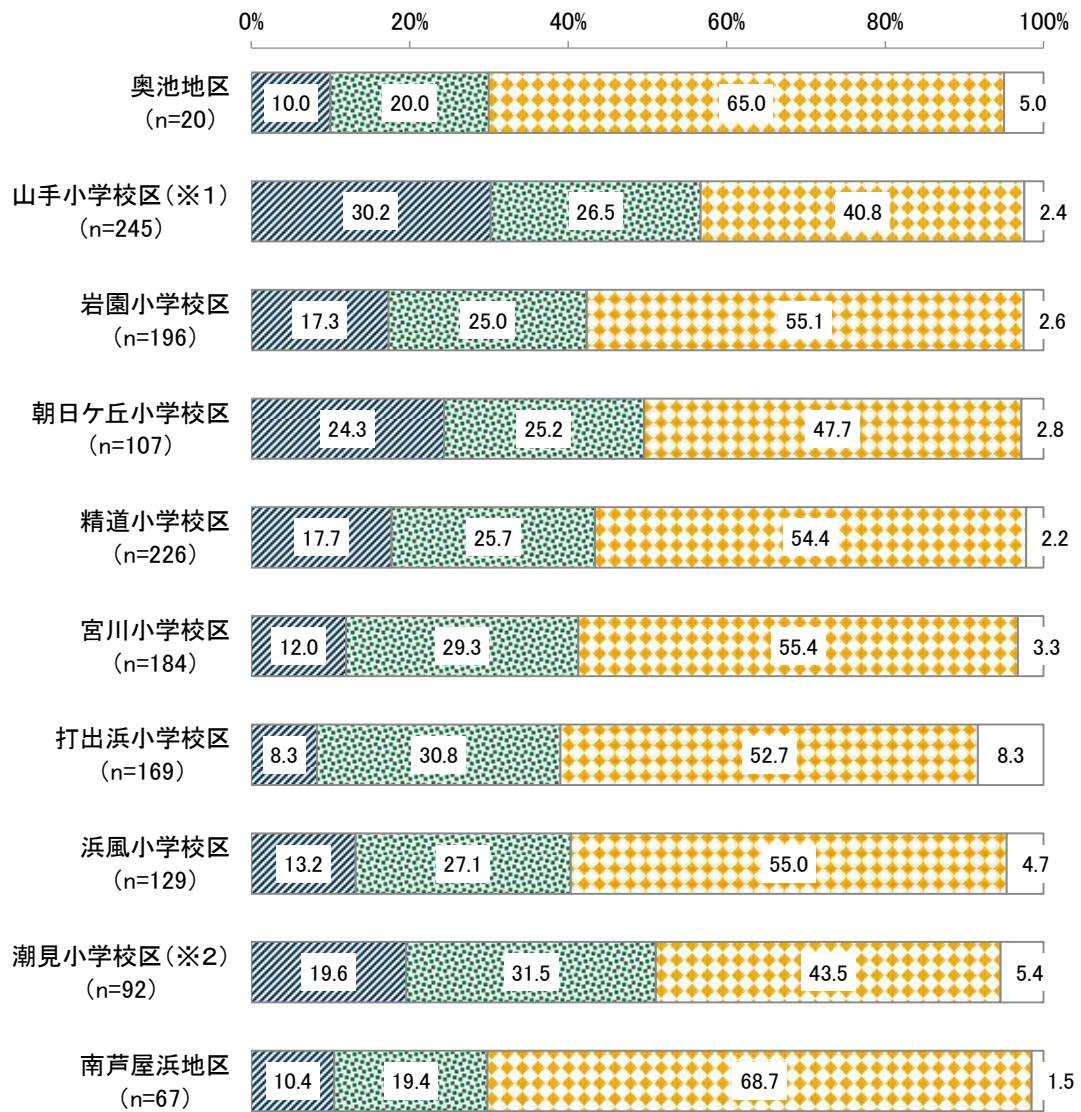
年代別にみると、40代以上は、30代までと比較して、「知らない」の割合が低くなっている。

地区別にみると、「山手小学校区」は他の地区と比較して「知っていて、利用・見学したことがある」割合が高く、「知らない」割合が低くなっている。「南芦屋浜地区」は他の地区と比較して、「知らない」の割合が高くなっている。

図表 II-141 会下山遺跡（クロス集計）





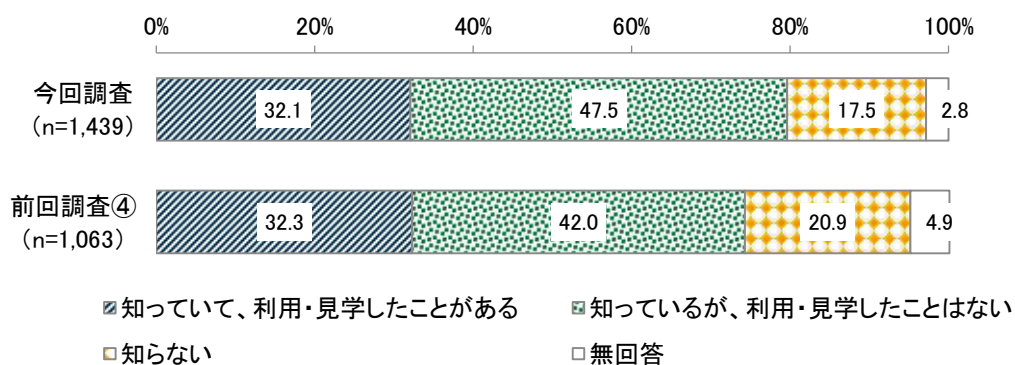


⑦ ヨドコウ迎賓館（国指定重要文化財・山手町）

「知っているが、利用・見学したことはない」が 47.5%で最も高く、次いで、「知っていて、利用・見学したことがある」が 32.1%「知らない」が 17.5%となっている。

前回調査④と比較すると、「知っているが、利用・見学したことはない」の割合が上昇し、「知らない」の割合が低下している。

図表 II-142 ヨドコウ迎賓館

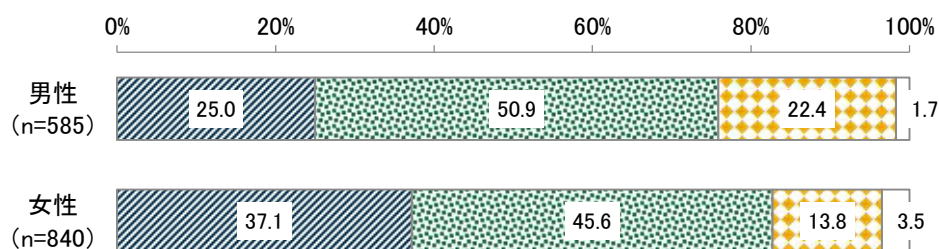


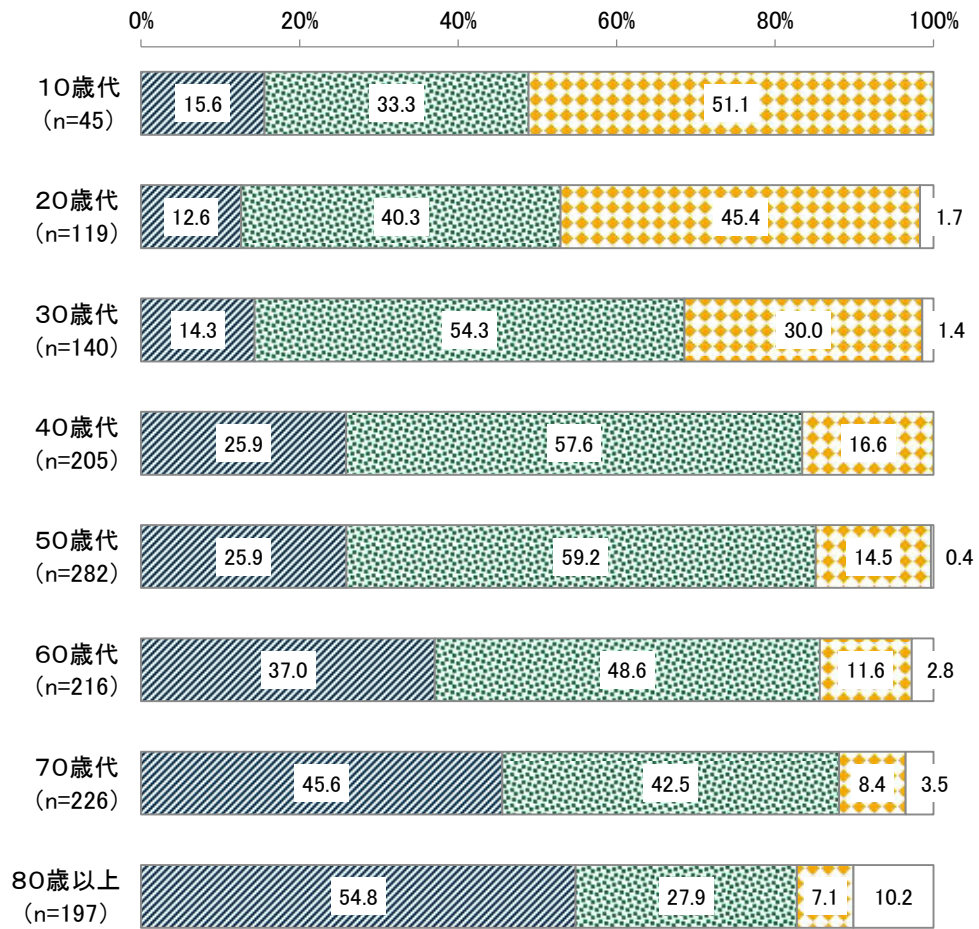
女性は男性よりも「知っていて、利用・見学したことがある」割合が高くなっている。

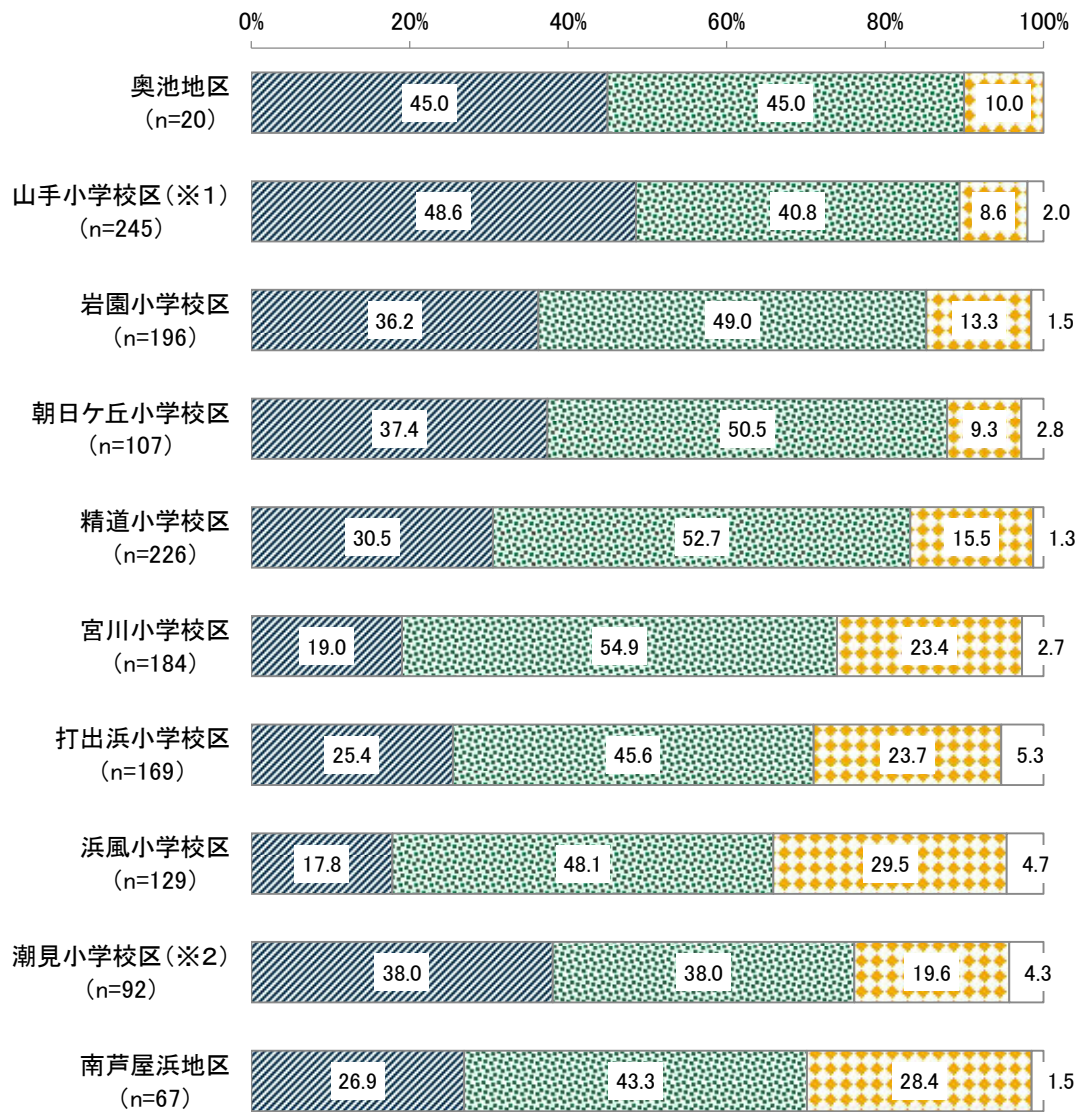
年代別にみると、高い年代になるほど、「知らない」の割合が低く、「知っていて、利用・見学したことがある」の割合が高くなっている。

地区別にみると、「浜風小学校区」は他の地区と比較して、「知らない」割合が高く、「知っていて、利用・見学したことがある」の割合が低くなっている。

図表 II-143 ヨドコウ迎賓館（クロス集計）





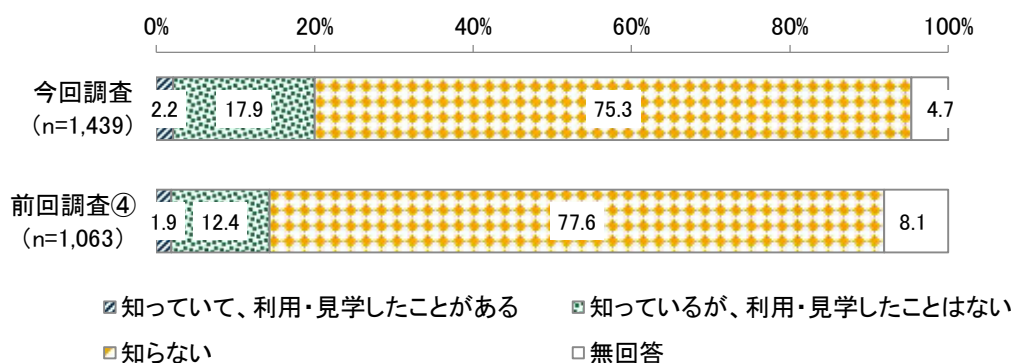


⑧ 伝芦屋廃寺塔心礎（県指定文化財・伊勢町）

「知らない」が75.3%で最も高く、次いで、「知っているが、利用・見学したことはない」が17.9%「知っていて、利用・見学したことがある」が2.2%となっている。

前回調査④と比較すると、「知っているが、利用・見学したことはない」の割合が上昇している。

図表 II- 1 4 4 伝芦屋廃寺塔心礎

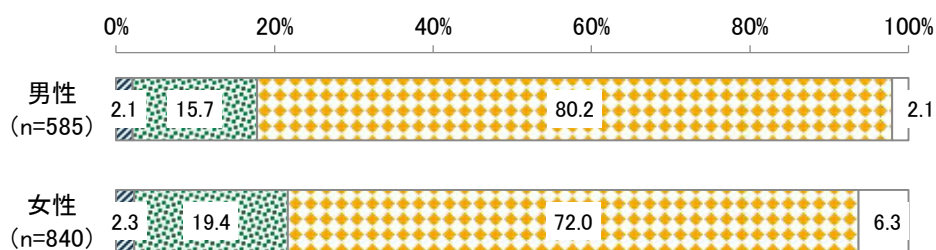


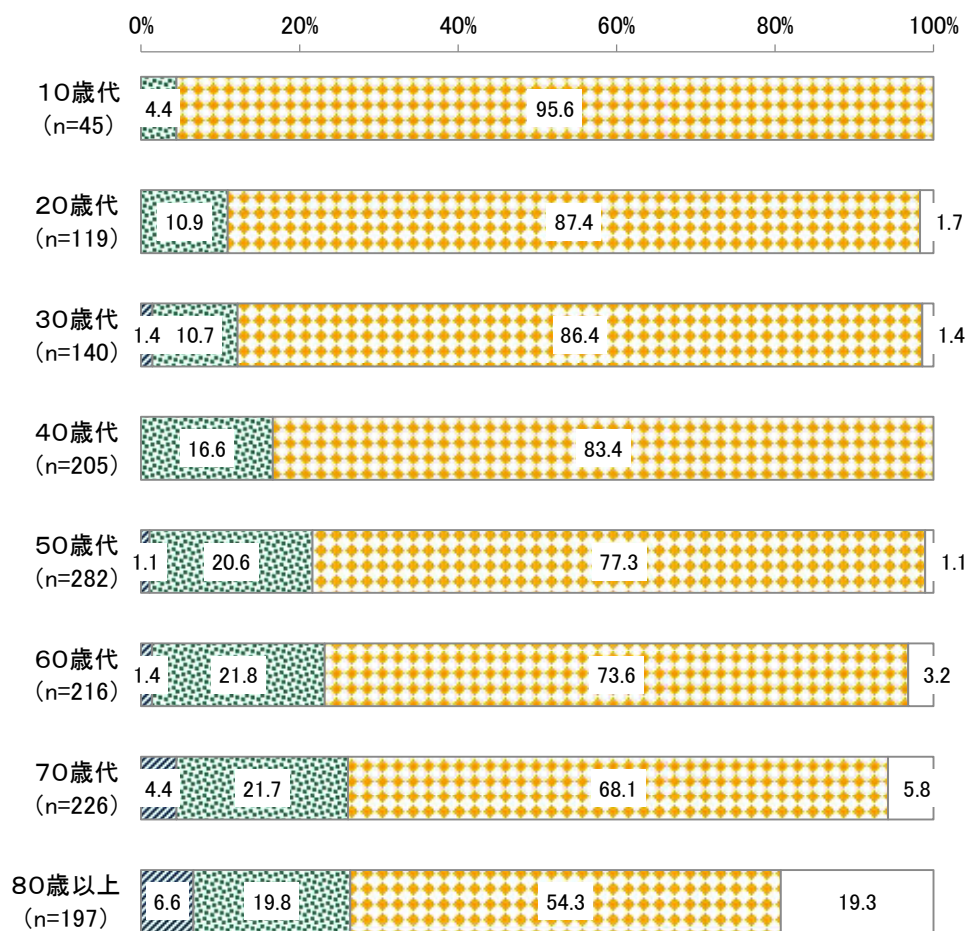
男女で大きな差異はみられない。

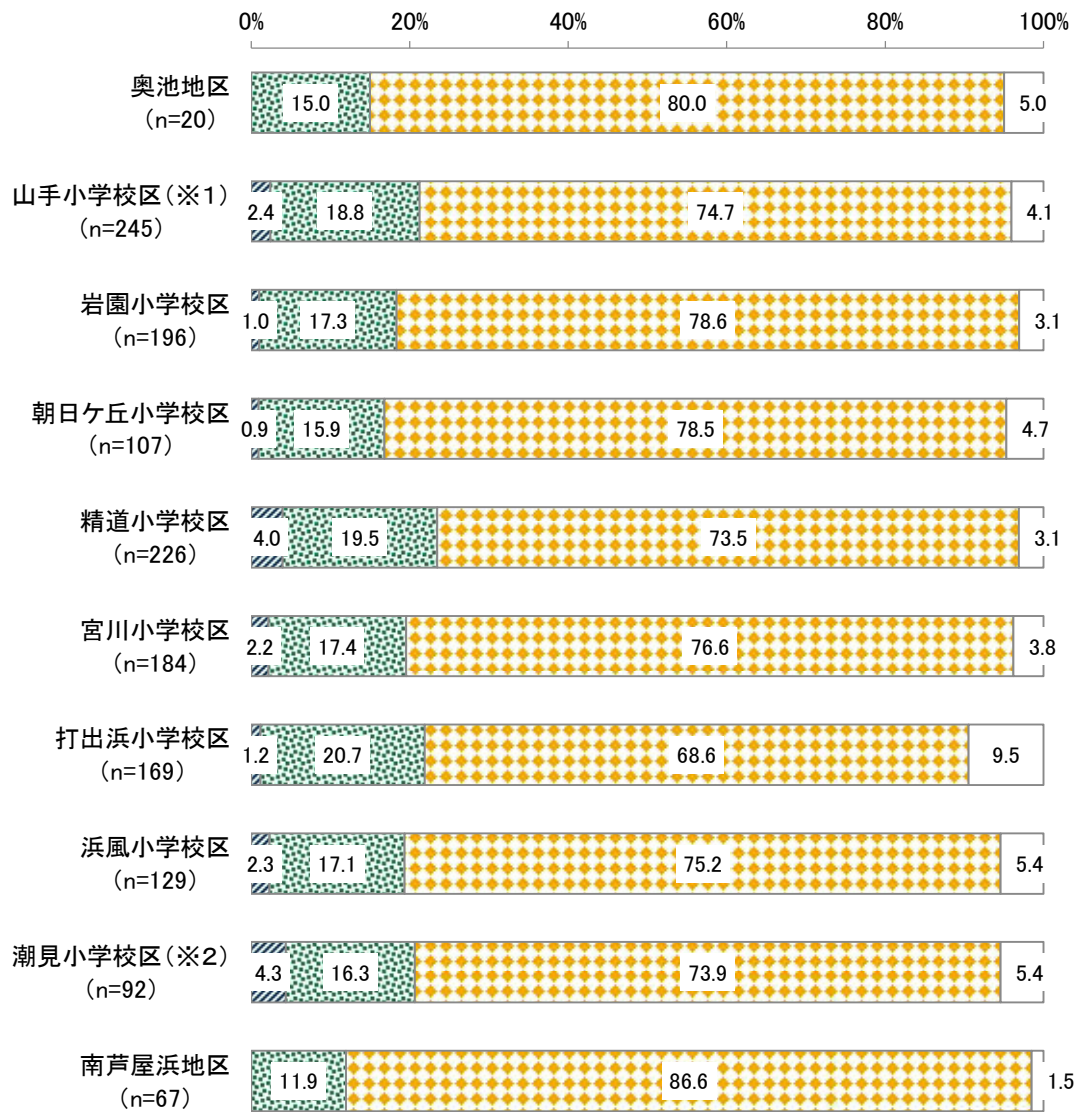
年代別にみると、年代が高くなるほど、「知っていて、利用・見学したことがある」「知っているが、利用・見学したことはない」の「知っている」と回答した割合が高くなっている。

地区別にみると、「南芦屋浜地区」は他の地域と比較して、「知らない」の割合が高くなっている。

図表 II- 1 4 5 伝芦屋廃寺塔心礎（クロス集計）





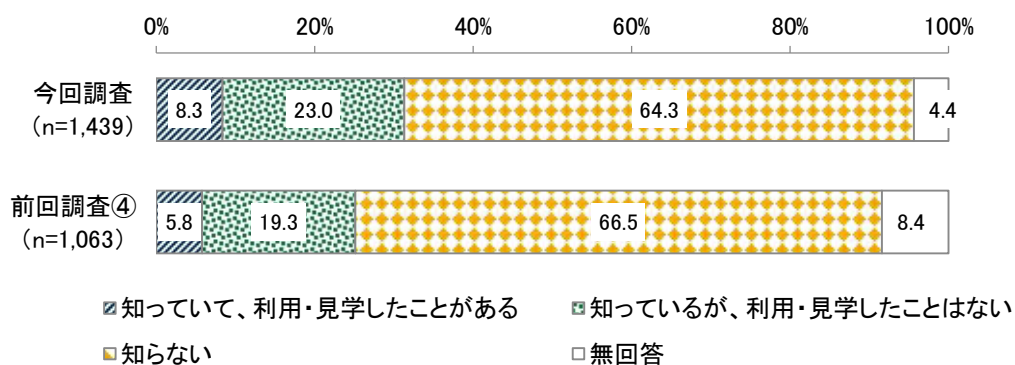


⑨ 金津山古墳（県指定史跡・春日町）

「知らない」が64.3%で最も高く、次いで、「知っているが、利用・見学したことはない」が23.0%「知っていて、利用・見学したことがある」が8.3%となっている。

前回調査④と比較すると、「知っているが、利用・見学したことはない」の割合が上昇している。

図表 II-146 金津山古墳

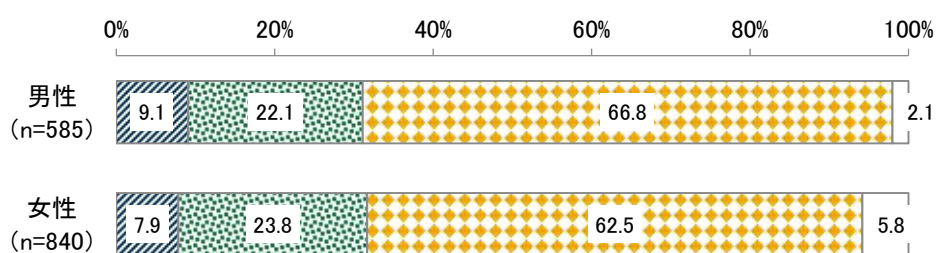


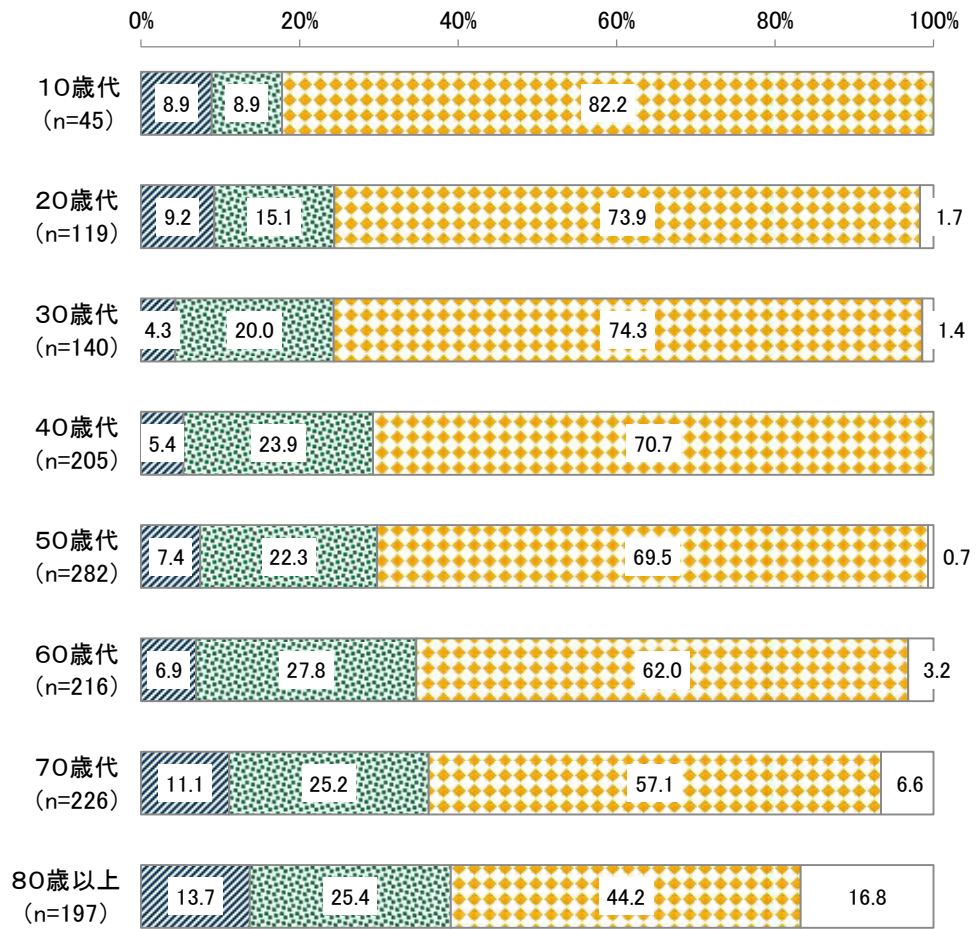
男女で大きな差異はみられない。

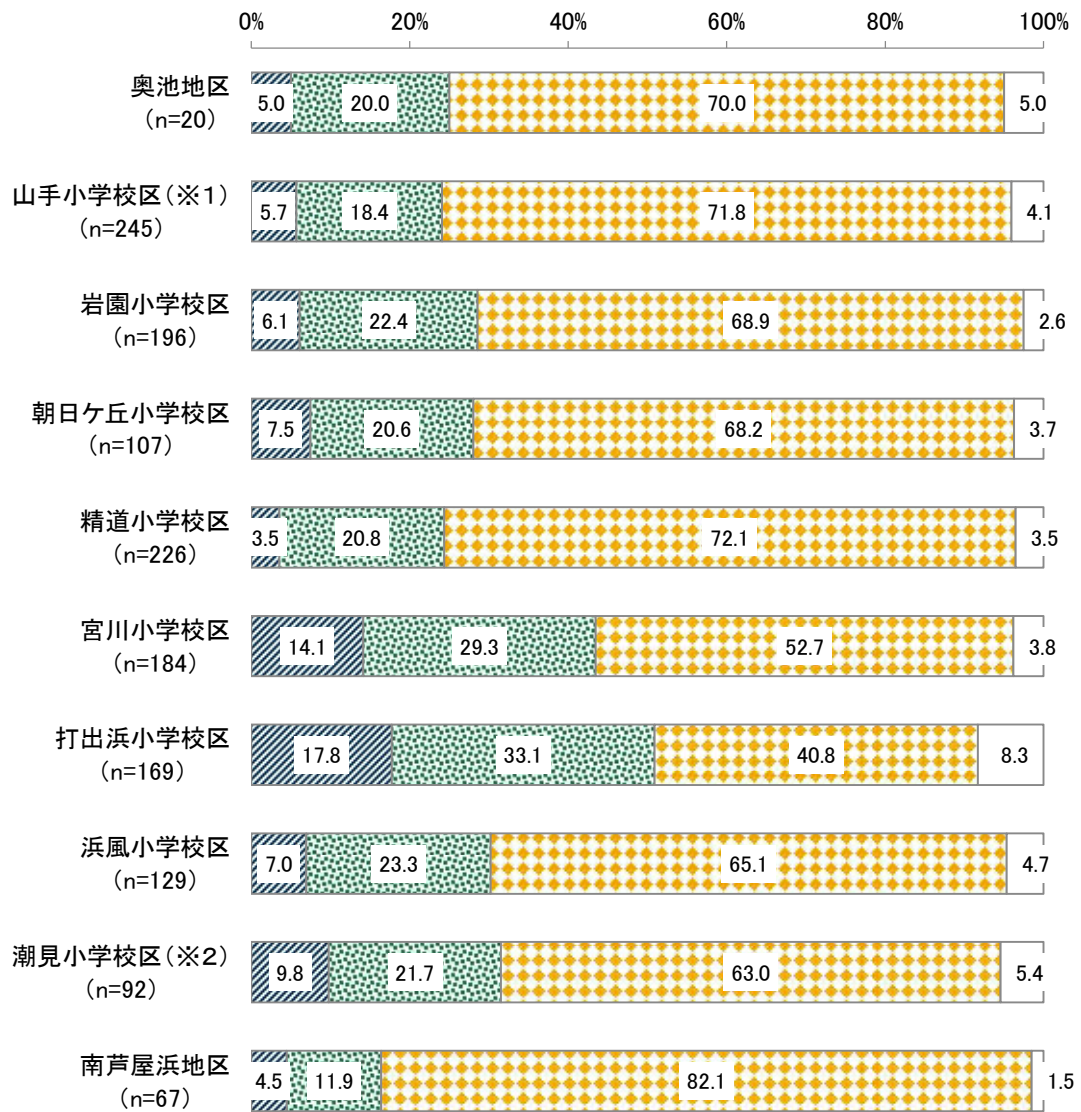
年代別にみると、年代が高くなるほど、「知っていて、利用・見学したことがある」「知っているが、利用・見学したことはない」の「知っている」と回答した割合が高くなっている。

地区別にみると、「打出浜小学校区」は他の地域と比較して、「知っていて、利用・見学したことがある」割合が高くなっている。

図表 II-147 金津山古墳（クロス集計）





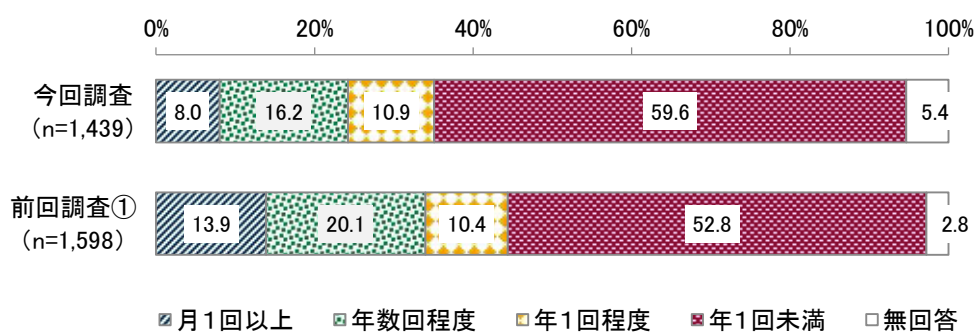


(6) 問 43 学びのための学習会・セミナーへの参加頻度

「年 1 回未満」の割合が最も高く 59.6%となっている。次いで、「年数回程度（16.2%）」、「年 1 回程度（10.9%）」となっている。

前回調査①と比較すると、「月 1 回以上」「年数回程度」の割合が低下し、「年 1 回未満」の割合が上昇している。

図表 II-148 学びのための学習会・セミナーへの参加頻度

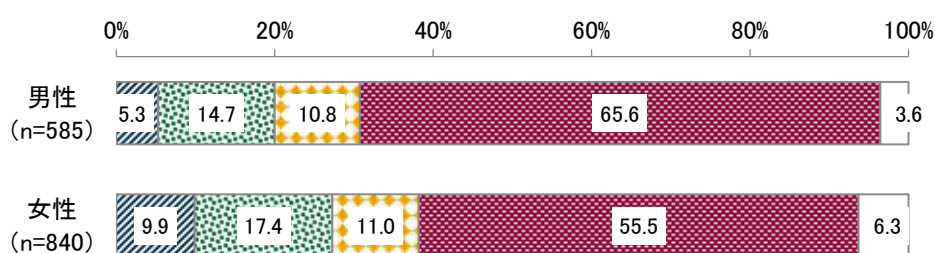


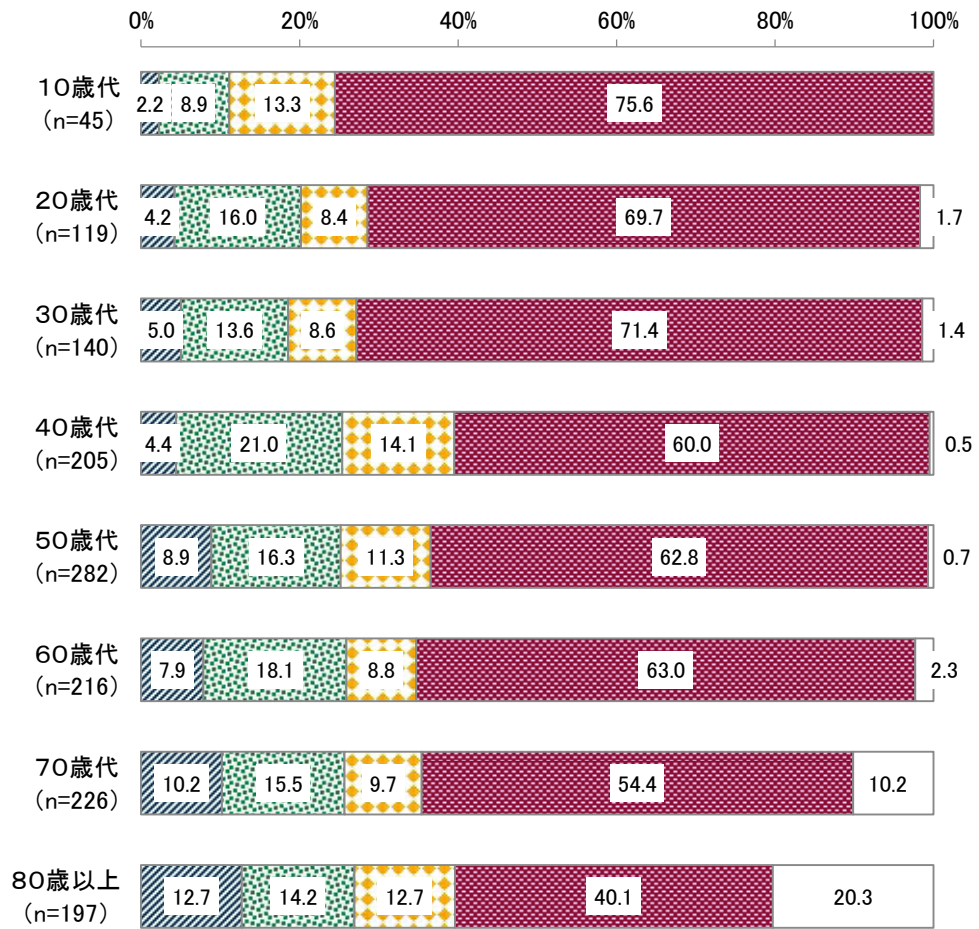
男性は女性よりも「年 1 回未満」の割合が高くなっている。

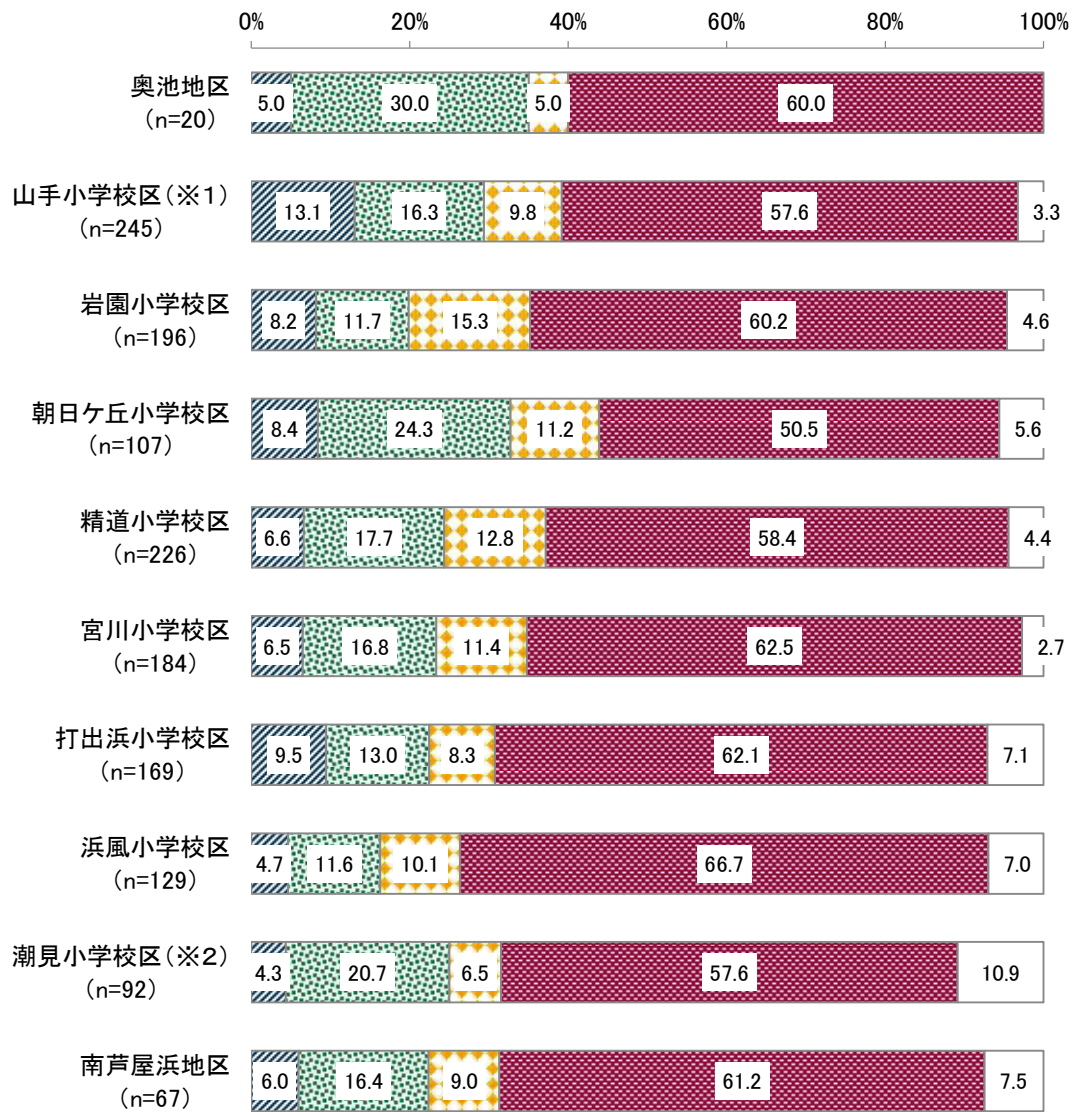
年代別にみると、10 代から 30 代は、それ以上の年代と比較して「年 1 回未満」の割合が高くなっている。

地区別にみると、「山手小学校区」は、他の地域と比較して「月 1 回以上」の割合が高くなっている。

図表 II-149 学びのための学習会・セミナーへの参加頻度（クロス集計）





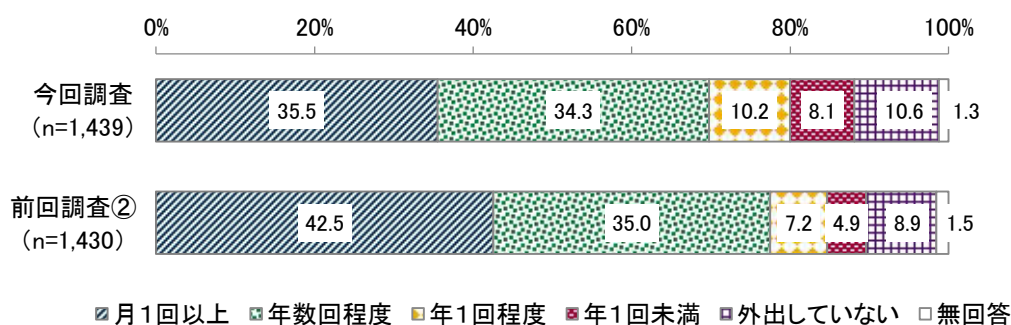


(7) 問 44 映画・音楽・美術・読書・スポーツ等に触れる体験を行うための外出頻度

「月 1 回以上」の割合が最も高く 35.5%となっている。次いで、「年数回程度（34.3%）」、「外出していない（10.6%）」となっている。

前回調査②と比較すると、「月 1 回以上」の割合が低下し、「年 1 回程度」「年 1 回未満」「外出していない」の割合が上昇している。

図表 II-150 映画・音楽・美術・読書・スポーツ等に触れる体験を行うための外出頻度

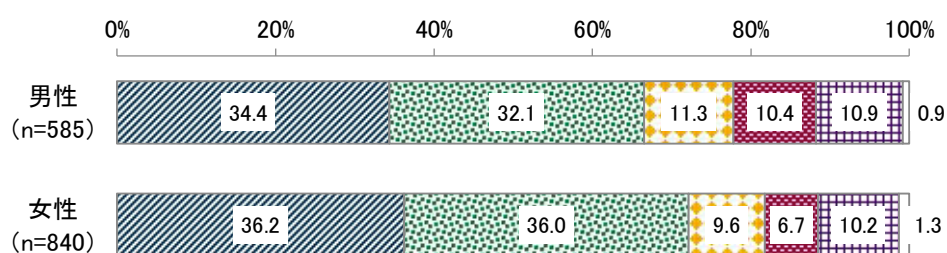


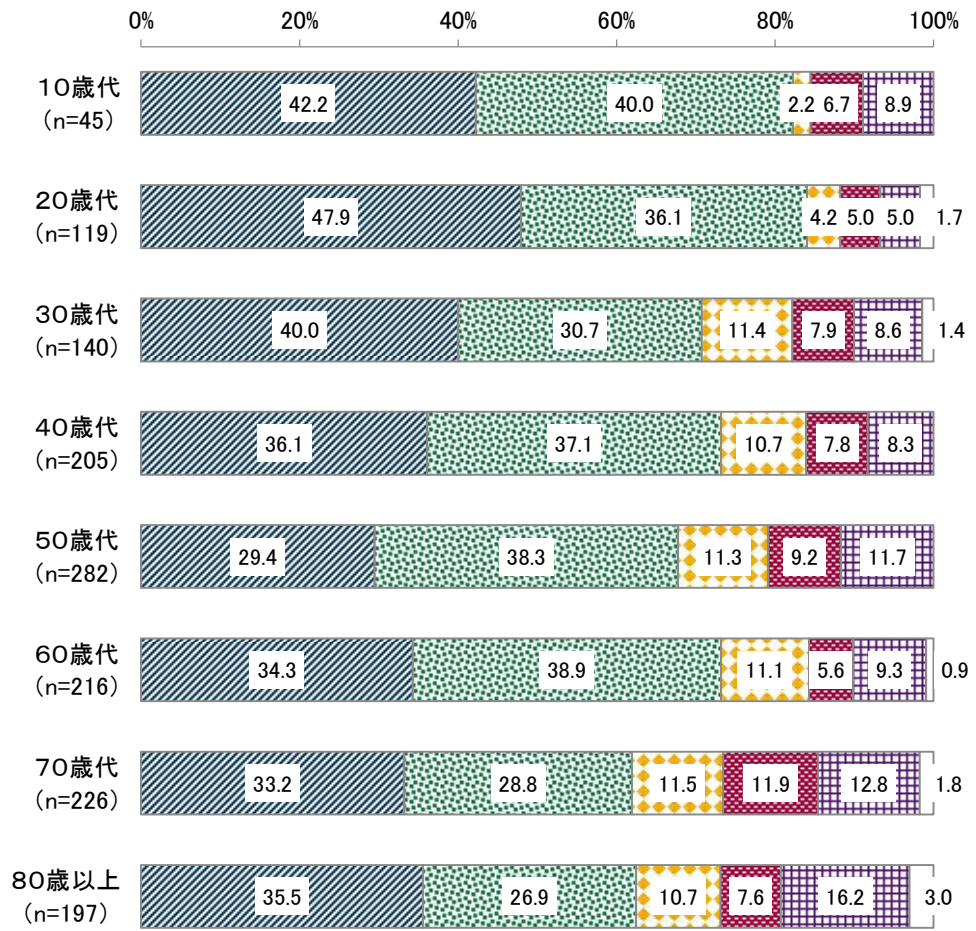
女性は男性よりも「月 1 回以上」「年数回程度」の割合が高くなっている。

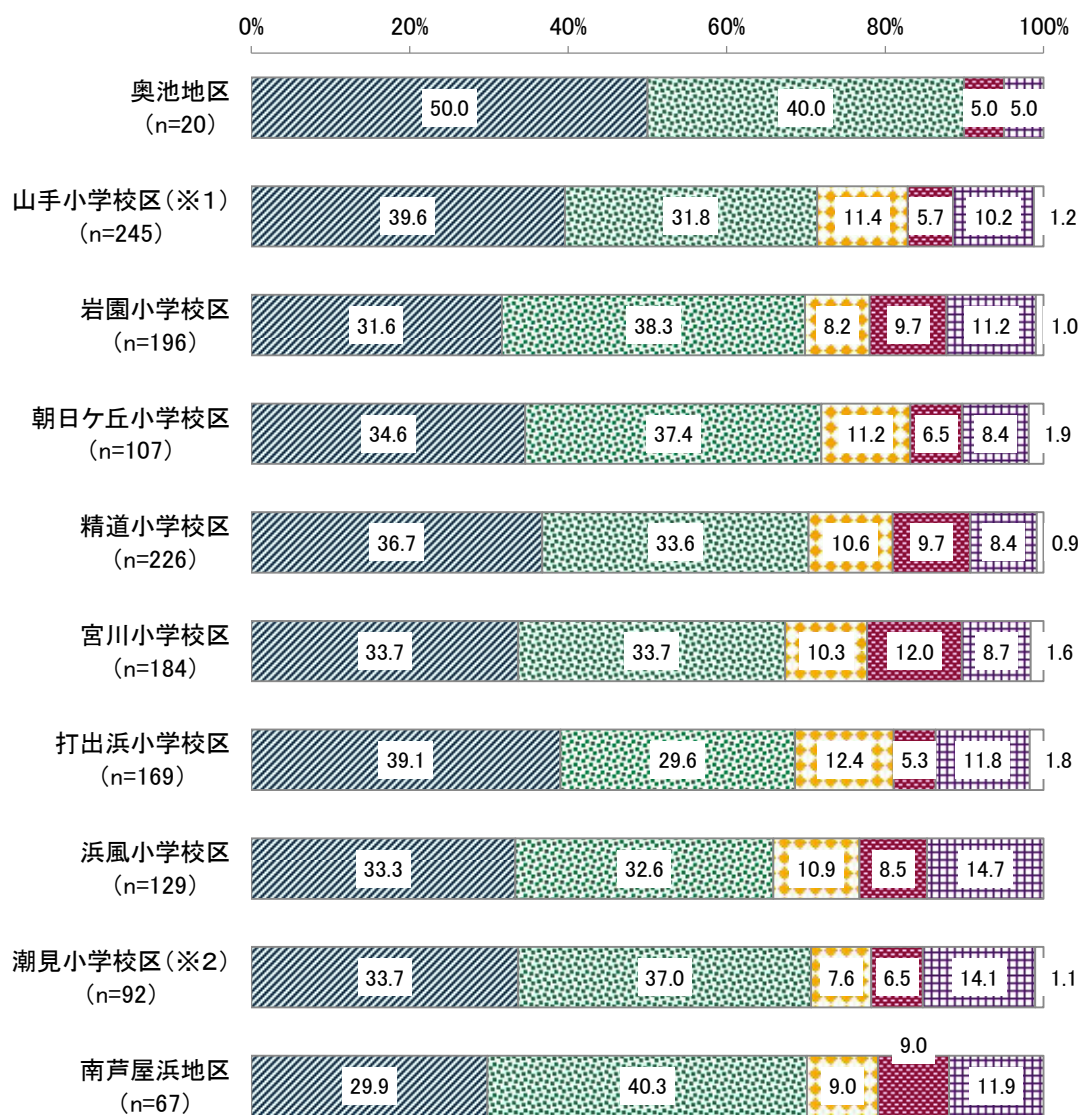
年代別にみると、10 代・20 代は、それ以上の世代と比較して、「月 1 回以上」「年数回程度」の割合が高くなっている。

地区別にみると、山手小学校区、打出浜小学校区は他の地域と比較して、「月 1 回以上」の割合が高くなっている。

図表 II-151 映画・音楽・美術・読書・スポーツ等に触れる体験を行うための外出頻度
(クロス集計)







(8) 問 45 自然・社会・文化などの体験や、それらに参加しやすい環境だと思うか

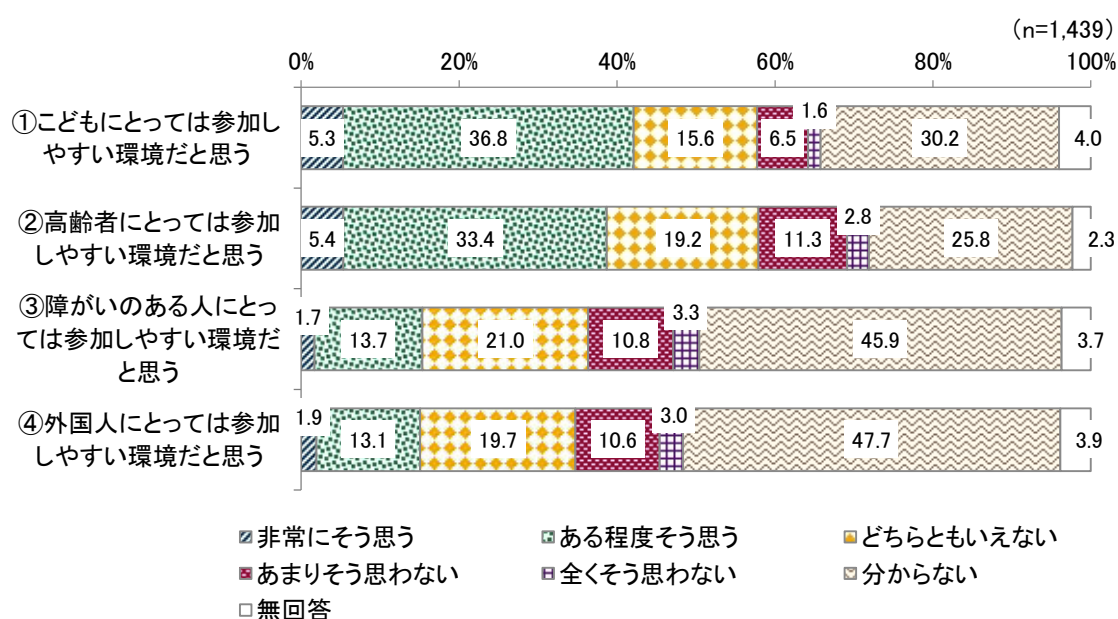
「①子どもにとっては参加しやすい環境だと思う」では「ある程度そう思う」が最も高く 36.8%となっている。次いで「分からない（30.2%）」、「どちらともいえない（15.6%）」となっている。

「②高齢者にとっては参加しやすい環境だと思う」では「ある程度そう思う」が最も高く 33.4%となっている。次いで「分からない（25.8%）」、「どちらともいえない（19.2%）」となっている。

「③障がいのある人にとっては参加しやすい環境だと思う」では「分からない」が最も高く 45.9%となっている。次いで「どちらともいえない（21.0%）」、「ある程度そう思う（13.7%）」となっている。

「④外国人にとっては参加しやすい環境だと思う」では「分からない」が最も高く 47.7%となっている。次いで「どちらともいえない（19.7%）」、「ある程度そう思う（13.1%）」となっている。

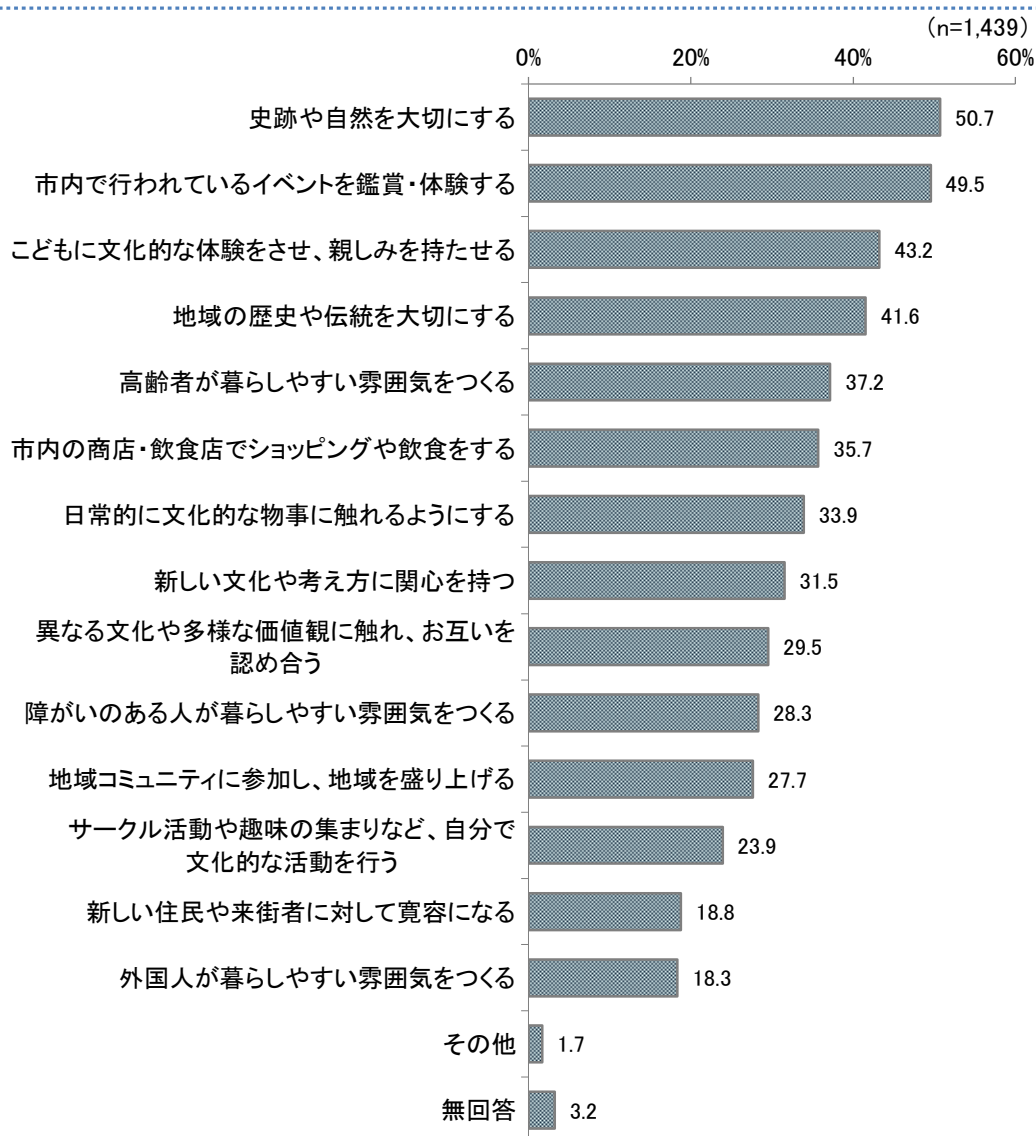
図表 II-152 自然・社会・文化などの体験や、それらに参加しやすい環境だと思うか



**(9) 問 46 身近に文化を感じることができるまちであるために市民が行うとよいと思うこと
(複数選択)**

「史跡や自然を大切にする」の割合が最も高く 50.7%となっている。次いで、「市内で行われているイベントを鑑賞・体験する（49.5%）」、「こどもに文化的な体験をさせ、親しみを持たせる（43.2%）」となっている。

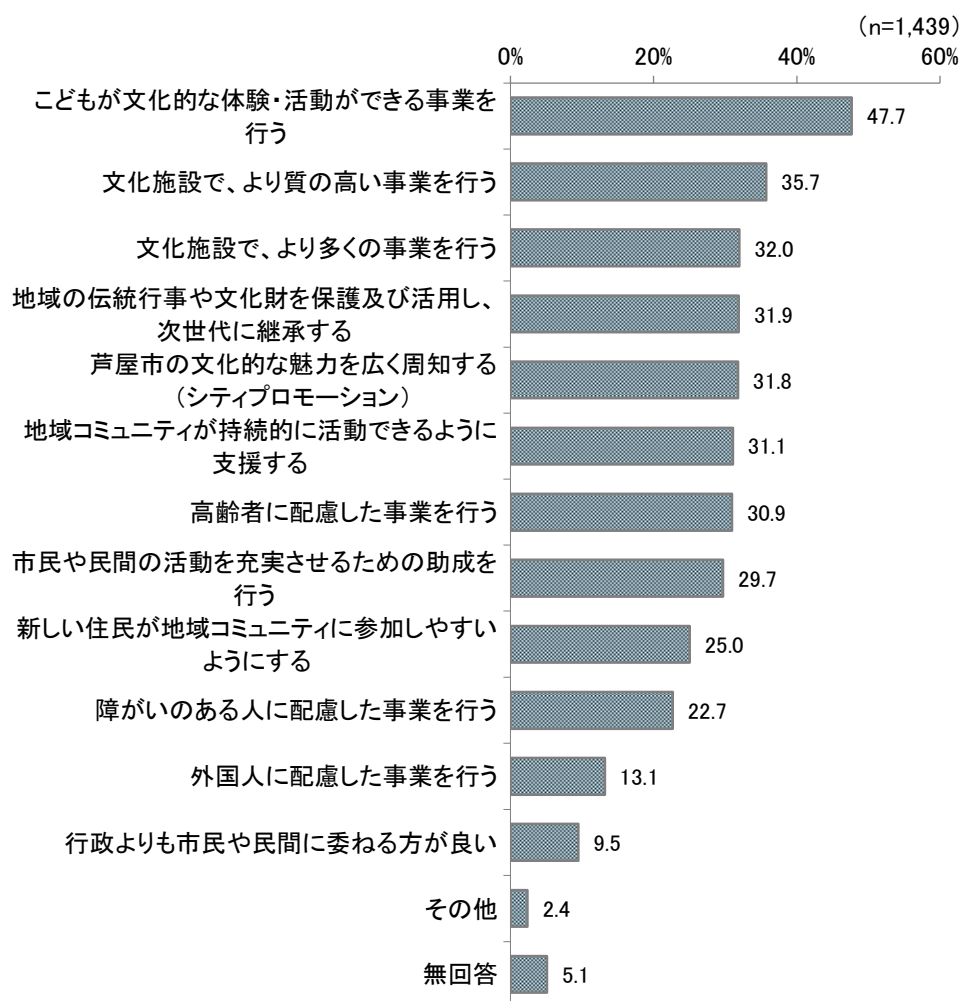
図表 II- 153 身近に文化を感じることができるまちであるために市民が行うとよいこと



**(10) 問 47 身近に文化を感じることができるまちであるために行政が行うとよいと思うこと
(複数選択)**

「こどもが文化的な体験・活動ができる事業を行う」の割合が最も高く 47.7%となっている。次いで、「文化施設で、より質の高い事業を行う（35.7%）」、「文化施設で、より多くの事業を行う（32.0%）」となっている。

図表 II- 154 身近に文化を感じることができるまちであるために行政が行うとよいこと



図表 II- 155 身近に文化を感じることができるまちであるために行政が行うとよいこと
(クロス集計)

(%)

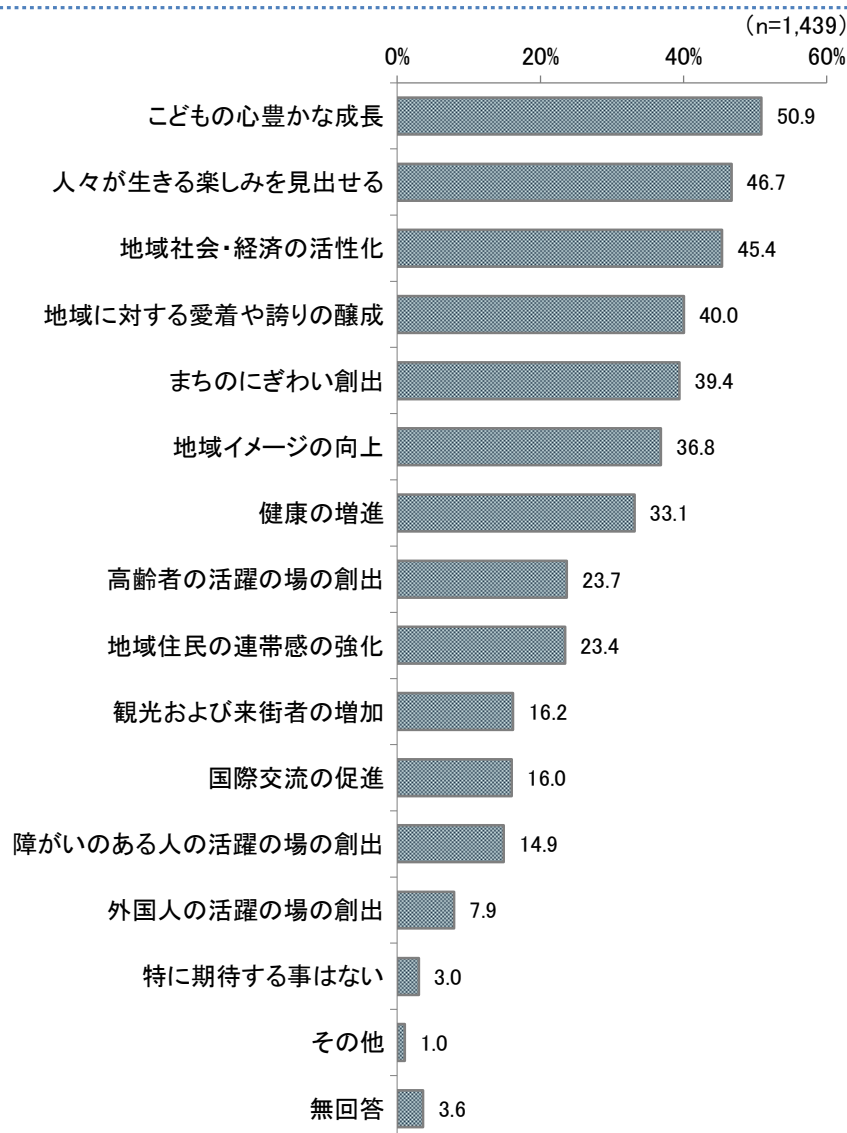
		調査数	文化施設で、 の事業を行う より多く	文化施設で、 高い事業を行う より質の	高齢者に配慮した事業 を行う	障がいのある人に配慮 した事業を行う	外国人に配慮した事業 を行う	子どもが文化的な体験・活動ができる事業 を行う	市民や民間の活動成を充 実させるための活動を行う
市全体		1,439	32.0	35.7	30.9	22.7	13.1	47.7	29.7
性別	男性	585	28.4	33.0	29.1	20.0	12.1	45.6	27.9
	女性	840	34.4	37.7	32.4	24.4	13.8	49.3	31.1
年代別	10歳代	45	26.7	33.3	15.6	17.8	20.0	46.7	24.4
	20歳代	119	36.1	26.1	15.1	16.8	16.8	52.9	33.6
	30歳代	140	28.6	33.6	12.9	15.0	8.6	57.1	29.3
	40歳代	205	31.7	36.1	17.6	14.6	8.3	60.5	23.4
	50歳代	282	33.0	41.1	29.1	23.0	13.8	44.7	29.8
	60歳代	216	28.7	37.0	37.0	24.5	13.0	45.4	32.4
	70歳代	226	31.4	36.3	47.3	29.2	12.4	40.7	31.9
	80歳以上	197	36.0	33.5	48.7	31.0	17.8	39.6	28.9
居住地区	奥池地区	20	45.0	45.0	35.0	20.0	25.0	45.0	30.0
	山手小学校区(※1)	245	35.1	40.4	32.2	22.0	13.9	50.2	29.4
	岩園小学校区	196	27.6	34.7	27.0	18.4	13.8	49.0	28.1
	朝日ヶ丘小学校区	107	29.0	40.2	26.2	21.5	10.3	43.9	38.3
	精道小学校区	226	31.4	39.4	29.2	26.1	13.7	46.9	24.3
	宮川小学校区	184	34.2	36.4	27.7	18.5	9.8	51.6	32.6
	打出浜小学校区	169	34.3	29.0	35.5	27.8	18.3	49.1	34.3
	浜風小学校区	129	29.5	26.4	32.6	23.3	14.7	44.2	28.7
	潮見小学校区(※2)	92	33.7	39.1	32.6	22.8	8.7	42.4	28.3
	南芦屋浜地区	67	28.4	29.9	41.8	26.9	7.5	46.3	25.4

		地域コミュニティ活動に支援する	新しい住民が地域コミュニティに参加しやすいようにする	地域の伝統行事や文化を保護及び活用し、次世代に継承する	芦屋市の文化的な魅力を広く周知する（シンポジウム）	行政よりも市民や民間に委ねる方が良い	その他	無回答
市全体		31.1	25.0	31.9	31.8	9.5	2.4	5.1
性別	男性	28.7	25.3	27.5	32.5	10.1	3.4	4.4
	女性	32.9	24.9	34.9	31.4	9.0	1.5	5.4
年代別	10歳代	35.6	28.9	24.4	37.8	11.1	4.4	2.2
	20歳代	35.3	33.6	31.9	42.0	7.6	5.0	4.2
	30歳代	27.9	27.9	26.4	34.3	7.9	2.9	3.6
	40歳代	23.9	23.4	28.3	39.0	8.8	1.0	2.0
	50歳代	29.4	24.5	34.4	31.6	9.6	2.8	2.8
	60歳代	36.1	26.4	36.1	26.9	11.1	2.3	2.8
	70歳代	31.0	20.8	29.6	28.8	11.9	0.9	8.8
	80歳以上	34.0	21.8	36.0	23.9	7.1	2.0	11.2
居住地区	奥池地区	30.0	15.0	30.0	30.0	0.0	0.0	5.0
	山手小学校区(※1)	31.4	26.9	38.0	33.9	9.0	3.3	5.7
	岩園小学校区	28.1	24.0	26.0	28.6	9.2	2.0	4.1
	朝日ヶ丘小学校区	30.8	23.4	31.8	37.4	10.3	1.9	2.8
	精道小学校区	36.7	27.0	32.7	33.2	11.5	1.8	4.4
	宮川小学校区	31.0	26.1	33.2	28.8	8.2	2.2	3.3
	打出浜小学校区	32.0	26.6	35.5	38.5	10.7	3.0	5.3
	浜風小学校区	24.0	25.6	20.2	24.0	11.6	2.3	8.5
	潮見小学校区(※2)	31.5	20.7	35.9	29.3	10.9	2.2	6.5
	南芦屋浜地区	32.8	19.4	31.3	31.3	1.5	1.5	4.5

(11) 問 48 文化の推進を図ることにより社会にもたらされる効果として期待すること（複数選択）

「こどもの心豊かな成長」の割合が最も高く 50.9%となっている。次いで、「人々が生きる楽しみを見出せる（46.7%）」、「地域社会・経済の活性化（45.4%）」となっている。

図表 II-156 文化の推進を図ることにより社会にもたらされる効果として期待すること

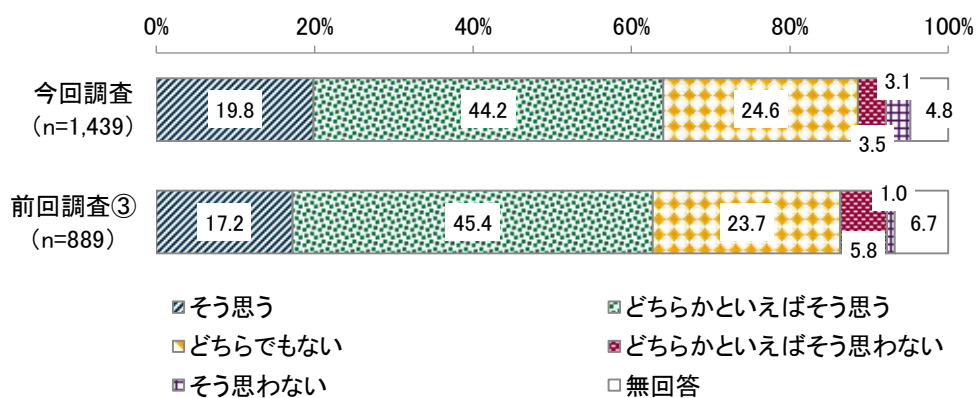


(12) 問 49 市民参画・協働を必要だと思うか

「どちらかといえばそう思う」の割合が最も高く 44.2%となっている。次いで、「どちらでもない」(24.6%)、「そう思う」(19.8%)となっている。

前回調査③と比較すると、大きな変化は見られない。

図表 II- 157 市民参画・協働を必要だと思うか

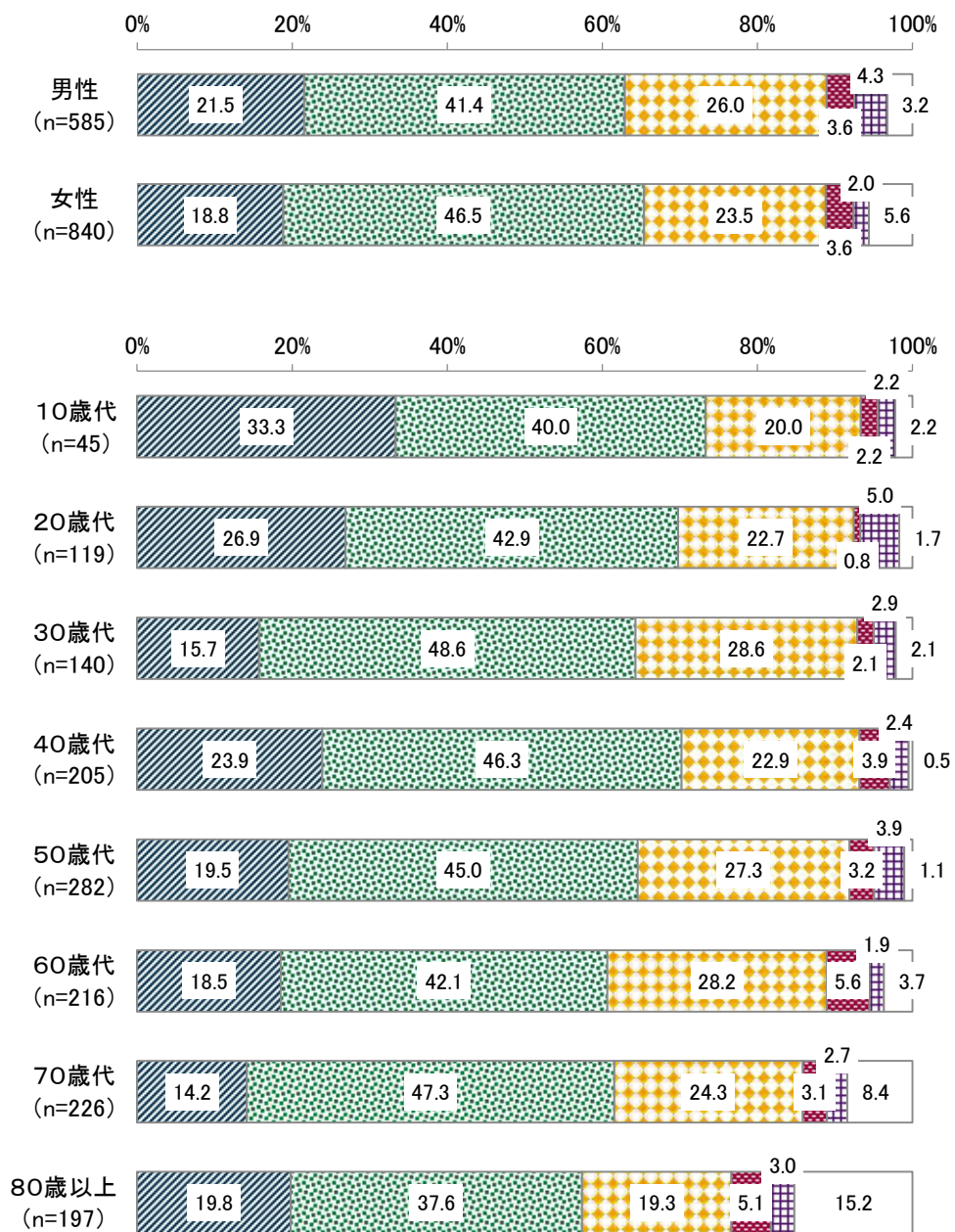


(注) 前回調査③では「どちらかといえばそう思う」は「少しはそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」は「あまりそう思わない」となっている。

女性は男性よりも、市民参画・協働を必要だと「思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が高くなっている。

年代別にみると、全体的に年代が上がるほど、市民参画・協働を必要だと「思う」割合が低い傾向にある。

図表 II-158 市民参画・協働を必要だと思うか（クロス集計）

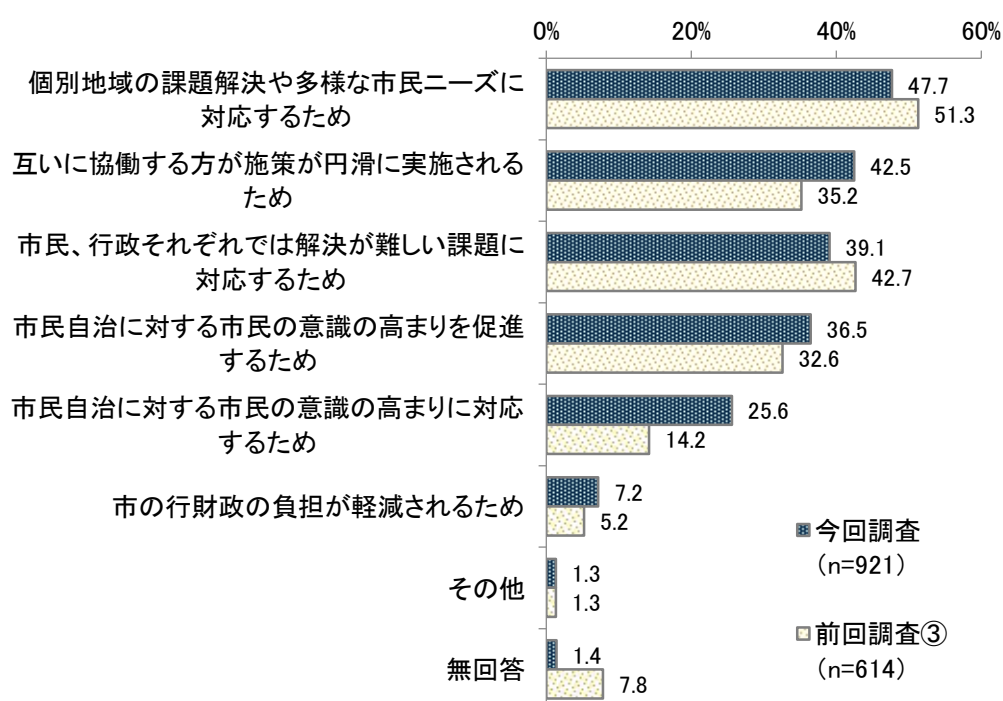


(13) 問 50 市民参画・協働が必要だと思う理由（3つまで選択）

「個別地域の課題解決や多様な市民ニーズに対応するため」の割合が最も高く 47.7%となっている。次いで、「互いに協働する方が施策が円滑に実施されるため（42.5%）」、「市民、行政それぞれでは解決が難しい課題に対応するため（39.1%）」となっている。

前回調査③と比較すると、「互いに協働する方が施策が円滑に実施されるため」「市民自治に対する市民の意識の高まりを促進するため」「市民自治に対する市民の意識の高まりに対応するため」の割合が上昇し、「個別地域の課題解決や多様な市民ニーズに対応するため」「市民・行政それぞれでは解決が難しい課題に対応するため」の割合が低下している。

図表 II-159 市民参画・協働が必要だと思う理由



男性は女性よりも、「互いに協働する方が施策が円滑に実施されるため」「市の行財政の負担が軽減されるため」の割合が高くなっている。

年代別にみると、20代は他の年代と比較して、「個別地域の課題解決や多様な市民ニーズに対応するため」の割合が高く、「市民自治に対する市民の意識の高まりを促進するため」の割合が低くなっている。20代、30代は他の年代と比較して、「個別地域の課題解決や多様なニーズに対応するため」の割合が高くなっている。

図表 II-160 市民参画・協働が必要だと思う理由（クロス集計）

(%)

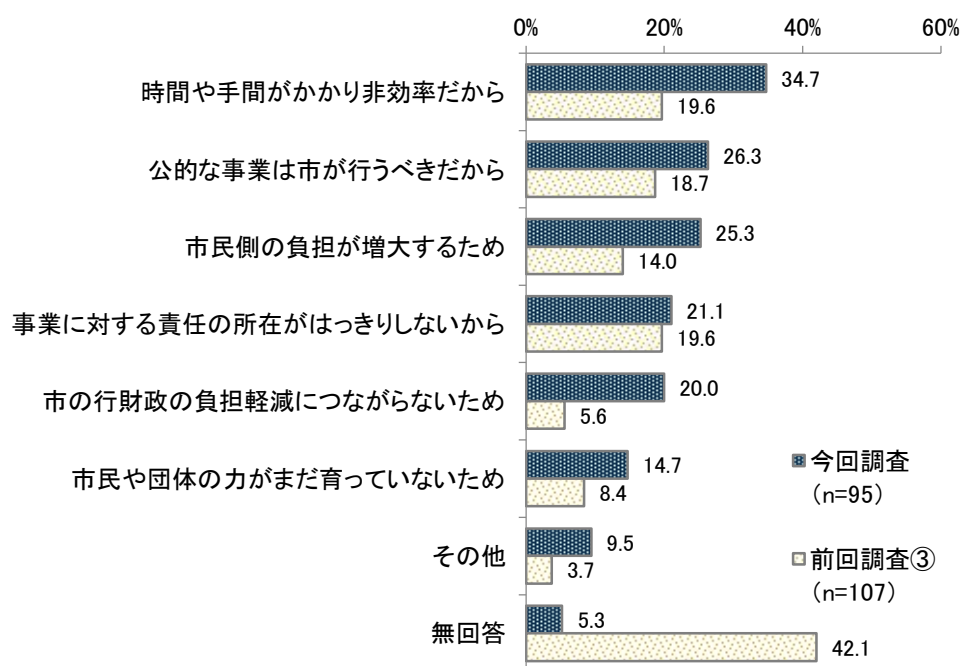
		調査数	市民、行政それぞれで は解決が難しい課題に 対応するため	多様な市民ニーズに 応するため	個別地域の課題解決や 多様な市民ニーズに 対応するため	互いに協働する方が施 策が円滑に実施される ため	市の行財政の負担が軽 減されるため	市民自治に 対する 市民自治の意識の高まりに 対する 市民自治の意識の高まりを 促進するため	その他	無回答
市全体		921	39.1	47.7	42.5	7.2	25.6	36.5	1.3	1.4
性別	男性	368	39.7	44.8	45.7	9.5	24.5	36.1	1.9	1.1
	女性	549	38.6	49.4	40.4	5.6	26.4	36.6	0.9	1.6
年代別	10歳代	33	51.5	48.5	33.3	6.1	27.3	24.2	0.0	3.0
	20歳代	83	39.8	53.0	42.2	9.6	26.5	21.7	1.2	2.4
	30歳代	90	31.1	54.4	36.7	8.9	25.6	37.8	0.0	1.1
	40歳代	144	40.3	50.0	41.7	4.9	21.5	37.5	2.1	0.0
	50歳代	182	41.8	46.7	46.2	4.9	21.4	29.1	2.7	2.2
	60歳代	131	39.7	41.2	42.7	7.6	26.7	38.2	0.8	1.5
	70歳代	139	38.1	50.4	47.5	10.1	29.5	43.2	0.0	0.7
	80歳以上	113	34.5	41.6	38.1	7.1	30.1	51.3	1.8	1.8

(14) 問 51 市民参画・協働が不要だと思う理由（3つまで選択）

「時間や手間がかかり非効率だから」の割合が最も高く 34.7%となっている。次いで、「公的な事業は市が行うべきだから（26.3%）」、「市民側の負担が増大するため（25.3%）」となっている。

前回調査③と比較すると、「市民側の負担が増大するため」「市の行財政の負担軽減につながらないため」の割合が大幅に上昇した。

図表 II- 161 市民参画・協働が不要だと思う理由



（注）前回調査③では「市民側の負担が増大するため」は「市民の側の負担が増大するため」となっている。

女性は男性よりも「時間や手間がかかり非効率だから」「市民や団体の力がまだ育っていないため」「市民側の負担が増大するため」の割合が高く、「市の行財政の負担軽減につながらないため」の割合が低くなっている。

図表 II-162 市民参画・協働が不要だと思う理由（クロス集計）

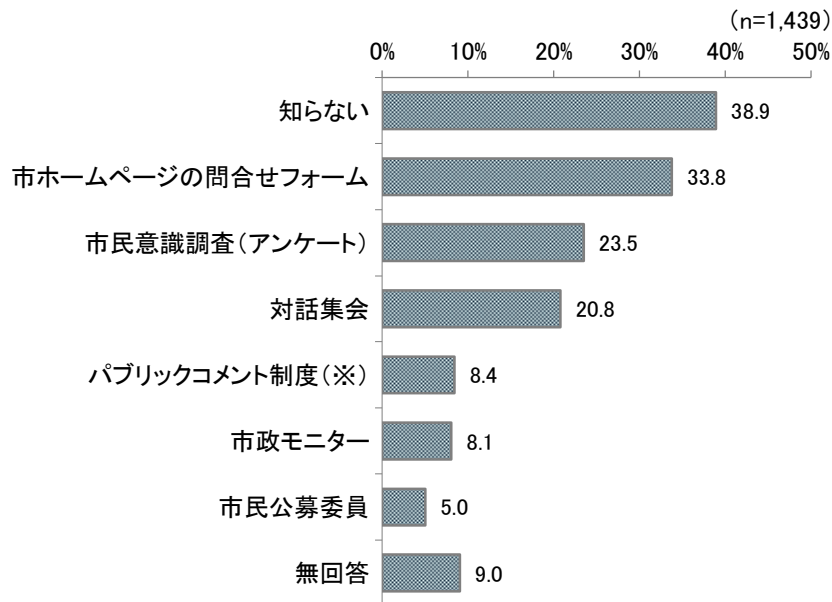
(%)

		調査数	時間や手間がかかり非効率だから	市民や団体の力がまだ育っていないため	市の行財政の負担軽減につながらないため	市民側の負担が増大するため	公的な事業は市が行うべきだから	事業に対する責任の所在がはっきりしないのか	その他	無回答
市全体		95	34.7	14.7	20.0	25.3	26.3	21.1	9.5	5.3
性別	男性	46	26.1	8.7	23.9	17.4	26.1	21.7	17.4	6.5
	女性	47	42.6	21.3	14.9	31.9	25.5	21.3	2.1	4.3
年代別	10歳代	2	50.0	0.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0
	20歳代	7	28.6	0.0	28.6	57.1	0.0	28.6	0.0	0.0
	30歳代	7	42.9	28.6	14.3	28.6	28.6	28.6	14.3	0.0
	40歳代	13	61.5	15.4	38.5	38.5	23.1	7.7	0.0	0.0
	50歳代	20	35.0	20.0	10.0	10.0	30.0	15.0	5.0	10.0
	60歳代	16	25.0	12.5	0.0	31.3	31.3	31.3	18.8	0.0
	70歳代	13	30.8	15.4	23.1	15.4	46.2	38.5	7.7	0.0
	80歳以上	16	18.8	6.3	25.0	18.8	12.5	6.3	18.8	18.8

(15) 問 52 市民の声を届ける方法や機会について知っているもの（複数選択）

「知らない」の割合が最も高く 38.9%となっている。次いで、「市ホームページの問合せフォーム（33.8%）」、「市民意識調査（アンケート）（23.5%）」となっている。

図表 II-163 市民の声を届ける方法や機会について知っているもの



(※) 市が施策を策定するにあたり広く市民の意見を求め、その意見に対する市の考えなどを公表する手続き。

女性は男性よりも「対話集会」の認知度が高くなっている。

年代別にみると、10代は他の年代と比較して、「知らない」の割合が高くなっている。

図表 II-164 市民の声を届ける方法や機会について知っているもの（クロス集計）

		調査数	市のホームページの問合せフォーム	市政モニター	市民公募委員	市民意識調査(アンケート)	パブリックコメント制度	対話集会	知らない	無回答
市全体		1,439	33.8	8.1	5.0	23.5	8.4	20.8	38.9	9.0
性別	男性	585	35.0	8.4	5.0	22.9	9.7	17.1	41.5	8.0
	女性	840	33.3	8.0	5.0	24.2	7.1	23.5	37.0	9.5
年代別	10歳代	45	17.8	4.4	2.2	13.3	13.3	13.3	64.4	4.4
	20歳代	119	34.5	4.2	4.2	25.2	8.4	14.3	42.0	8.4
	30歳代	140	38.6	4.3	4.3	28.6	7.9	16.4	42.1	6.4
	40歳代	205	38.5	6.3	6.8	20.0	10.2	26.8	36.1	4.9
	50歳代	282	40.1	6.4	3.2	24.8	9.2	20.9	39.0	4.3
	60歳代	216	37.0	10.6	3.7	20.4	7.4	21.3	37.0	12.0
	70歳代	226	29.6	8.8	9.7	27.4	10.2	23.5	37.2	8.8
	80歳以上	197	21.3	14.2	3.0	21.8	2.5	19.3	36.0	19.8

7. 市政情報について

(1) 問 53 市政情報の認知度

「①広報あしや」では「よく知っている」が最も高く 46.6%となっている。次いで「知っているし、見たことがある（41.4%）」、「存在は知っているが、見たことが無い（5.4%）」となっている。

「②市のホームページ」では「知っているし、見たことがある」が最も高く 44.8%となっている。次いで「存在は知っているが、見たことが無い（18.0%）」、「見たことが無い（14.7%）」となっている。

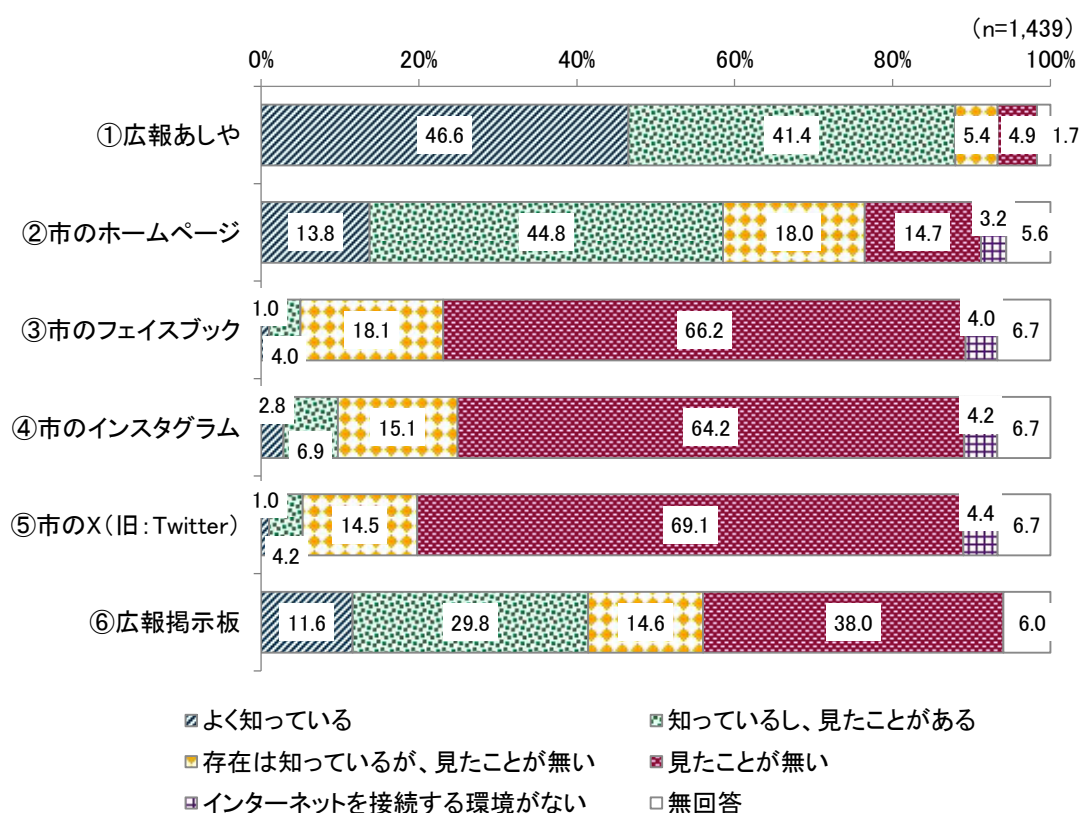
「③市のフェイスブック」では「見たことが無い」が最も高く 66.2%となっている。次いで「存在は知っているが、見たことが無い（18.1%）」、「インターネットを接続する環境がない（4.0%）」となっている。

「④市のインスタグラム」では「見たことが無い」が最も高く 64.2%となっている。次いで「存在は知っているが、見たことが無い（15.1%）」、「知っているし、見たことがある（6.9%）」となっている。

「⑤市の X（旧：Twitter）」では「見たことが無い」が最も高く 69.1%となっている。次いで「存在は知っているが、見たことが無い（14.5%）」、「インターネットを接続する環境がない（4.4%）」となっている。

「⑥広報掲示板」では「見たことが無い」が最も高く 38.0%となっている。次いで「知っているし、見たことがある（29.8%）」、「存在は知っているが、見たことが無い（14.6%）」となっている。

図表 II-165 市政情報の認知度



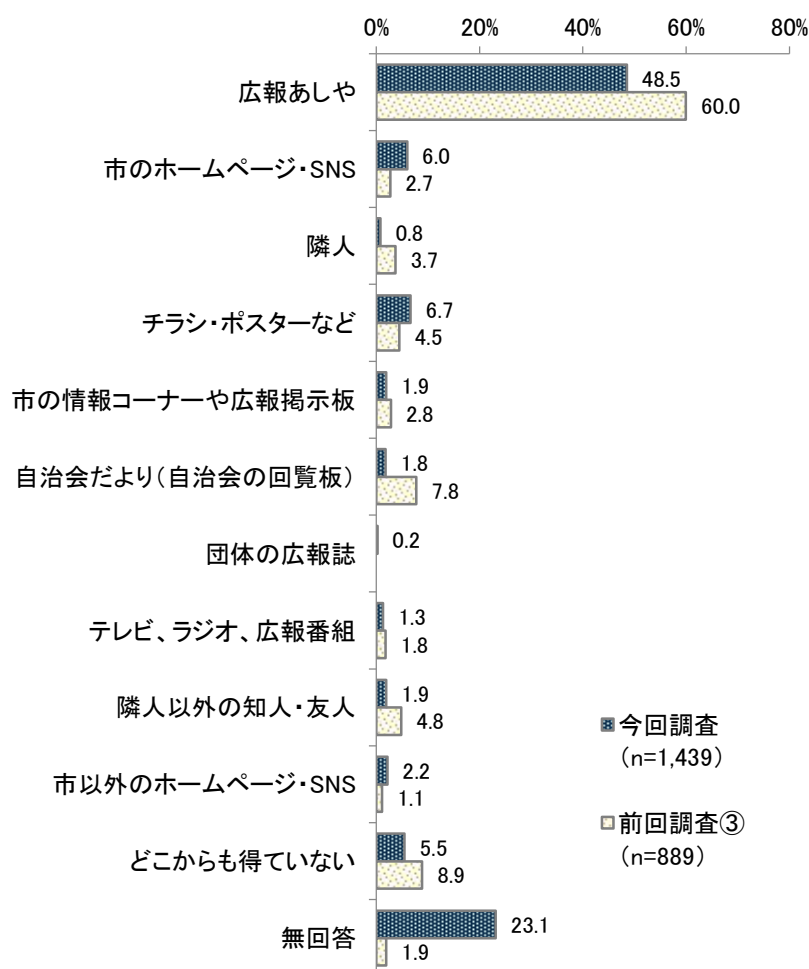
(注) 「①広報あしや」「⑥広報掲示板」については選択肢「インターネットを接続する環境がない」がない。

(2) 問 54 地域や文化などに関する情報の入手方法

「広報あしや」の割合が最も高く 48.5%となっている。次いで、「チラシ・ポスターなど（6.7%）」、「市のホームページ・SNS（6.0%）」となっている。

前回調査③と比較すると、「広報あしや」「自治会だより」の割合が低下し、「市のホームページ・SNS」の割合が上昇している。

図表 II- 166 地域や文化などに関する情報の入手方法



(注) 前回調査③では設問が「地域の情報をどのように入手していますか。」となっており、選択肢「市のホームページ・SNS」は「市の HP・SNS」、「市以外のホームページ・SNS」は「市以外の HP・SNS」となっている。「団体の広報誌」は今回新たに追加された選択肢である。

女性は男性よりも「広報あしや」の割合が高くなっている。

年代別にみると、40 代から 60 代は、「広報あしや」から情報を入手している割合が高く、10 代は「どこからも得ていない」の割合が高くなっている。

地区別にみると、「潮見小学校区」は他の地域と比較して「広報あしや」から情報を入手している割合が高くなっている。

図表 II-167 地域や文化などに関する情報の入手方法（クロス集計）

(%)

		調査数	広報あしや	S N ベ市の N ジ・ホーム	隣人	チラシ・ポスターなど	市の情報コーナーや広報掲示板	（自治会だより 覧板）	団体の広報誌
市全体		1,439	48.5	6.0	0.8	6.7	1.9	1.8	0.2
性別	男性	585	45.3	7.4	1.4	7.5	1.4	2.4	0.3
	女性	840	51.0	5.1	0.5	6.1	2.3	1.4	0.1
年代別	10歳代	45	17.8	11.1	4.4	13.3	2.2	0.0	0.0
	20歳代	119	28.6	10.1	2.5	8.4	1.7	3.4	0.0
	30歳代	140	29.3	8.6	1.4	13.6	5.7	2.1	0.7
	40歳代	205	45.9	10.2	0.0	11.2	1.0	2.0	0.5
	50歳代	282	52.5	6.7	0.7	5.7	2.5	1.4	0.0
	60歳代	216	49.1	5.1	0.0	3.2	1.9	1.9	0.0
	70歳代	226	63.7	1.8	0.9	3.5	1.3	1.8	0.4
	80歳以上	197	61.9	0.0	0.5	2.5	0.5	1.5	0.0
居住地区	奥池地区	20	40.0	10.0	0.0	5.0	0.0	10.0	0.0
	山手小学校区(※1)	245	50.2	5.7	0.4	7.8	2.0	1.2	0.0
	岩園小学校区	196	41.3	9.7	0.5	5.6	1.5	3.1	0.0
	朝日ヶ丘小学校区	107	44.9	6.5	0.9	9.3	0.9	0.0	0.0
	精道小学校区	226	54.0	4.4	1.3	7.1	4.0	0.4	0.0
	宮川小学校区	184	45.1	6.0	0.5	6.0	1.6	3.8	0.5
	打出浜小学校区	169	46.7	4.1	0.6	6.5	1.8	1.2	0.6
	浜風小学校区	129	45.7	8.5	0.8	6.2	2.3	1.6	0.0
	潮見小学校区(※2)	92	63.0	3.3	1.1	3.3	0.0	2.2	1.1
	南芦屋浜地区	67	53.7	3.0	3.0	9.0	1.5	1.5	0.0

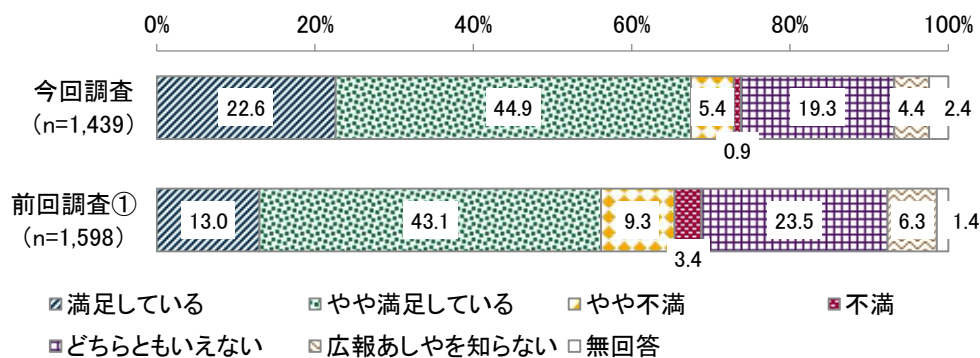
		オ、テレ レ、ビ、 報、番 組、ジ	人隣・人 友以 人外 の知	S M 市の N ベ以 S 外の ジ・ホ ー	てど いこ ない らも 得	無 回 答
市全体		1.3	1.9	2.2	5.5	23.1
性別	男性	2.4	1.4	2.9	7.7	20.0
	女性	0.6	2.4	1.7	3.7	25.2
年代別	10歳代	0.0	11.1	2.2	20.0	17.8
	20歳代	3.4	4.2	6.7	15.1	16.0
	30歳代	1.4	3.6	4.3	5.7	23.6
	40歳代	1.0	2.4	2.4	7.3	16.1
	50歳代	0.4	1.4	3.2	4.3	21.3
	60歳代	2.8	0.9	0.5	2.8	31.9
	70歳代	0.4	0.9	0.4	1.8	23.0
	80歳以上	1.5	0.0	0.0	3.0	28.4
居住地区	奥池地区	0.0	0.0	0.0	5.0	30.0
	山手小学校区(※1)	0.8	3.3	2.0	4.1	22.4
	岩園小学校区	2.6	1.5	3.6	9.2	21.4
	朝日ヶ丘小学校区	0.9	1.9	0.9	5.6	28.0
	精道小学校区	0.9	2.7	1.8	2.2	21.2
	宮川小学校区	0.5	0.0	2.7	4.9	28.3
	打出浜小学校区	1.2	3.0	3.0	5.9	25.4
	浜風小学校区	2.3	0.8	1.6	10.9	19.4
	潮見小学校区(※2)	3.3	0.0	1.1	2.2	19.6
	南芦屋浜地区	0.0	4.5	1.5	4.5	17.9

(3) 問 55 「広報あしや」の満足度

「やや満足している」の割合が最も高く 44.9%となっている。次いで、「満足している（22.6%）」、「どちらともいえない（19.3%）」となっている。

前回調査①と比較すると、「満足している」の割合が上昇し、「やや不満」の割合が低下している。

図表 II-168 「広報あしや」の満足度

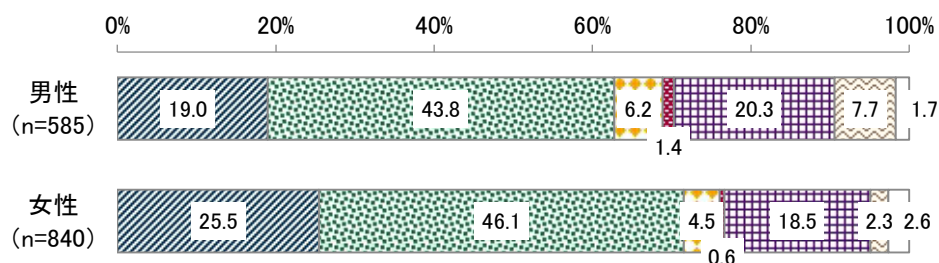


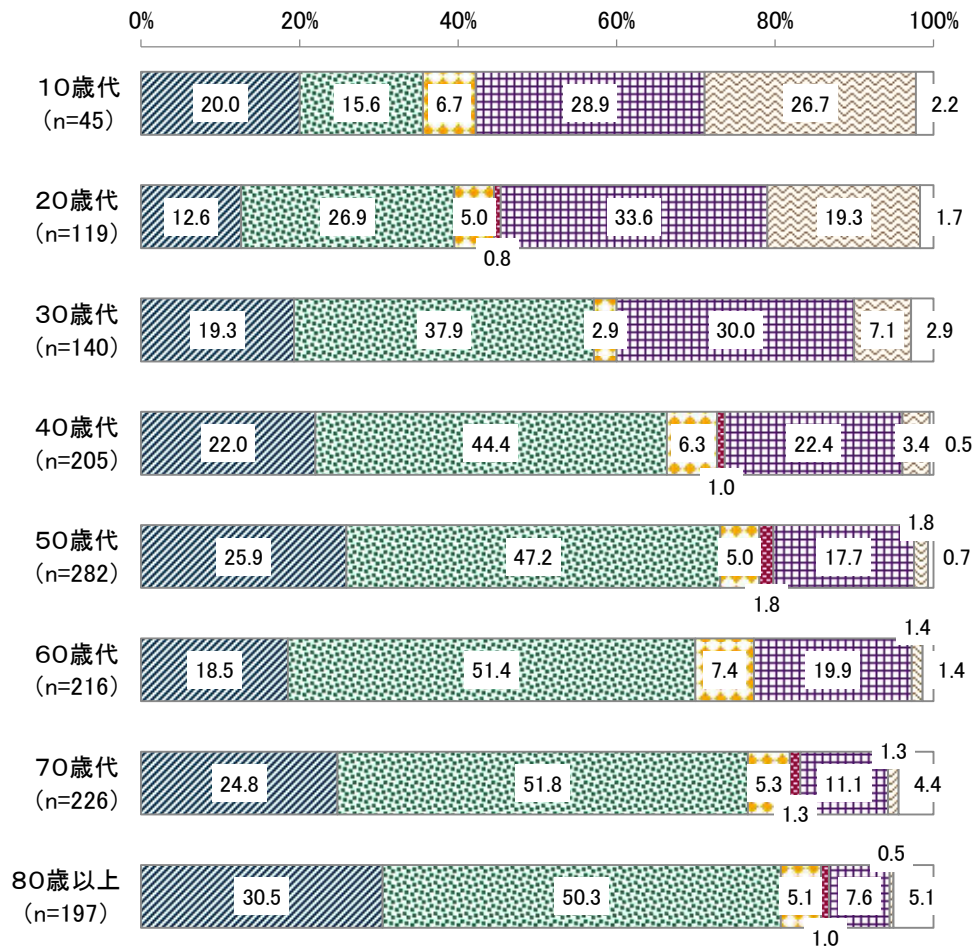
女性は男性よりも「満足している」割合が高くなっている。

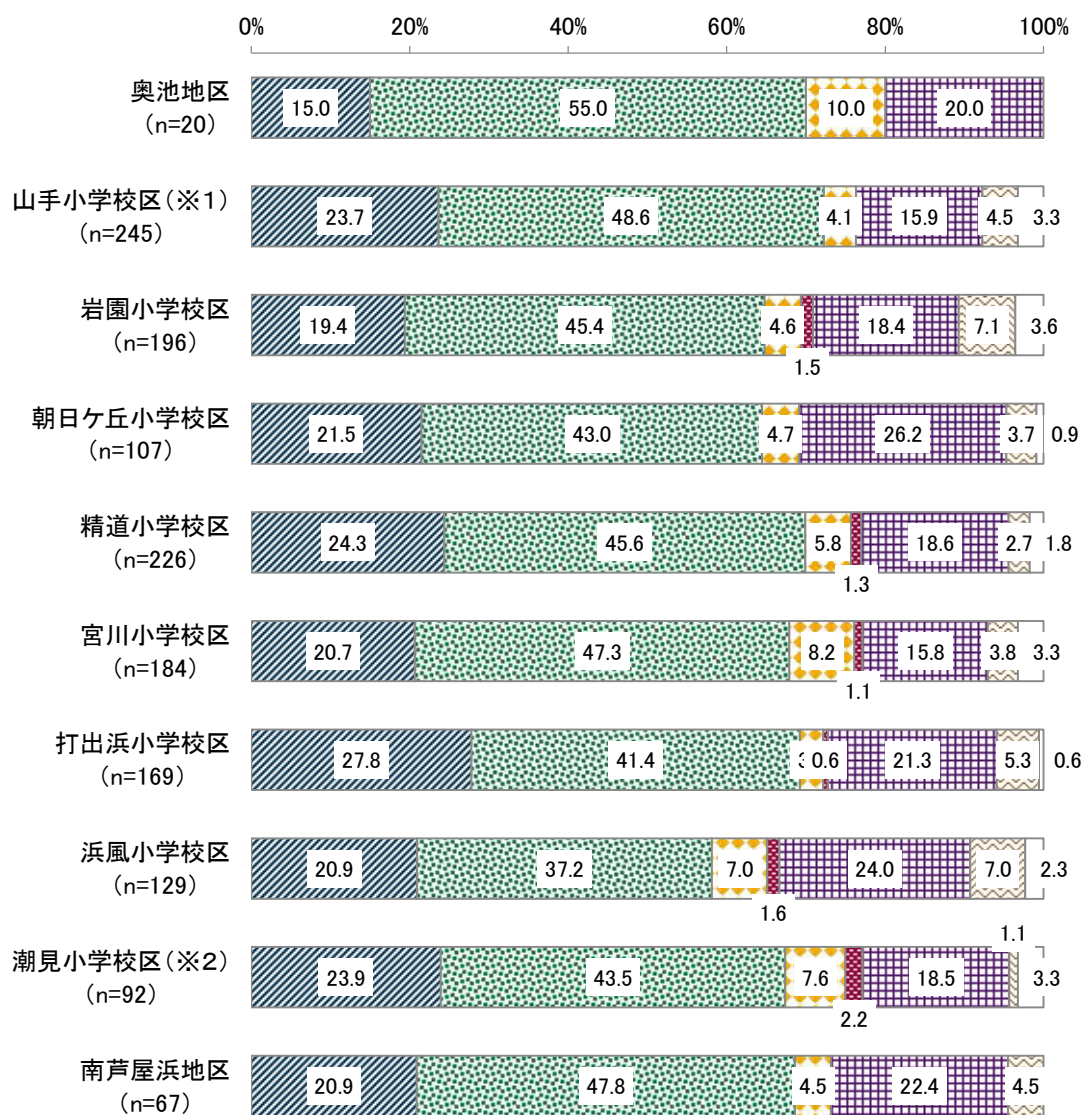
年代別にみると、年代が上がるほど「広報あしやをしらない」の割合は低くなっている。

地区別にみると、大きな差異はみられない。

図表 II-169 「広報あしや」の満足度（クロス集計）





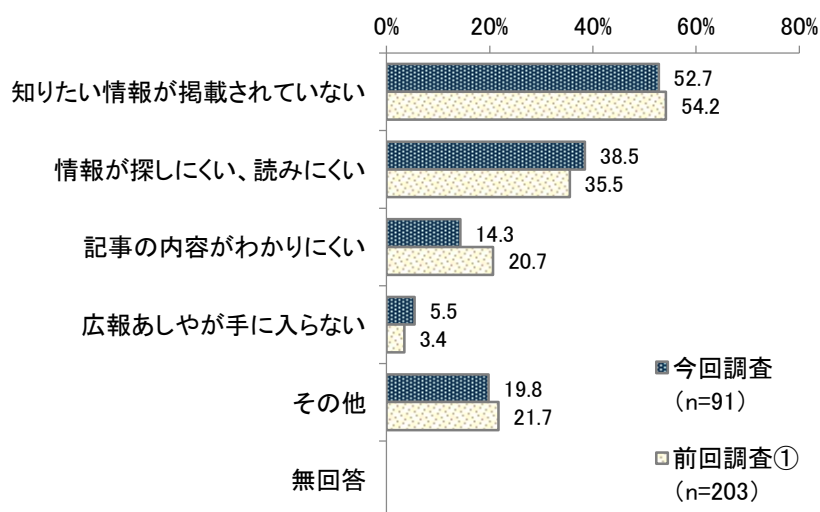


(4) 問 56 「広報あしや」に不満な理由（複数選択）

「知りたい情報が掲載されていない」の割合が最も高く 52.7%となっている。次いで、「情報が探しにくい、読みにくい（38.5%）」、「その他（19.8%）」となっている。

前回調査①と比較すると、「情報が探しにくい、読みにくい」の割合が上昇し、「記事の内容がわかりにくい」の割合が低下している。

図表 II-170 「広報あしや」に不満な理由



女性は男性よりも「情報が探しにくい、読みにくい」「知りたい情報が掲載されていない」ことを理由とする割合が高くなっている。

図表 II-171 「広報あしや」に不満な理由（クロス集計）

(%)

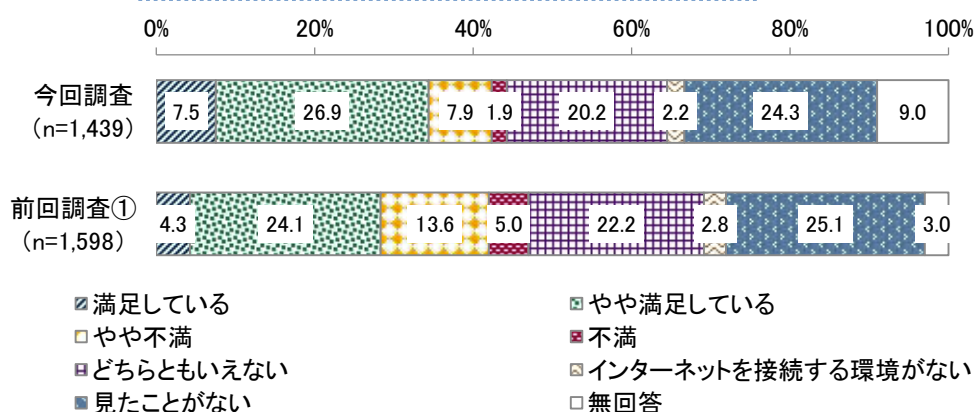
		調査数	広報あしやが手に取れない	情報が読みにくい	知りたかった情報が掲載されていない	記事の内容がわかりにくい	その他	無回答
市全体		91	5.5	38.5	52.7	14.3	19.8	0.0
性別	男性	44	6.8	31.8	50.0	13.6	22.7	0.0
	女性	43	4.7	44.2	55.8	11.6	18.6	0.0
年代別	10歳代	3	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0
	20歳代	7	14.3	28.6	57.1	0.0	28.6	0.0
	30歳代	4	0.0	75.0	50.0	25.0	0.0	0.0
	40歳代	15	0.0	26.7	60.0	13.3	13.3	0.0
	50歳代	19	5.3	36.8	57.9	15.8	26.3	0.0
	60歳代	16	0.0	56.3	37.5	25.0	12.5	0.0
	70歳代	15	0.0	26.7	60.0	13.3	20.0	0.0
	80歳以上	12	25.0	50.0	41.7	0.0	33.3	0.0
居住地区	奥池地区	2	50.0	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0
	山手小学校区(※1)	10	20.0	40.0	60.0	20.0	10.0	0.0
	岩園小学校区	12	0.0	41.7	33.3	8.3	16.7	0.0
	朝日ヶ丘小学校区	5	0.0	60.0	80.0	0.0	0.0	0.0
	精道小学校区	16	6.3	37.5	56.3	12.5	18.8	0.0
	宮川小学校区	17	5.9	29.4	64.7	17.6	11.8	0.0
	打出浜小学校区	6	0.0	50.0	50.0	16.7	16.7	0.0
	浜風小学校区	11	0.0	36.4	36.4	18.2	36.4	0.0
	潮見小学校区(※2)	9	0.0	44.4	33.3	22.2	44.4	0.0
	南芦屋浜地区	3	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0

(5) 問 57 「市のホームページ」の満足度

「やや満足している」の割合が最も高く 26.9%となっている。次いで、「見たことがない（24.3%）」、「どちらともいえない（20.2%）」となっている。

前回調査①と比較すると、「満足している」「やや満足している」の割合が上昇し、「やや不満」「不満」の割合が低下している。

図表 II- 172 「市のホームページ」の満足度

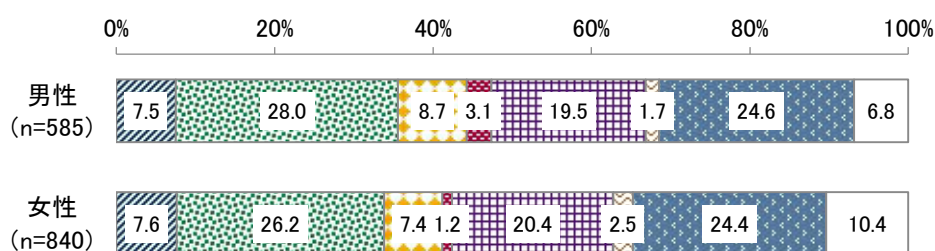


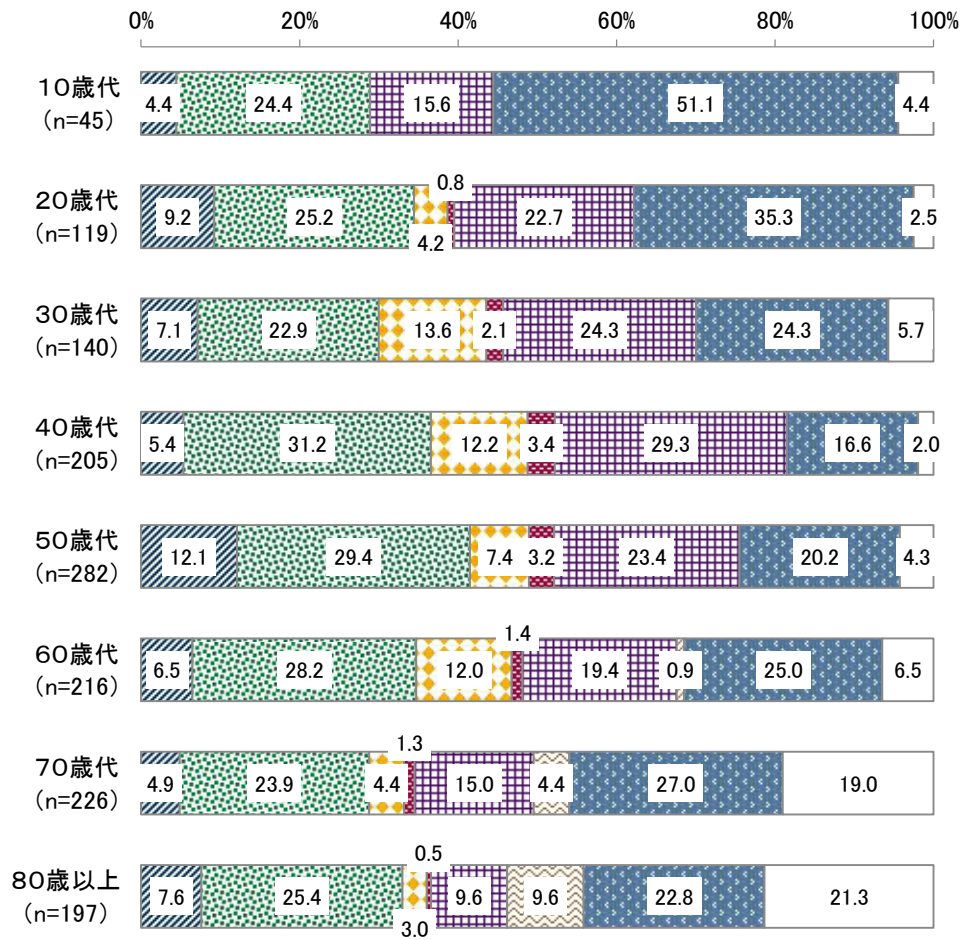
男女で大きな差異はみられない。

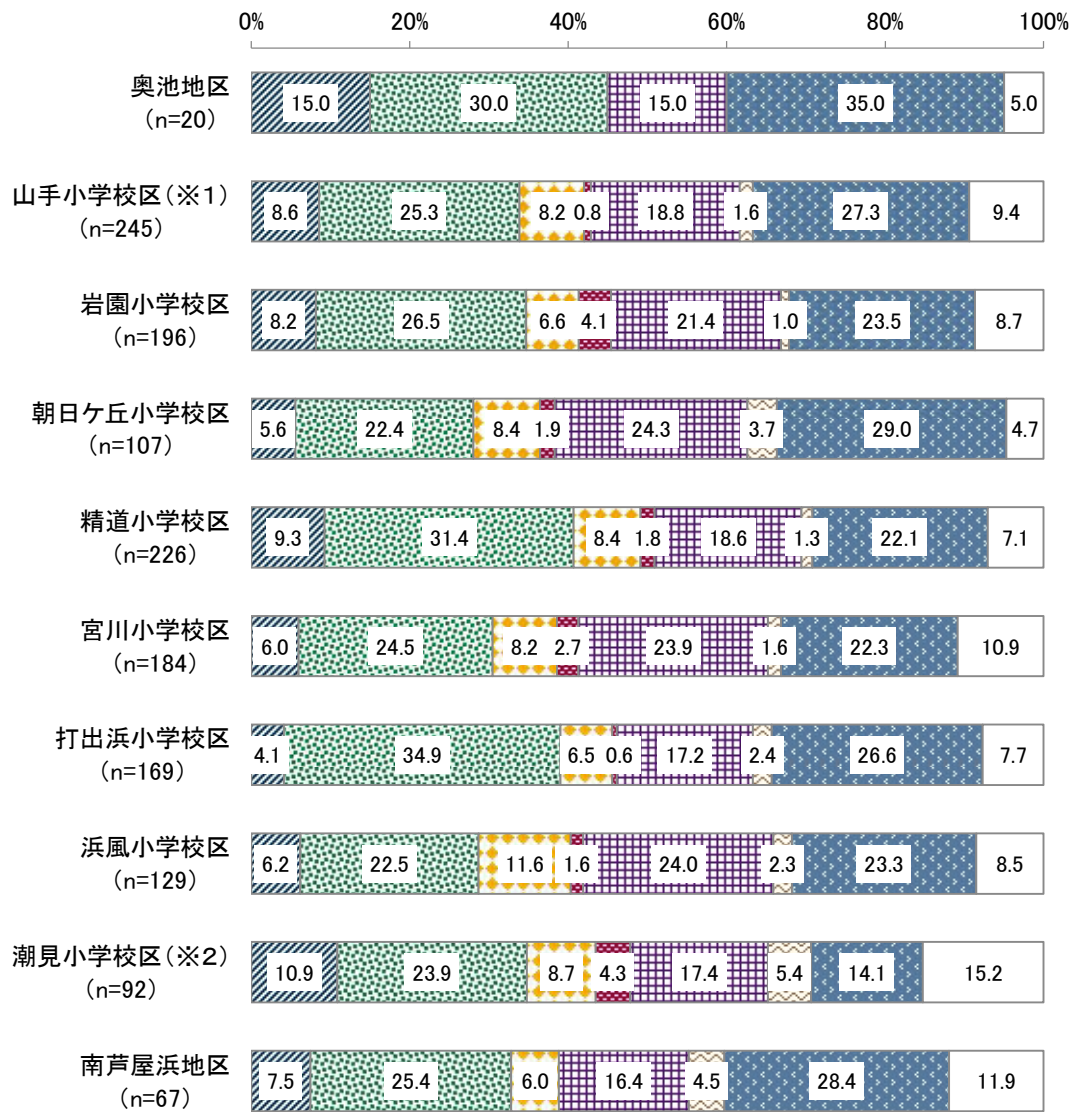
年代別にみると、30代、40代、60代は他の年代と比較して「やや不満」と回答した割合が高くなっている。

地区別にみると、「精道小学校区」は他の地域と比較して、「満足」「やや満足」と回答した割合が高くなっている。

図表 II- 173 「市のホームページ」の満足度（クロス集計）





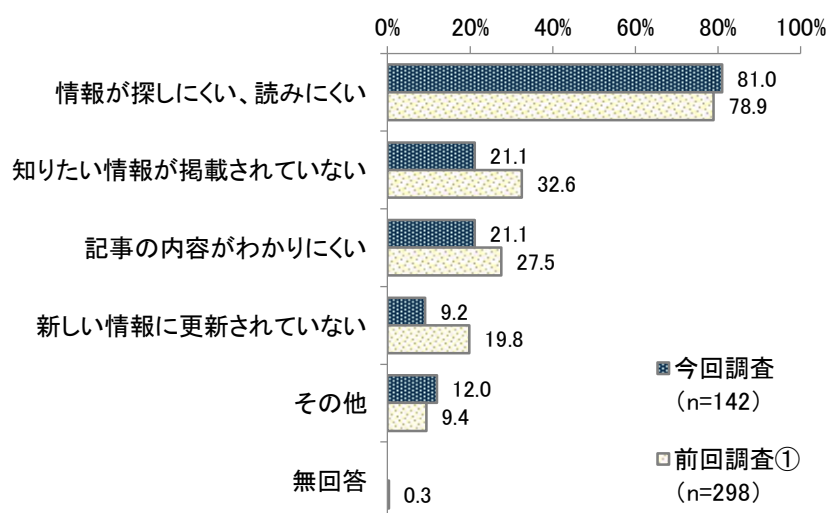


(6) 問 58 「市のホームページ」に不満な理由（複数選択）

「情報が探しにくい、読みにくい」の割合が最も高く 81.0%となっている。次いで、「知りたい情報が掲載されていない（21.1%）」、「記事の内容がわかりにくい（21.1%）」となっている。

前回調査①と比較すると、「知りたい情報が掲載されていない」「記事の内容がわかりにくい」「新しい情報に更新されていない」の割合が低下している。

図表 II- 174 「市のホームページ」に不満な理由



女性は男性よりも「情報が探しにくい」ことを理由に不満と回答した割合が高くなっている。男性は女性よりも「知りたい情報が掲載されていない」ことを理由に不満と回答した割合が高くなっている。

図表 II- 175 「市のホームページ」に不満な理由（クロス集計）

(%)

		調査数	新 さし れい て情 報に い更	い 情 報が 読み 探に にく	い 掲 載り され たい 情報 なが	か 記 り事 にの 内容 がわ	そ の 他	無 回 答
市全体		142	9.2	81.0	21.1	21.1	12.0	0.0
性別	男性	69	8.7	76.8	24.6	23.2	14.5	0.0
	女性	72	9.7	84.7	18.1	19.4	9.7	0.0
年代別	10歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代	6	16.7	100.0	0.0	0.0	16.7	0.0
	30歳代	22	4.5	86.4	13.6	18.2	13.6	0.0
	40歳代	32	3.1	90.6	21.9	31.3	6.3	0.0
	50歳代	30	20.0	66.7	23.3	23.3	20.0	0.0
	60歳代	29	3.4	86.2	17.2	24.1	6.9	0.0
	70歳代	13	15.4	76.9	30.8	0.0	7.7	0.0
	80歳以上	7	14.3	57.1	42.9	0.0	28.6	0.0
居住地区	奥池地区	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	山手小学校区(※1)	22	0.0	77.3	9.1	18.2	9.1	0.0
	岩園小学校区	21	9.5	81.0	28.6	33.3	14.3	0.0
	朝日ヶ丘小学校区	11	9.1	81.8	9.1	36.4	18.2	0.0
	精道小学校区	23	4.3	87.0	26.1	17.4	4.3	0.0
	宮川小学校区	20	10.0	65.0	30.0	10.0	25.0	0.0
	打出浜小学校区	12	8.3	83.3	16.7	8.3	0.0	0.0
	浜風小学校区	17	23.5	82.4	17.6	23.5	23.5	0.0
	潮見小学校区(※2)	12	16.7	91.7	33.3	25.0	0.0	0.0
	南芦屋浜地区	4	0.0	100.0	0.0	25.0	0.0	0.0

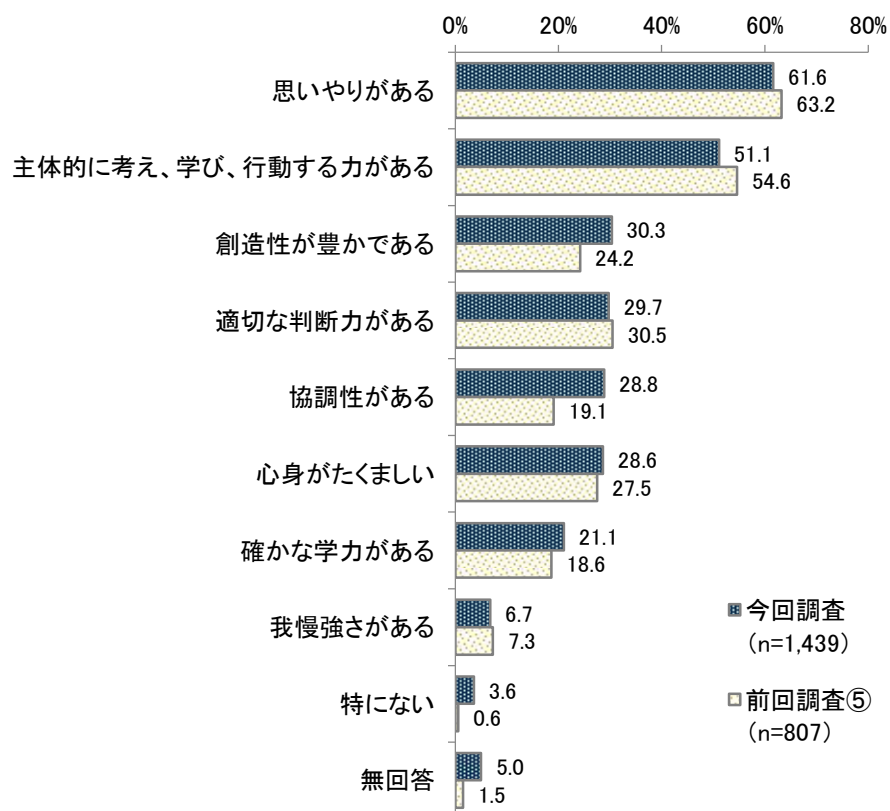
8. 教育や学習に関する取組について

(1) 問 59 芦屋市のこどもたちに、どのようなこどもになってほしいと思うか（3つまで選択）

「思いやりがある」の割合が最も高く 61.6%となっている。次いで、「主体的に考え、学び、行動する力がある（51.1%）」、「創造性が豊かである（30.3%）」となっている。

前回調査⑤と比較すると、「創造性が豊かである」「協調性がある」の割合が上昇している。

図表 II-176 芦屋市のこどもたちに、どのようなこどもになってほしいと思うか



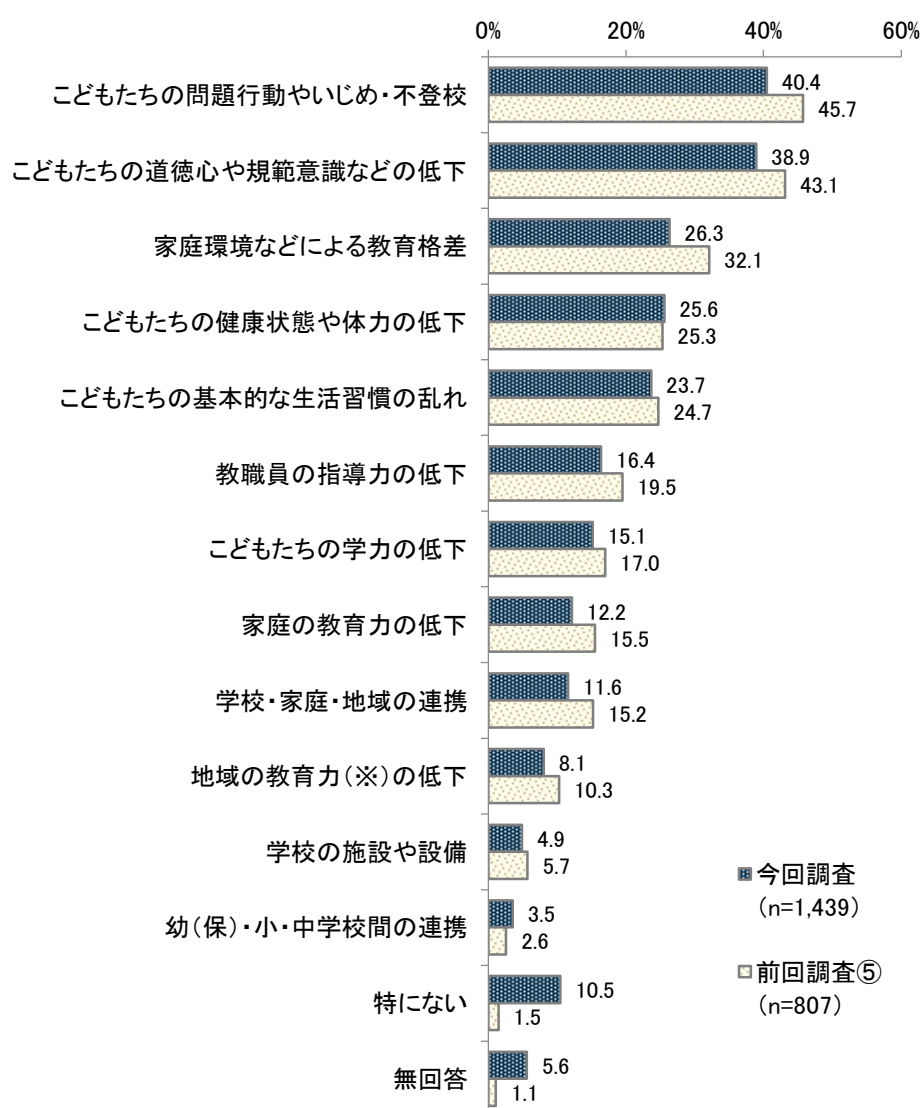
（注）前回調査⑤では「主体的に考え、学び、行動する力がある」は「自ら学び、考え、主体的に行動する力がある」となっている。また、前回調査⑤では上記に加えて「他人を認められる」「自立心がある」「わからない」「その他」という選択肢があったが、今回は該当する選択肢がない。

(2) 問 60 こどもたちや教育について課題と感じていること（3つまで選択）

「こどもたちの問題行動やいじめ・不登校」の割合が最も高く 40.4%となっている。次いで、「こどもたちの道徳心や規範意識などの低下（38.9%）」、「家庭環境などによる教育格差（26.3%）」となっている。

前回調査⑤と比較すると、「こどもたちの問題行動やいじめ・不登校」「こどもたちの道徳心や規範意識などの低下」「家庭環境などによる教育格差」をはじめ、全体的に低下し、「特にない」の割合が上昇している。

図表 II-177 こどもたちや教育について課題と感じていること



(※) 地域の教育力：地域はこどもにとって、様々な年齢層や立場の人々と触れ合うことで、社会経験を積み重ね、社会性や公共性を得ることのできる「場」であり、その意味からも地域における教育は重要と考えられています。

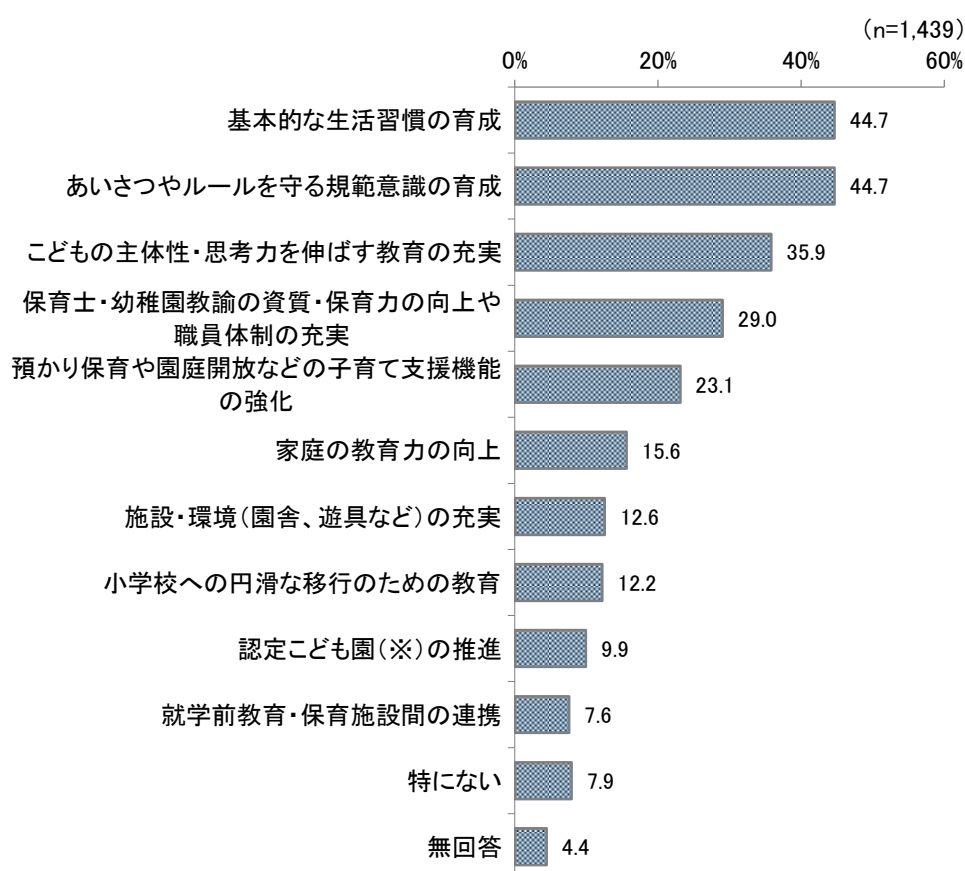
(注) 前回調査⑤では、上記に加えて「わからない」「その他」という選択肢があったが、今回は該当する選択肢がない。

(3) 問 61 就学前教育の充実のために必要な取組（3つまで選択）

「基本的な生活習慣の育成」、「あいさつやルールを守る規範意識の育成」の割合が高く、それぞれ44.7%となっている。次いで、「こどもの主体性・思考力を伸ばす教育の充実（35.9%）」となっている。

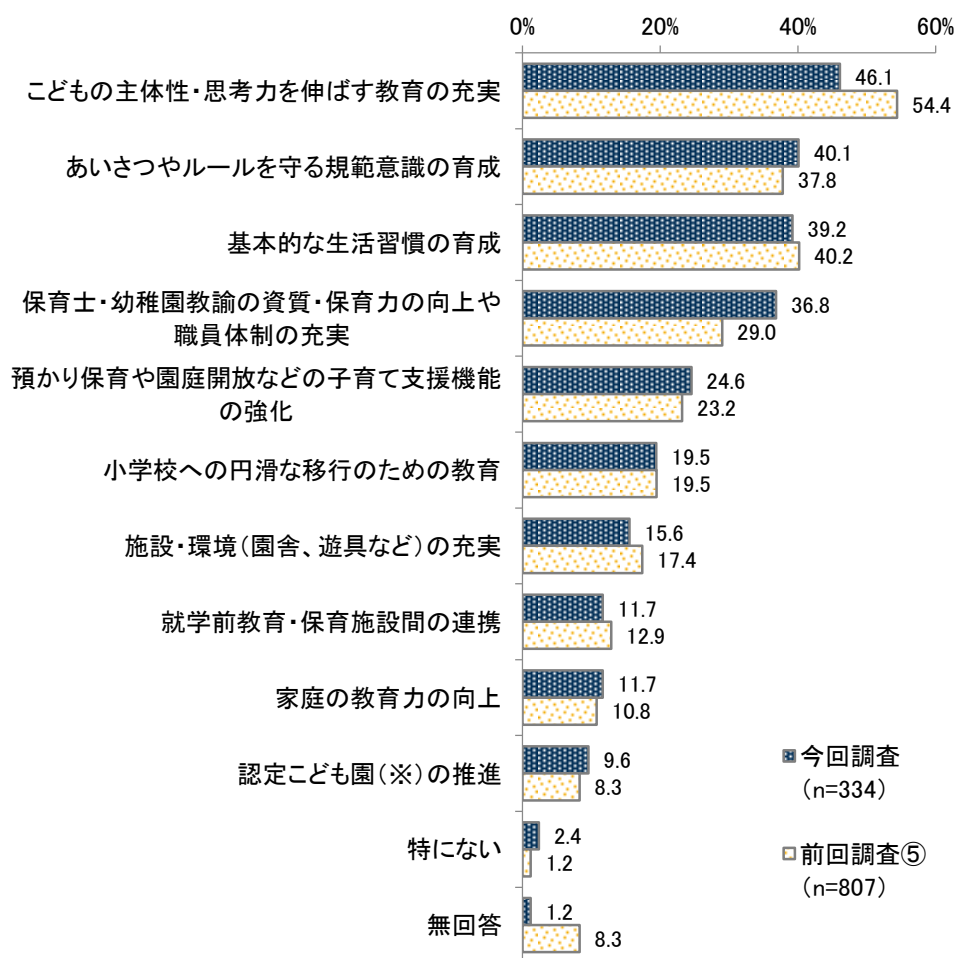
高校生までの子どもがいる回答者に限定し、前回調査⑤と比較すると、「保育士・幼稚園教諭の資質・保育力の向上や職員体制の充実」の割合が上昇し、「こどもの主体性・思考力を伸ばす教育の充実」の割合が低下している。

図表 II-178 就学前教育の充実のために必要な取組



(※) 認定こども園：幼稚園と保育所の機能や特徴をあわせ持ち、地域の子育て支援も行う施設

図表 II- 179 就学前教育の充実のために必要な取組（前回調査⑤との比較）



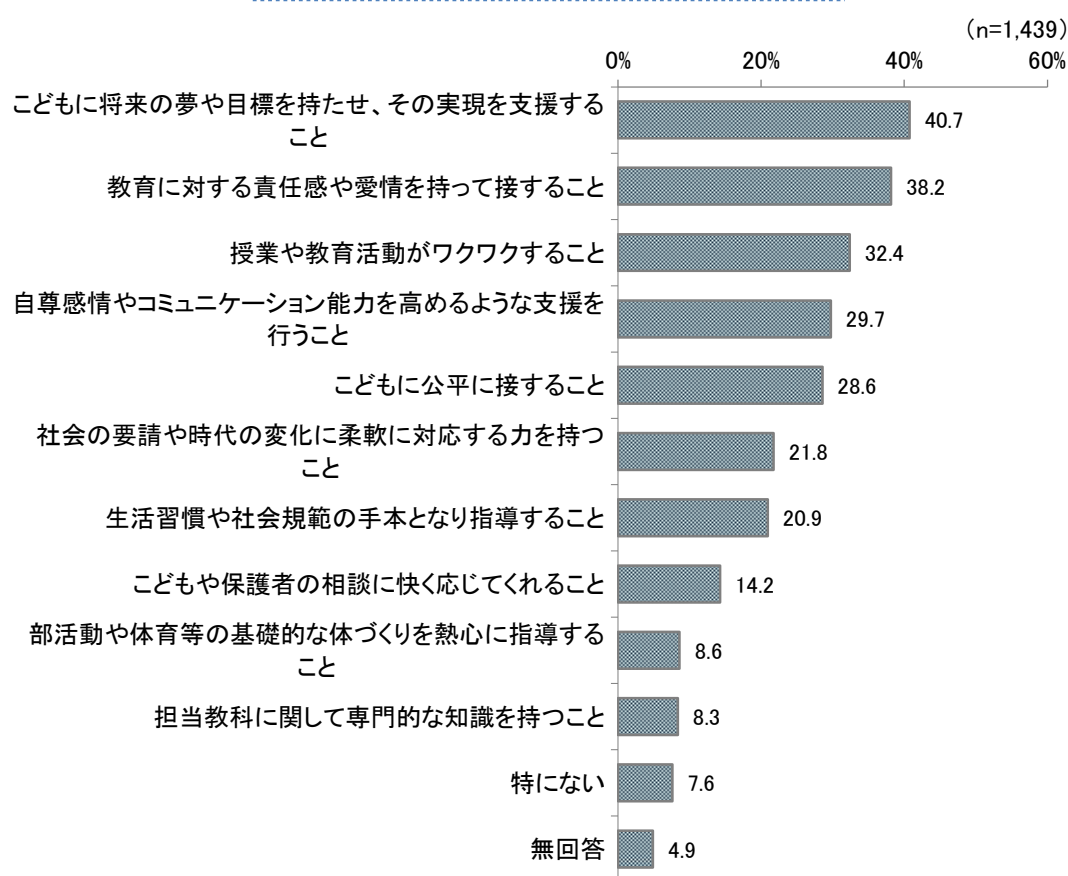
（注）前回調査⑤では、「高校生までの子どもがいる回答者」に限定して聞いていたため、今回調査のデータから「高校生までの子どもが居る世帯」のみを抽出した結果と比較している。また、前回調査⑤では、上記に加えて「わからない」「その他」という選択肢があったが、今回は該当する選択肢がないため表示していない。

(4) 問 62 小・中学校に対して望むこと（3つまで選択）

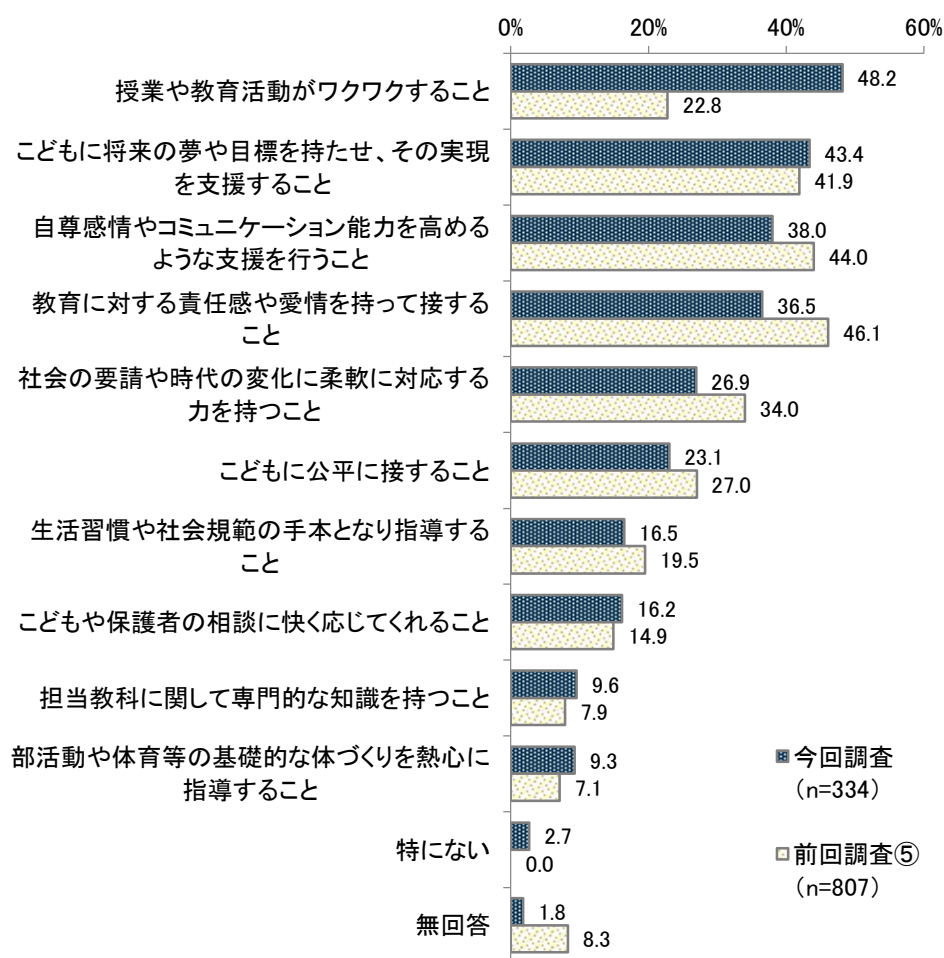
「こどもに将来の夢や目標を持たせ、その実現を支援すること」の割合が最も高く 40.7%となっている。次いで、「教育に対する責任感や愛情を持って接すること（38.2%）」、「授業や教育活動がワクワクすること（32.4%）」となっている。

高校生までの子どもがいる回答者に限定し、前回調査⑤と比較すると、「授業や教育活動がワクワクすること」の割合が大幅に上昇し、「自尊感情やコミュニケーション能力を高めるような支援を行うこと」「教育に対する責任感や愛情を持って接すること」「社会の養成や時代の変化に柔軟に対応する力を持つこと」「こどもに公平に接すること」「生活習慣や社会規範の手本となり指導すること」の割合が低下している。

図表 II-180 小・中学校に対して望むこと



図表 II-181 小・中学校に対して望むこと（前回調査⑤との比較）



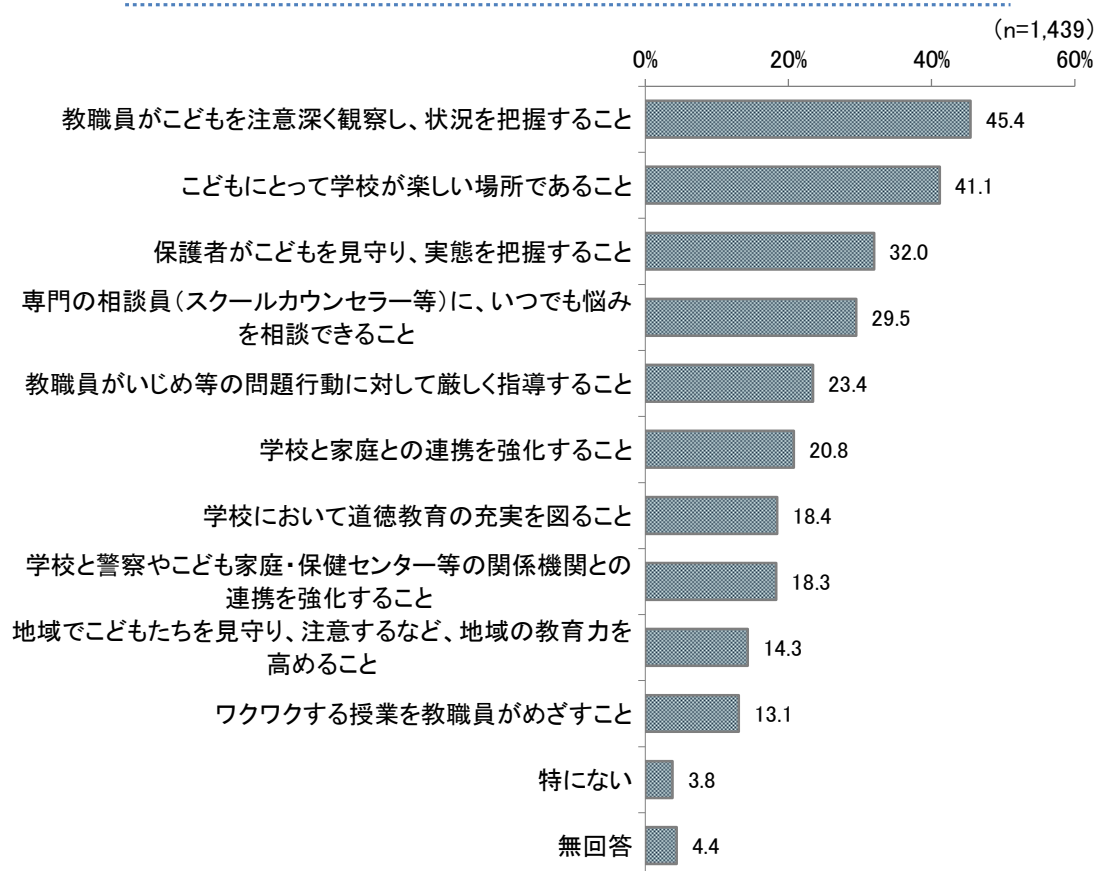
（注）前回調査⑤では、「高校生までの子どもがいる回答者」に限定して聞いていたため、今回調査のデータから「高校生までの子どもが居る世帯」のみを抽出した結果と比較している。また、前回調査⑤では、「授業や教育活動がワクワクすること」は「わかりやすい授業を工夫すること」となっているほか、上記に加えて「わからない」「その他」という選択肢があったが、今回は該当する選択肢がないため表示していない。

(5) 問 63 いじめや不登校などを防ぐために必要だと思うこと（3つまで選択）

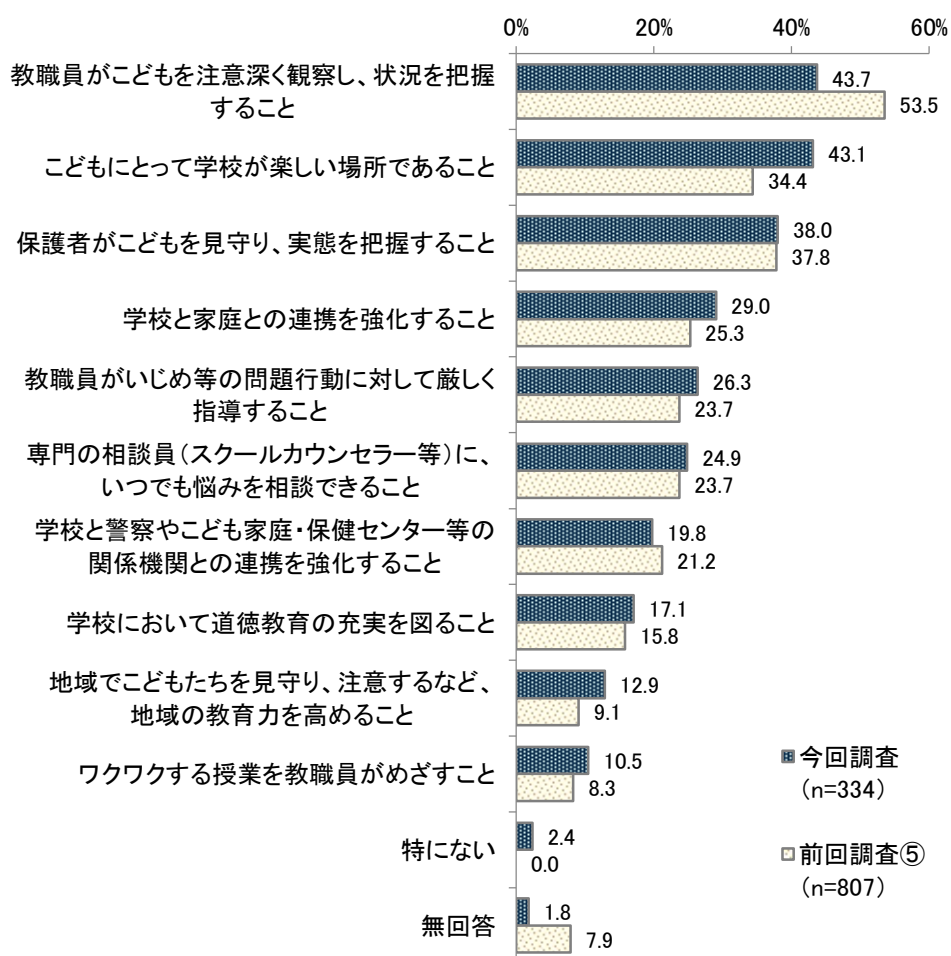
「教職員が子どもを注意深く観察し、状況を把握すること」の割合が最も高く 45.4%となっている。次いで、「子どもにとって学校が楽しい場所であること（41.1%）」、「保護者が子どもを見守り、実態を把握すること（32.0%）」となっている。

高校生までの子どもがいる回答者に限定し、前回調査⑤と比較すると、「教職員が子どもを注意深く観察し、状況を把握すること」の割合が低下し、「子どもにとって学校が楽しい場所であること」「学校と家庭の連携を強化すること」の割合が上昇している。

図表 II-182 いじめや不登校などを防ぐために必要だと思うこと



図表 II- 183 いじめや不登校などを防ぐために必要だと思うこと（前回調査⑤との比較）

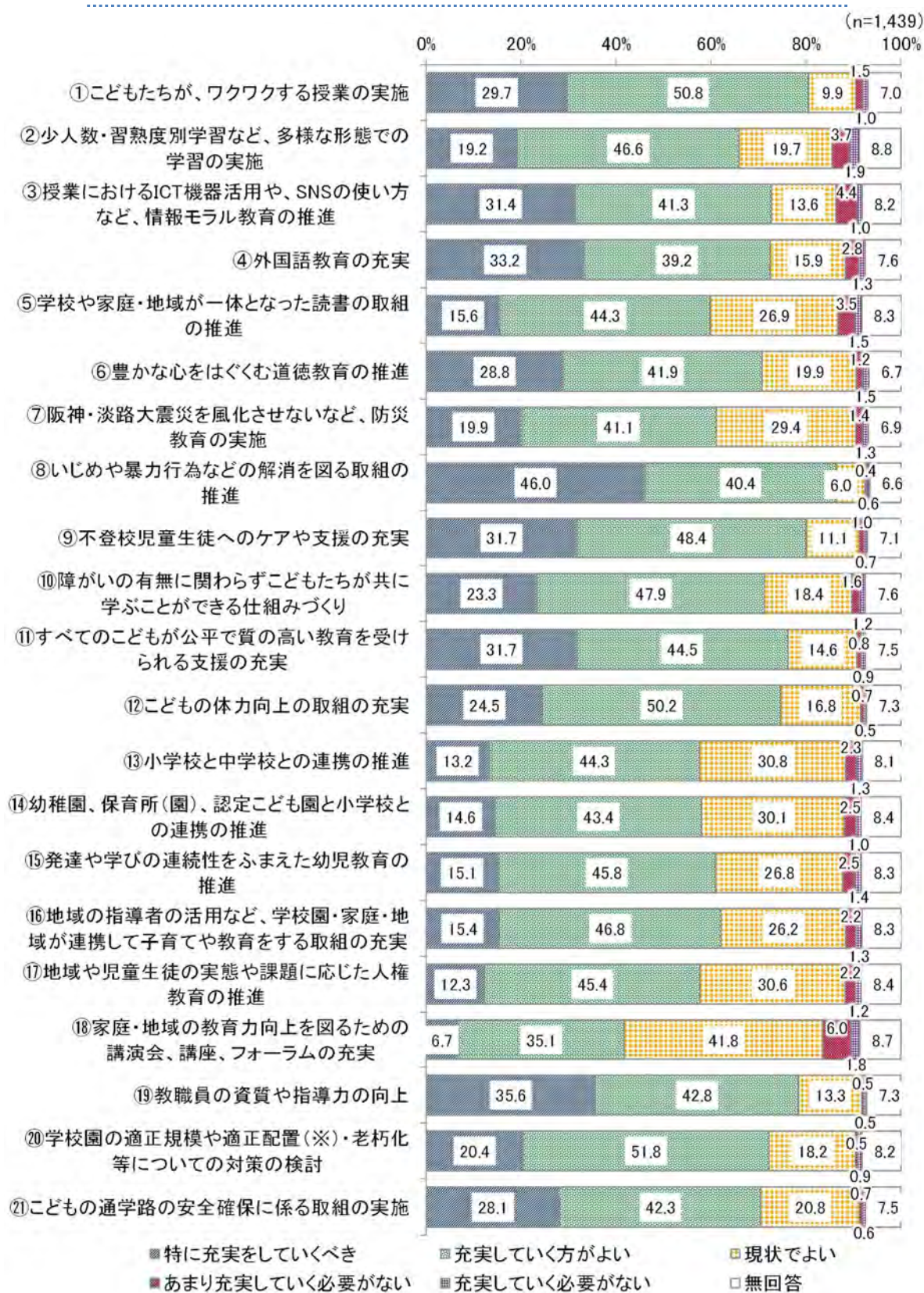


（注）前回調査⑤では、「高校生までの子どもがいる回答者」に限定して聞いていたため、今回調査のデータから「高校生までの子どもが居る世帯」のみを抽出した結果と比較している。また、前回調査⑤では、「ワクワクする授業を教職員がめざすこと」は「わかる授業、楽しい授業を教職員がめざすこと」となっているほか、上記に加えて「わからない」「その他」という選択肢があったが、今回は該当する選択肢がないため表示していない。

(6) 問 64 今後力を入れて行う必要があると思う教育施策や教育事業

「特に充実をしていくべき」と「充実していく方がよい」の割合の合計に着目すると、「⑧いじめや暴力行為などの解消を図る取組の推進」における割合が最も高く 86.4%となっている。次いで、「①こどもたちが、ワクワクする授業の実施（80.5%）」、「⑨不登校児童生徒へのケアや支援の充実（80.1%）」となっている。

図表 II-184 今後力を入れて行う必要があると思う教育施策や教育事業



(※) 学校園の適正規模や適正配置：少子化が進む中、学校や幼稚園において、どの程度の規模や人数で教育を行うことが望ましいのかを考えていくこと。

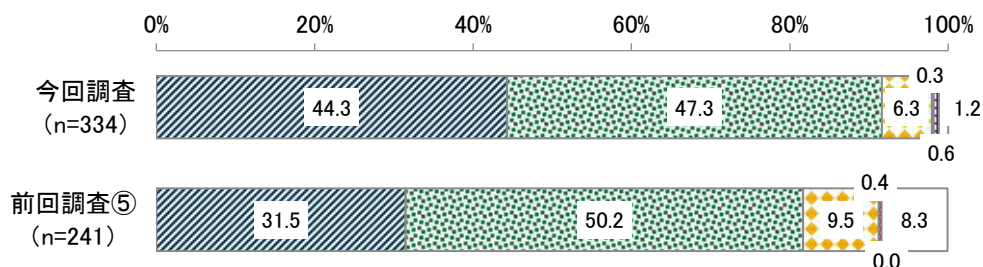
各施策について、高校生までの子どもがいる回答者に限定し、前回調査⑤と比較を行った。

① こどもたちが、ワクワクする授業の実施

「充実していく方がよい」が 47.3%で最も高く、次いで、「特に充実をしていくべき」が 44.3%、「現状でよい」が 6.3%となっている。

前回調査⑤と比較すると、「特に充実をしていくべき」の割合が上昇し、「現状でよい」の割合が低下している。

図表 II-185 こどもたちが、ワクワクする授業の実施



(注1) 前回調査⑤では、項目が「子どもたちが、「わかる」と実感できる授業の実施」となっている。

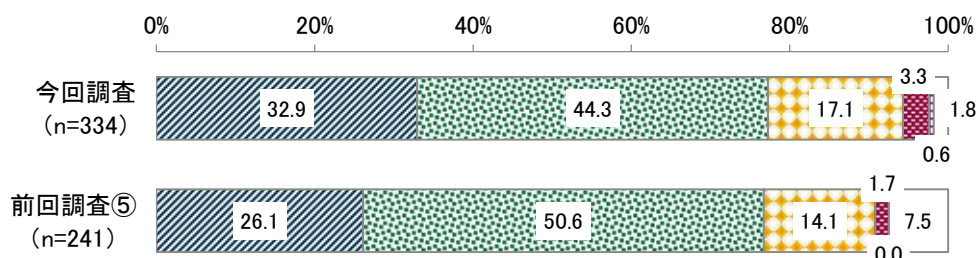
(注2) 前回調査⑤では、「高校生までの子どもがいる回答者」に限定して聞いていたため、今回調査のデータから「高校生までの子どもが居る世帯」のみを抽出した結果と比較している。以下②まで同様。

② 少人数・習熟度別学習など、多様な形態での学習の実施

「充実していく方がよい」が 44.3%で最も高く、次いで、「特に充実をしていくべき」が 32.9%、「現状でよい」が 17.1%となっている。

前回調査⑤と比較すると、「特に充実をしていくべき」「現状で良い」の割合が上昇している。

図表 II-186 少人数・習熟度別学習など、多様な形態での学習の実施

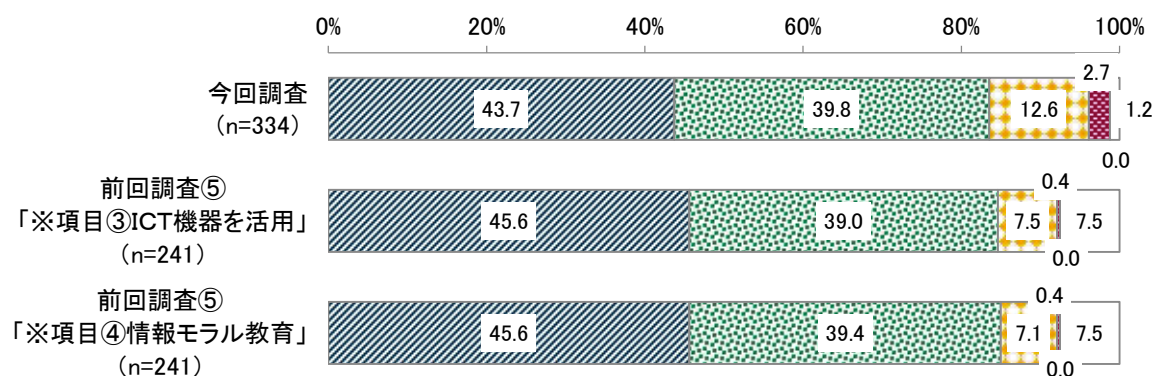


③ 授業における ICT 機器活用や、SNS の使い方など、情報モラル教育の推進

「特に充実をしていくべき」が 43.7%で最も高く、次いで、「充実していく方がよい」が 39.8%、「現状でよい」が 12.6%となっている。

前回調査⑤と比較すると、「現状でよい」の割合が上昇している。

図表 II- 187 授業における ICT 機器活用や、SNS の使い方など、情報モラル教育の推進



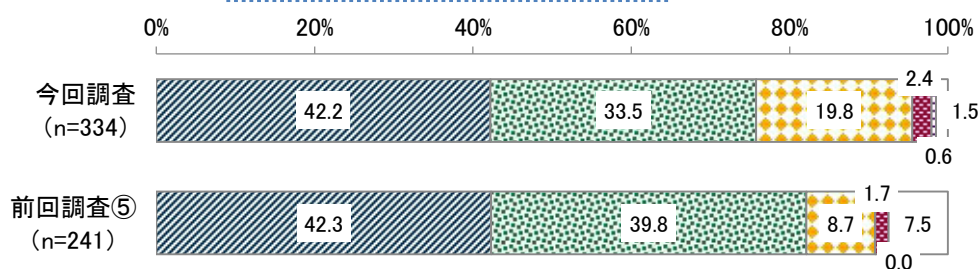
(※) 前回調査⑤は、「項目③：コンピュータなどの I C T 機器を活用した授業の推進」、「項目④：情報モラル教育の推進（携帯電話・スマートフォンや S N S の正しい使い方）」の 2 項目に分かれていた。

④ 外国語教育の充実

「特に充実をしていくべき」が 42.2%で最も高く、次いで、「充実していく方がよい」が 33.5%、「現状でよい」が 19.8%となっている。

前回調査⑤と比較すると、「現状でよい」の割合が上昇している。

図表 II- 188 外国語教育の充実

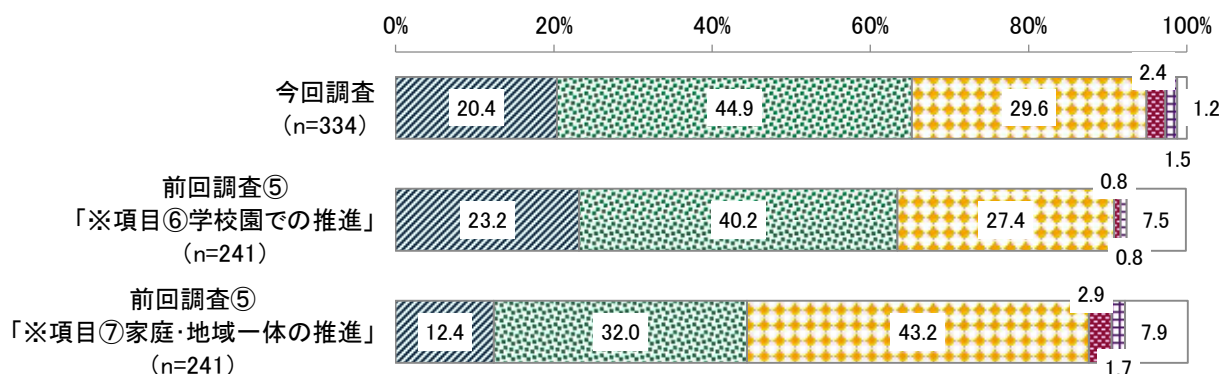


⑤ 学校や家庭・地域が一体となった読書の取組の推進

「充実していく方がよい」が 44.9%で最も高く、次いで、「現状でよい」が 29.6%、「特に充実をしていくべき」が 20.4%となっている。

前回調査⑤と比較すると、「学校園における読書の取組の推進」については大きな変化はみられない。「家庭・地域と一体となった「読書のまちづくり」の推進」については、「特に充実をしていくべき」「充実していく方がよい」の割合が増加し、「現状でよい」の割合が減少している。

図表 II-189 学校や家庭・地域が一体となった読書の取組の推進



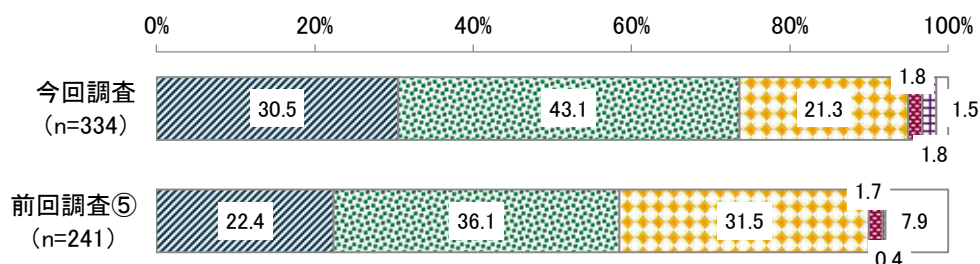
(※) 前回調査⑤は、「項目⑥：学校園における読書の取組の推進」、「項目⑦：家庭・地域と一体となった「読書のまちづくり」の推進」の2項目に分かれていた。

⑥ 豊かな心をはぐくむ道德教育の推進

「充実していく方がよい」が 43.1%で最も高く、次いで、「特に充実をしていくべき」が 30.5%、「現状でよい」が 21.3%となっている。

前回調査⑤と比較すると、「特に充実をしていくべき」「充実していく方がよい」の割合が上昇し、「現状でよい」の割合が低下している。

図表 II-190 豊かな心をはぐくむ道德教育の推進

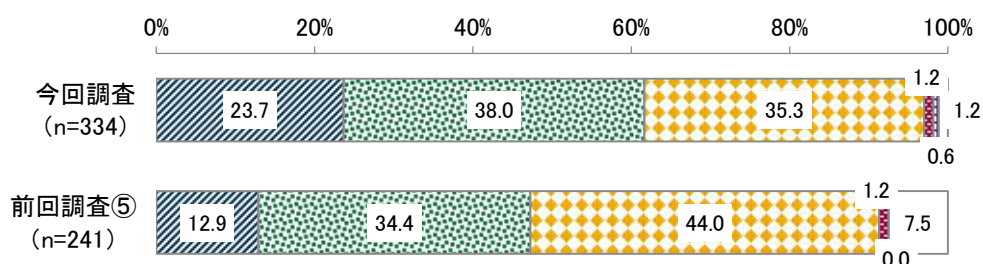


⑦ 阪神・淡路大震災を風化させないなど、防災教育の実施

「充実していく方がよい」が 38.0%で最も高く、次いで、「現状でよい」が 35.3%、「特に充実をしていくべき」が 23.7%となっている。

前回調査⑤と比較すると、「特に充実をしていくべき」「充実していく方がよい」の割合が増加し、「現状でよい」の割合が低下している。

図表 II-191 阪神・淡路大震災を風化させないなど、防災教育の実施

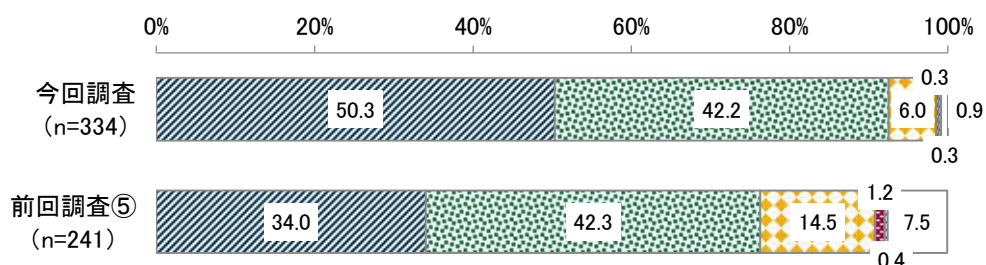


⑧ いじめや暴力行為などの解消を図る取組の推進

「特に充実をしていくべき」が 50.3%で最も高く、次いで、「充実していく方がよい」が 42.2%、「現状でよい」が 6.0%となっている。

前回調査⑤と比較すると、「特に充実をしていくべき」の割合が大幅に増加し、「現状でよい」の割合が低下している。

図表 II-192 いじめや暴力行為などの解消を図る取組の推進

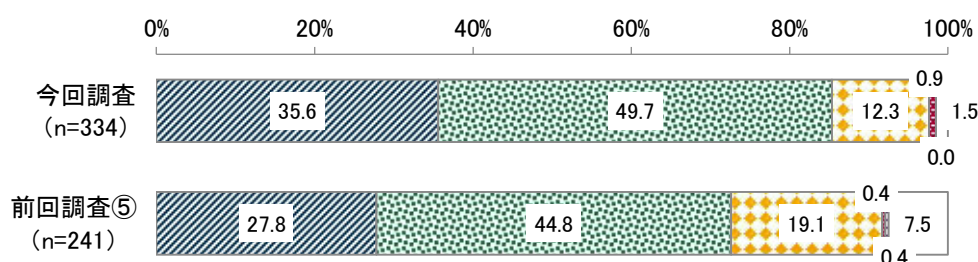


⑨ 不登校児童生徒へのケアや支援の充実

「充実していく方がよい」が 49.7%で最も高く、次いで、「特に充実をしていくべき」が 35.6%、「現状でよい」が 12.3%となっている。

前回調査⑤と比較すると、「特に充実をしていくべき」「充実していく方がよい」の割合が増加し、「現状でよい」の割合が低下している。

図表 II- 193 不登校児童生徒へのケアや支援の充実

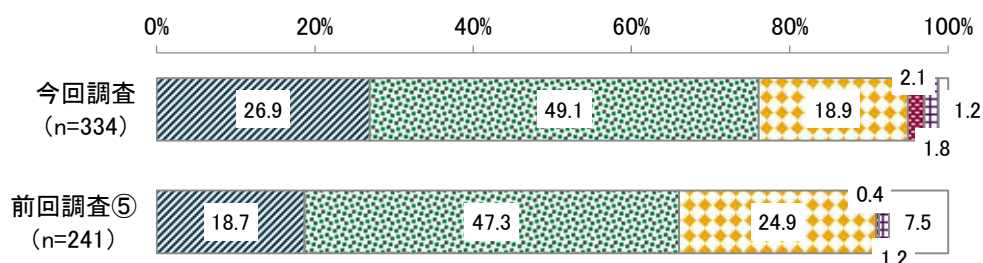


⑩ 障がいの有無に関わらず子どもたちが共に学ぶことができる仕組みづくり

「充実していく方がよい」が 49.1%で最も高く、次いで、「特に充実をしていくべき」が 26.9%、「現状でよい」が 18.9%となっている。

前回調査⑤と比較すると、「特に充実をしていくべき」「充実していく方がよい」の割合が増加し、「現状でよい」の割合が低下している。

図表 II- 194 障がいの有無に関わらず子どもたちが共に学ぶことができる仕組みづくり

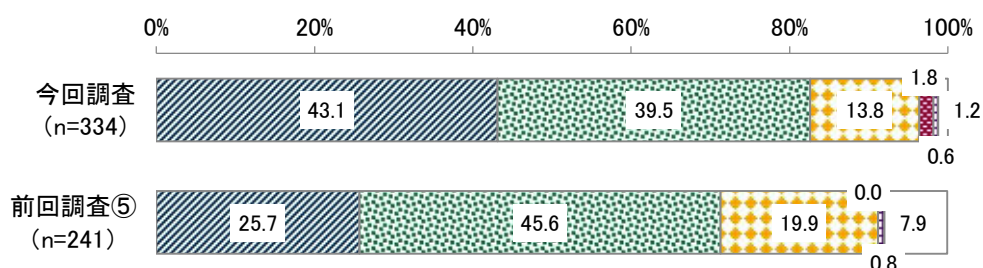


⑪ すべてのこどもが公平で質の高い教育を受けられる支援の充実

「特に充実をしていくべき」が 43.1%で最も高く、次いで、「充実していく方がよい」が 39.5%、「現状でよい」が 13.8%となっている。

前回調査⑤と比較すると、「特に充実をしていくべき」「充実していく方がよい」の割合が増加し、「現状でよい」の割合が低下している。

図表 II- 195 すべてのこどもが公平で質の高い教育を受けられる支援の充実

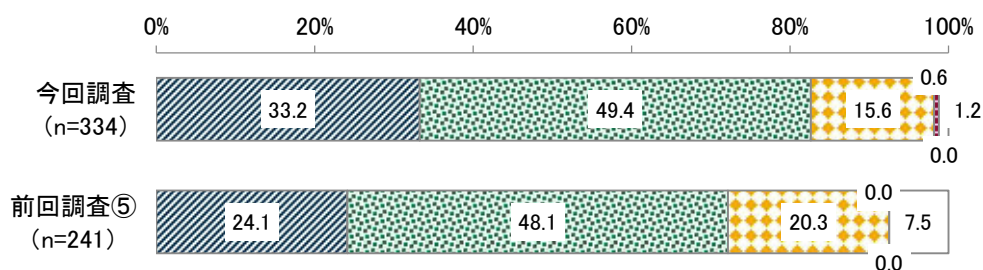


⑫ こどもの体力向上の取組の充実

「充実していく方がよい」が 49.4%で最も高く、次いで、「特に充実をしていくべき」が 33.2%、「現状でよい」が 15.6%となっている。

前回調査⑤と比較すると、「特に充実をしていくべき」の割合が増加し、「現状でよい」の割合が低下している。

図表 II- 196 こどもの体力向上の取組の充実

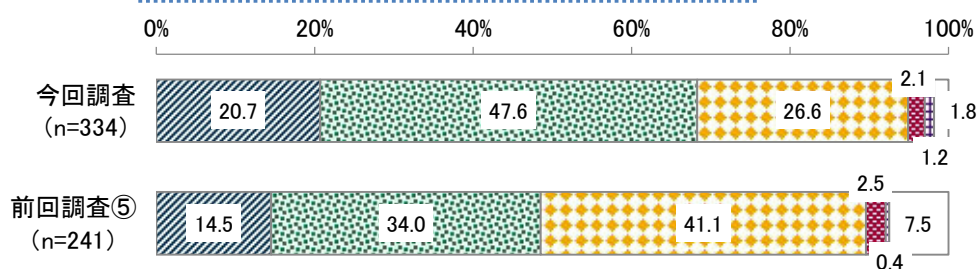


⑬ 小学校と中学校との連携の推進

「充実していく方がよい」が 47.6%で最も高く、次いで、「現状でよい」が 26.6%、「特に充実をしていくべき」が 20.7%となっている。

前回調査⑤と比較すると、「特に充実をしていくべき」「充実していく方がよい」の割合が増加し、「現状でよい」の割合が低下している。

図表 II- 197 小学校と中学校との連携の推進

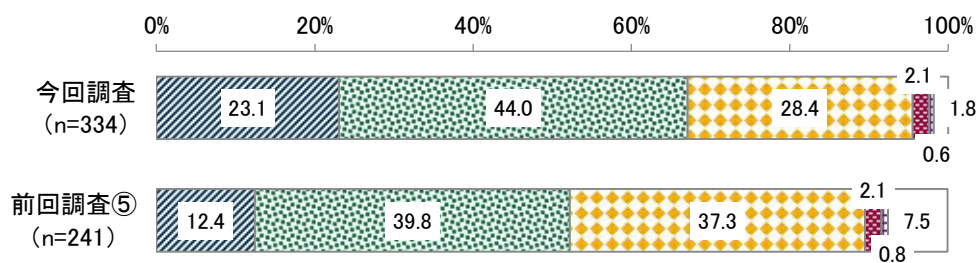


⑭ 幼稚園、保育所（園）、認定こども園と小学校との連携の推進

「充実していく方がよい」が 44.0%で最も高く、次いで、「現状でよい」が 28.4%、「特に充実をしていくべき」が 23.1%となっている。

前回調査⑤と比較すると、「特に充実をしていくべき」「充実していく方がよい」の割合が増加し、「現状でよい」の割合が低下している。

図表 II- 198 幼稚園、保育所（園）、認定こども園と小学校との連携の推進

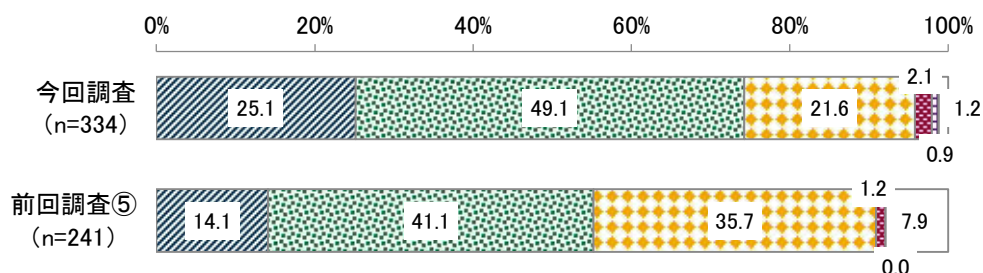


⑮ 発達や学びの連続性をふまえた幼児教育の推進

「充実していく方がよい」が 49.1%で最も高く、次いで、「特に充実をしていくべき」が 25.1%、「現状でよい」が 21.6%となっている。

前回調査⑤と比較すると、「特に充実をしていくべき」「充実していく方がよい」の割合が増加し、「現状でよい」の割合が低下している。

図表 II-199 発達や学びの連続性をふまえた幼児教育の推進

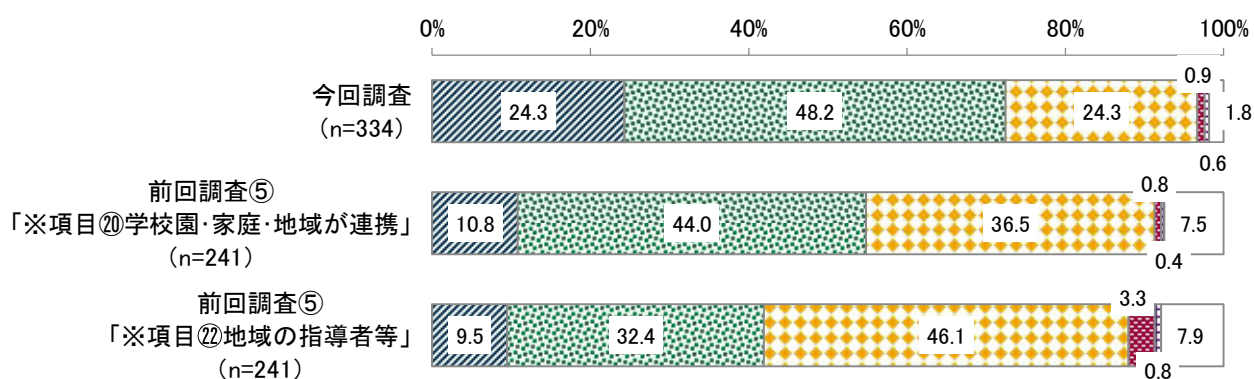


⑯ 地域の指導者の活用など、学校園・家庭・地域が連携して子育てや教育をする取組の充実

「充実していく方がよい」が 48.2%で最も高く、次いで、「特に充実をしていくべき」が 24.3%、「現状でよい」が 24.3%となっている。

前回調査⑤と比較すると、統合前の 2 項目「学校園・家庭・地域が連携して子育てをしていくための取組の充実」、「地域の指導者等を活用した授業の実施」どちらと比較しても、「特に充実をしていくべき」「充実していく方がよい」の割合が増加し、「現状でよい」の割合が低下している。

図表 II-200 地域の指導者の活用など、学校園・家庭・地域が連携して子育てや教育をする取組の充実



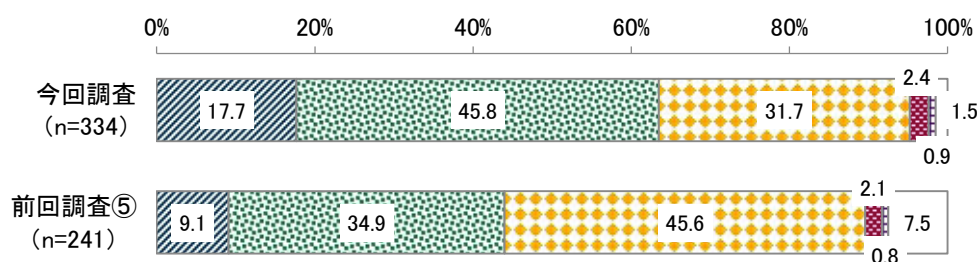
(※) 前回調査⑤は、「項目⑳：学校園・家庭・地域が連携して子育てをしていくための取組の充実」、「項目㉒：地域の指導者等を活用した授業の実施」の 2 項目に分かれていた。

⑰ 地域や児童生徒の実態や課題に応じた人権教育の推進

「充実していく方がよい」が 45.8%で最も高く、次いで、「現状でよい」が 31.7%、「特に充実をしていくべき」が 17.7%となっている。

前回調査⑤と比較すると、「特に充実をしていくべき」「充実していく方がよい」の割合が増加し、「現状でよい」の割合が低下している。

図表 II-201 地域や児童生徒の実態や課題に応じた人権教育の推進

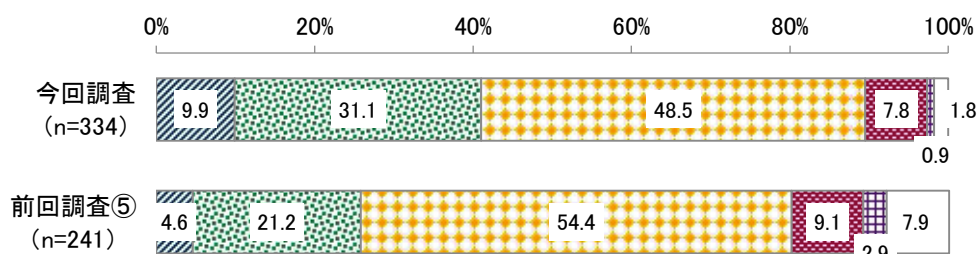


⑱ 家庭・地域の教育力向上を図るための講演会、講座、フォーラムの充実

「現状でよい」が 48.5%で最も高く、次いで、「充実していく方がよい」が 31.1%、「特に充実をしていくべき」が 9.9%となっている。

前回調査⑤と比較すると、「特に充実をしていくべき」「充実していく方がよい」の割合が増加し、「現状でよい」の割合が低下している。

図表 II-202 家庭・地域の教育力向上を図るための講演会、講座、フォーラムの充実

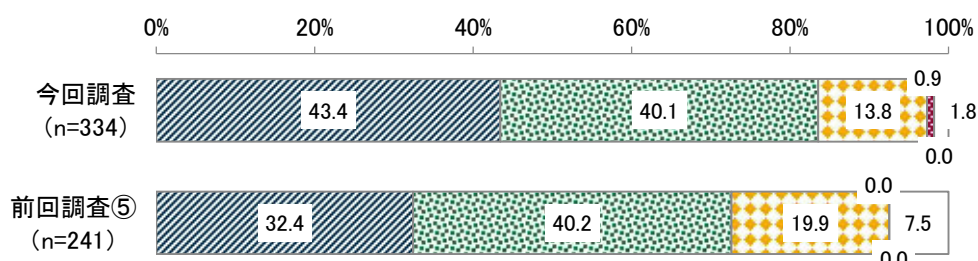


⑱ 教職員の資質や指導力の向上

「特に充実をしていくべき」が 43.4%で最も高く、次いで、「充実していく方がよい」が 40.1%、「現状でよい」が 13.8%となっている。

前回調査⑤と比較すると、「特に充実をしていくべき」の割合が増加し、「現状でよい」の割合が低下している。

図表 II- 203 教職員の資質や指導力の向上

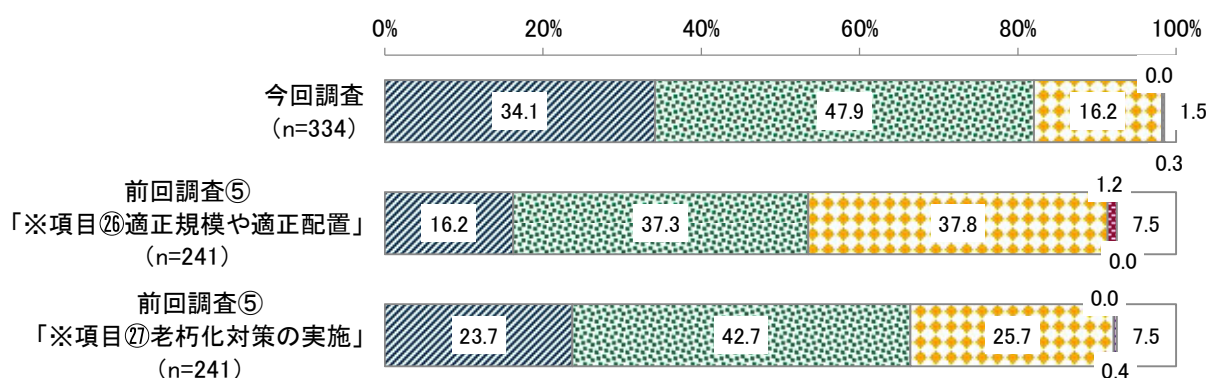


⑳ 学校園の適正規模や適正配置・老朽化等についての対策の検討

「充実していく方がよい」が 47.9%で最も高く、次いで、「特に充実をしていくべき」が 34.1%、「現状でよい」が 16.2%となっている。

前回調査⑤と比較すると、統合前の 2 項目「学校園の適正規模や適正配置についての検討」、「学校校舎・施設の老朽化対策の実施」どちらと比較しても、「特に充実をしていくべき」「充実していく方がよい」の割合が増加し、「現状でよい」の割合が低下している。

図表 II- 204 学校園の適正規模や適正配置・老朽化等についての対策の検討



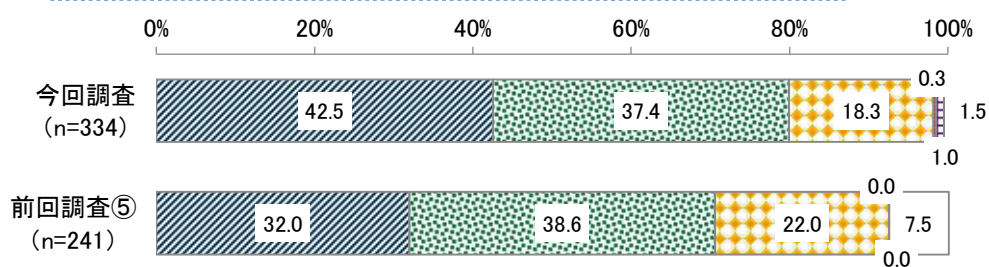
(※) 前回調査⑤は、「項目②⑥：学校園の適正規模や適正配置についての検討」、「項目②⑦：学校校舎・施設の老朽化対策の実施」の 2 項目に分かれていた。

②① こどもの通学路の安全確保に係る取組の実施

「特に充実をしていくべき」が 42.5%で最も高く、次いで、「充実していく方がよい」が 37.4%、「現状でよい」が 18.3%となっている。

前回調査⑤と比較すると、「特に充実をしていくべき」の割合が増加し、「現状でよい」の割合が低下している。

図表 II-205 こどもの通学路の安全確保に係る取組の実施

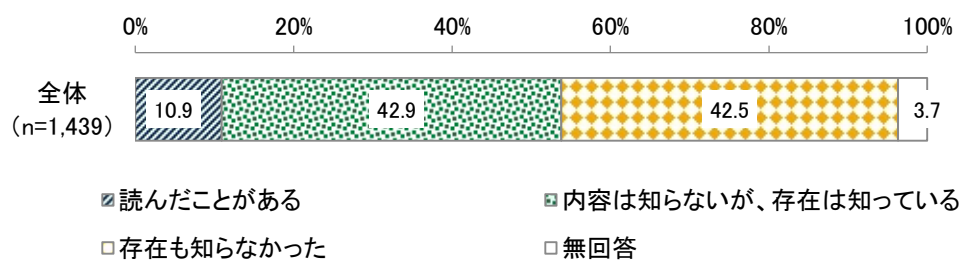


9. 総合計画・各種計画について

(1) 問 65 総合計画の認知度

「内容は知らないが、存在は知っている」の割合が最も高く 42.9%となっている。次いで、「存在も知らなかった（42.5%）」、「読んだことがある（10.9%）」となっている。

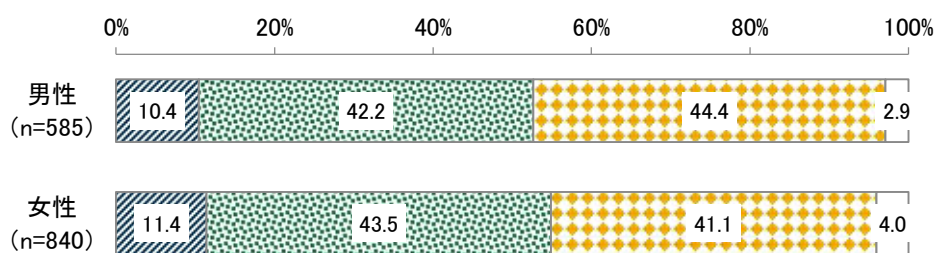
図表 II-206 総合計画の認知度

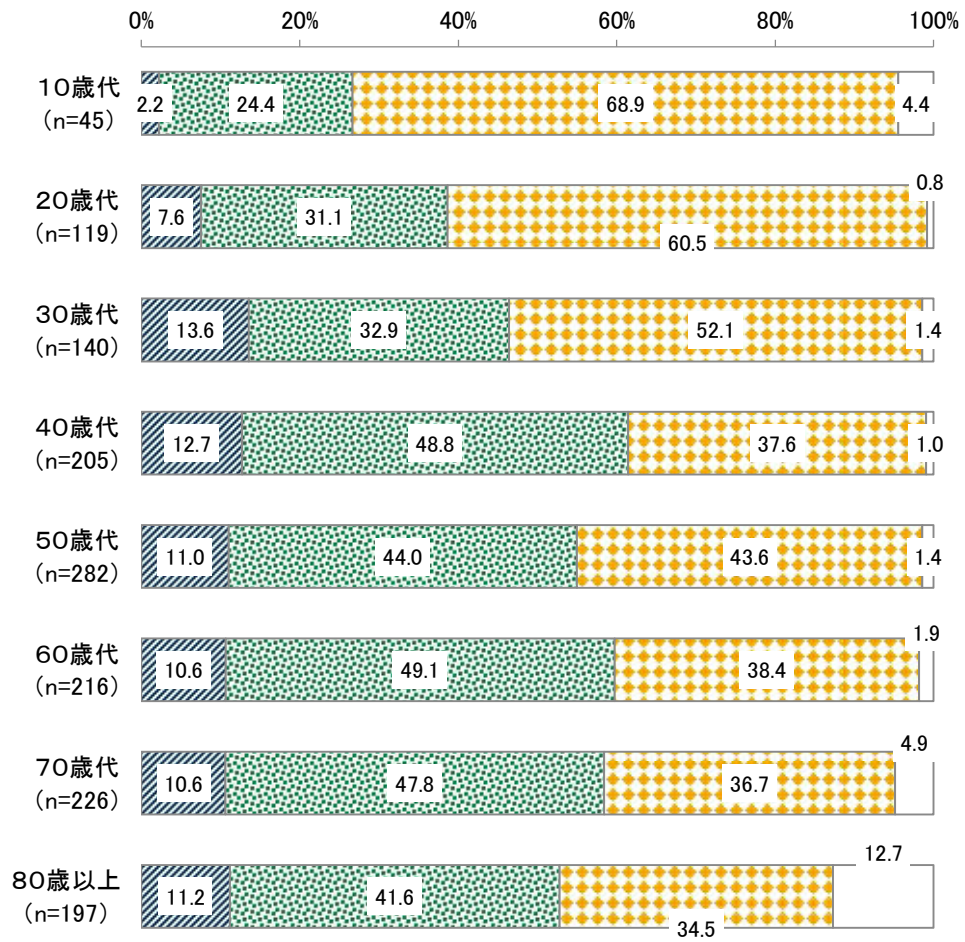


男女で総合計画の認知度に大きな差異はみられない。

年代別にみると、40 代以降はそれ以下の年代と比較して、「存在も知らなかった」の割合が低くなっている。

図表 II-207 総合計画の認知度（クロス集計）





(2) 問 66 まちづくり全般について、ご意見など

芦屋市のまちづくり全般について、延べ 758 件の回答があった。

施策項目別に整理すると、「⑩持続可能なインフラ整備が進んでいる」が 97 件で最も多く、次いで「②自らの未来への道を切り拓く力が育っている」が 96 件、「⑨住宅都市の魅力が受け継がれ、高められている」が 87 件、「⑥良好な生活環境が整い魅力的な暮らしが創出されている」が 84 件、「⑬急速な社会変化に対応できる組織となっている」が 83 件と続いている。

図表 II-208 施策項目別の整理結果

施策名	延べ件数	前回調査①
まちづくり全体について		201
①誰もが安心して生み育てられる環境が充実している	24	102
②自らの未来への道を切り拓く力が育っている	96	24
③生涯を通じた学びの文化が醸成されている	19	24
④あらゆる人が心地よく暮らせるまちづくりが進んでいる	72	146
⑤健康になるまちづくりが進んでいる	13	6
⑥良好な生活環境が整い魅力的な暮らしが創出されている	84	104
⑦災害に強いまちづくりが進んでいる	16	16
⑧日常の安全安心が確保されている	43	127
⑨住宅都市の魅力が受け継がれ、高められている	87	37
⑩持続可能なインフラ整備が進んでいる	97	33
⑪協働の意欲が高まり地域住民主体のまちづくりが進んでいる	29	9
⑫人口減少社会に対応した健全で効果的な行財政運営が行われている	18	12
⑬急速な社会変化に対応できる組織となっている	83	89
その他	77	198
合 計	758	1,128

(注) 前回調査⑤では、「②自らの未来への道を切り拓く力が育っている」は「②未来への道を切り拓く力が育っている」となっている。また、前回調査⑤では「まちづくり全体について」という項目があったが今回は該当項目での集計は行われていない。

図表 II-209 施策項目別の整理結果（詳細）

意見分類	延べ件数
①誰もが安心して生み育てられる環境が充実している	24
子育てしやすいまちづくりをしてほしい	8
子育て支援の拡充をしてほしい	4
保育料を見直してほしい	4
その他	8
②自らの未来への道を切り拓く力が育っている	96
こども・若い世代に住みやすいまちづくりをしてほしい	34
教育に力を入れたまちづくりをしてほしい	33
学校現場の環境を改善すべき	10
教職員の労働環境の改善をしてほしい	8
不登校・いじめ対策をしてほしい	7
その他	4
③生涯を通じた学びの文化が醸成されている	19
文化芸術に力を入れてほしい	9
その他	10
④あらゆる人が心地よく暮らせるまちづくりが進んでいる	72
高齢者に対する施策を充実させてほしい	36
全ての人に優しいまちづくりをしてほしい	18
障がい福祉を充実させてほしい	10
外国人について	6
その他	2
⑤健康になるまちづくりが進んでいる	13
医療資源を充実させてほしい	8
その他	5
⑥良好な生活環境が整い魅力的な暮らしが創出されている	84
商業施設・飲食店等を整備してほしい	21
喫煙マナーが悪い・受動喫煙対策をしてほしい	8
ごみ分別ルールを研究・啓発してほしい	6
ごみ袋を見直してほしい	6
娯楽施設を増やしてほしい	5
ごみ収集の回数・人数を増やして欲しい	5
ペット共生を目指してほしい	5
ごみ収集場所を検討してほしい	4
地域活性化に取り組んでほしい	4
鳥害への対策をしてほしい	3
その他	17
⑦災害に強いまちづくりが進んでいる	16
災害時の対策・防災の強化してほしい	10
電柱の地中化を推進してほしい	6
⑧日常の安全安心が確保されている	43
自転車の運転マナー・ルール啓発をしてほしい	8
安全安心なまちづくりをしてほしい	11
車・バイクのマナーが悪い	7
防犯対策してほしい	6
街灯を設置してほしい	6
路上駐車を取り締まりを強化してほしい	5

⑨住宅都市の魅力が受け継がれ、高められている	87
自然豊かなをまちなみをこのまま維持してほしい	17
街路樹や草を整備してほしい	15
住み続けたい・住んでみたいと思えるまちづくりをしてほしい	13
公園を整備・増やしてほしい	10
魅力的なまちづくりをしてほしい	9
騒音対策をしてほしい	5
空き家の活用・対策をしてほしい	4
公園は充実している	3
ドッグランの充実をしてほしい	3
その他	8
⑩持続可能なインフラ整備が進んでいる	97
道路環境を整備してほしい	23
交通の利便性を向上させてほしい	22
JR芦屋駅南側開発への期待	15
歩道を整備してほしい	9
駅・駅周辺を整備してほしい	8
踏切対策・高架化をしてほしい	7
その他JR芦屋駅南側に対する疑問	5
駐輪場を増設してほしい	3
自転車道を整備してほしい	3
その他	2
⑪協働の意欲が高まり地域住民主体のまちづくりが進んでいる	29
地域交流を活性化させてほしい	17
市政へ意見を出す機会が多くなればいい	8
その他	4
⑫人口減少社会に対応した健全で効果的な行財政運営が行われている	18
行財政改革が必要	5
税金が高い	5
その他	8
⑬急速な社会変化に対応できる組織となっている	83
市・市職員への応援・感謝	38
情報発信に力を入れてほしい	16
市政全般への提言	9
「芦屋らしさ」を重視してほしい	9
市職員の対応を改善してほしい	4
その他	7
その他	77
市長への応援・期待	21
市議会に対する意見	9
その他	47